

府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第7期）策定
のためのアンケート調査報告書（中間報告書）

1. 市民一般調査・・・P 1～46
2. 要支援・要介護認定者調査・・・P 47～87

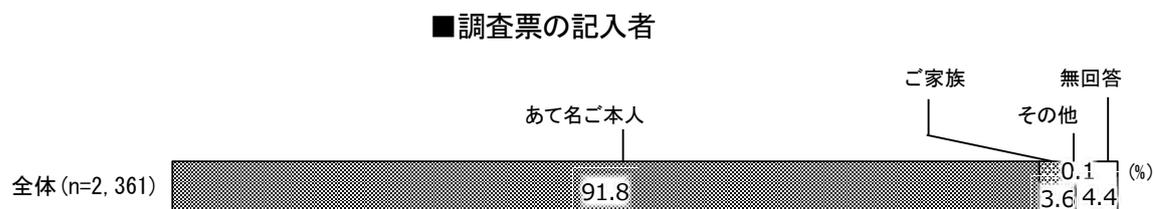
※上記以外は未作成

1. 市民一般調査

1 調査票記入にあたって

(1) 調査票の記入者

調査票の記入者は、「あて名ご本人」(91.8%)が最も多く、「ご家族」(3.6%)、「その他」(0.1%)が続いている。



2 基本属性

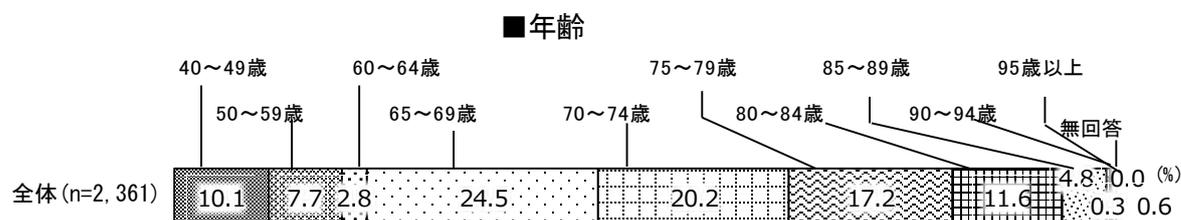
(1) 性別 (F 1)

性別は、「男性」が46.0%、「女性」が52.6%となっている。



(2) 年齢 (F 2)

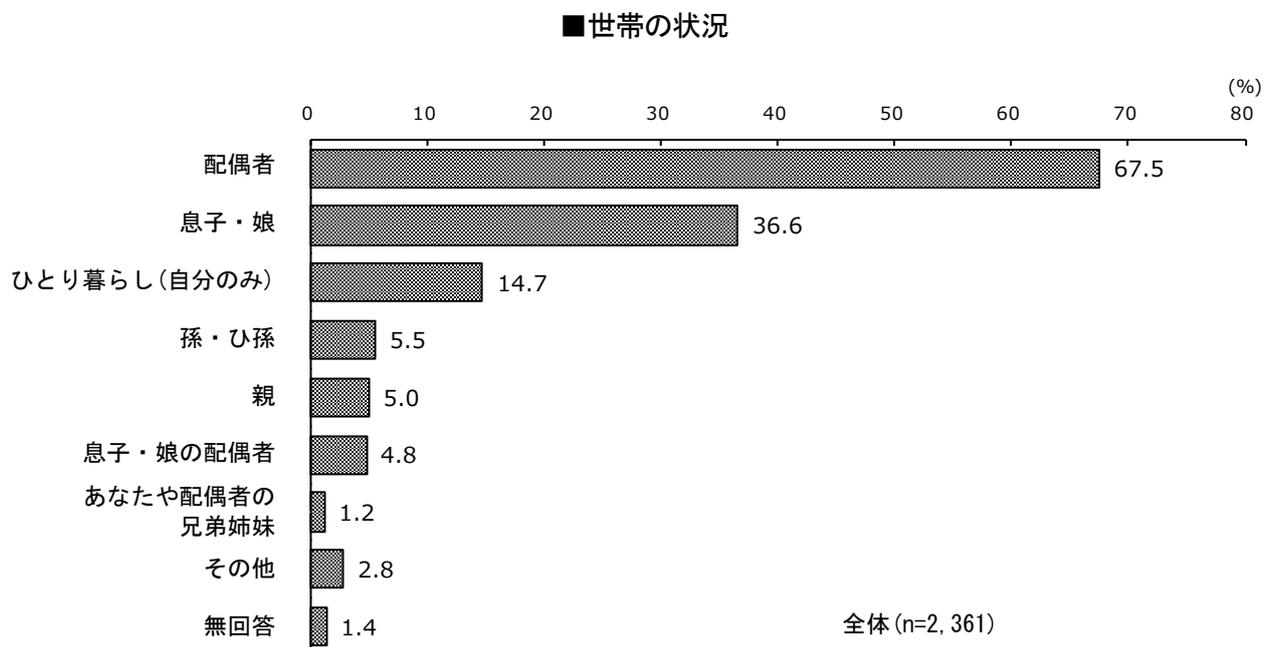
年齢は、「65～69歳」(24.5%)が最も多く、「70～74歳」(20.2%)、「75～79歳」(17.2%)が続いている。



1. 市民一般調査

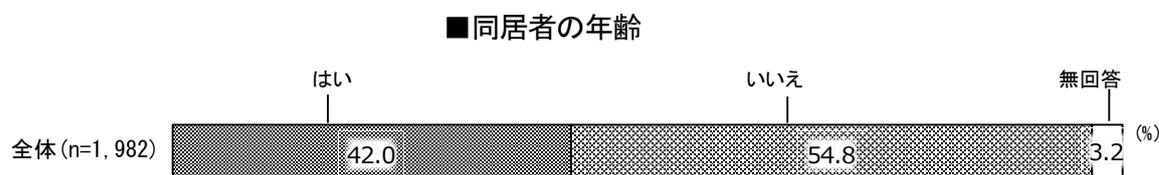
(3) 世帯の状況 (F 3)

世帯の状況は、「配偶者」と同居 (67.5%) が最も多く、「息子・娘」と同居 (36.6%)、「ひとり暮らし(自分のみ)」 (14.7%) が続いている。



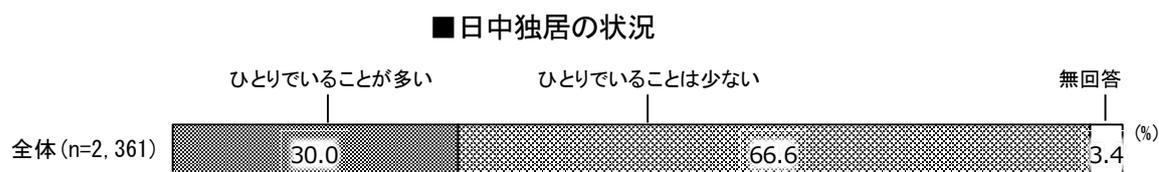
(4) 同居者の年齢 (F 3-1)

世帯の状況で「ひとり暮らし(自分のみ)」以外と回答した人に同居者の年齢が全員 65 歳以上かをきいたところ、「はい」が 42.0%、「いいえ」が 54.8%となっている。



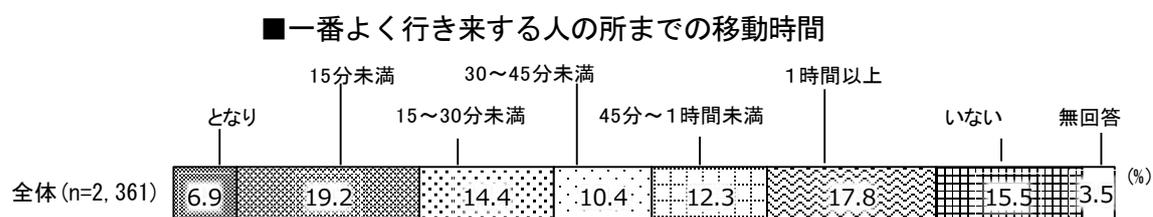
(5) 日中独居の状況 (F 4)

日中独居の状況は、「ひとりであることが多い」が 30.0%、「ひとりであることは少ない」が 66.6%となっている。



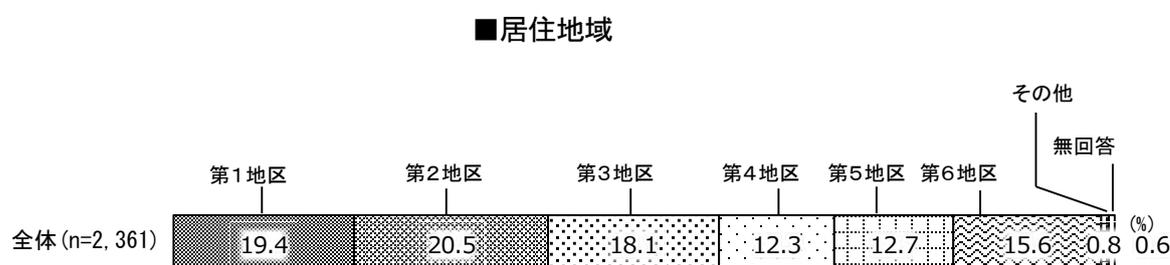
(6) 一番よく行き来する人の所までの移動時間 (F 5)

一番よく行き来する人の所までの移動にかかる時間は、「15分未満」(19.2%)が最も多く、「1時間以上」(17.8%)、「いない」(15.5%)が続いている。



(7) 居住地域 (F 6)

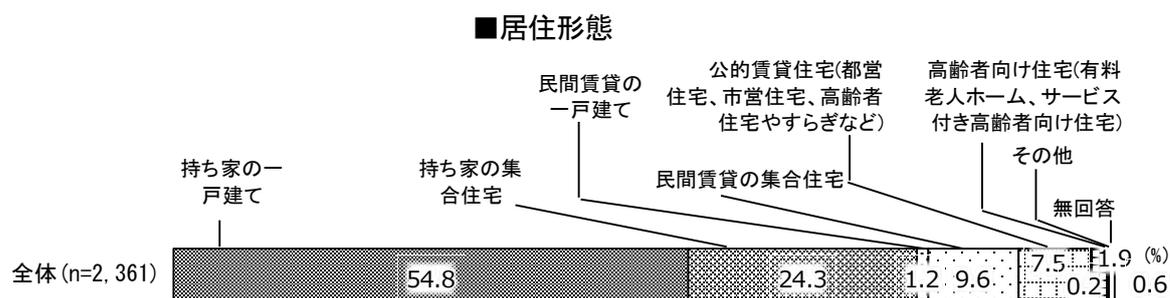
居住地域は、「第2地区」(20.5%)が最も多く、「第1地区」(19.4%)、「第3地区」(18.1%)が続いている。



3 住まいについて

(1) 居住形態 (問1)

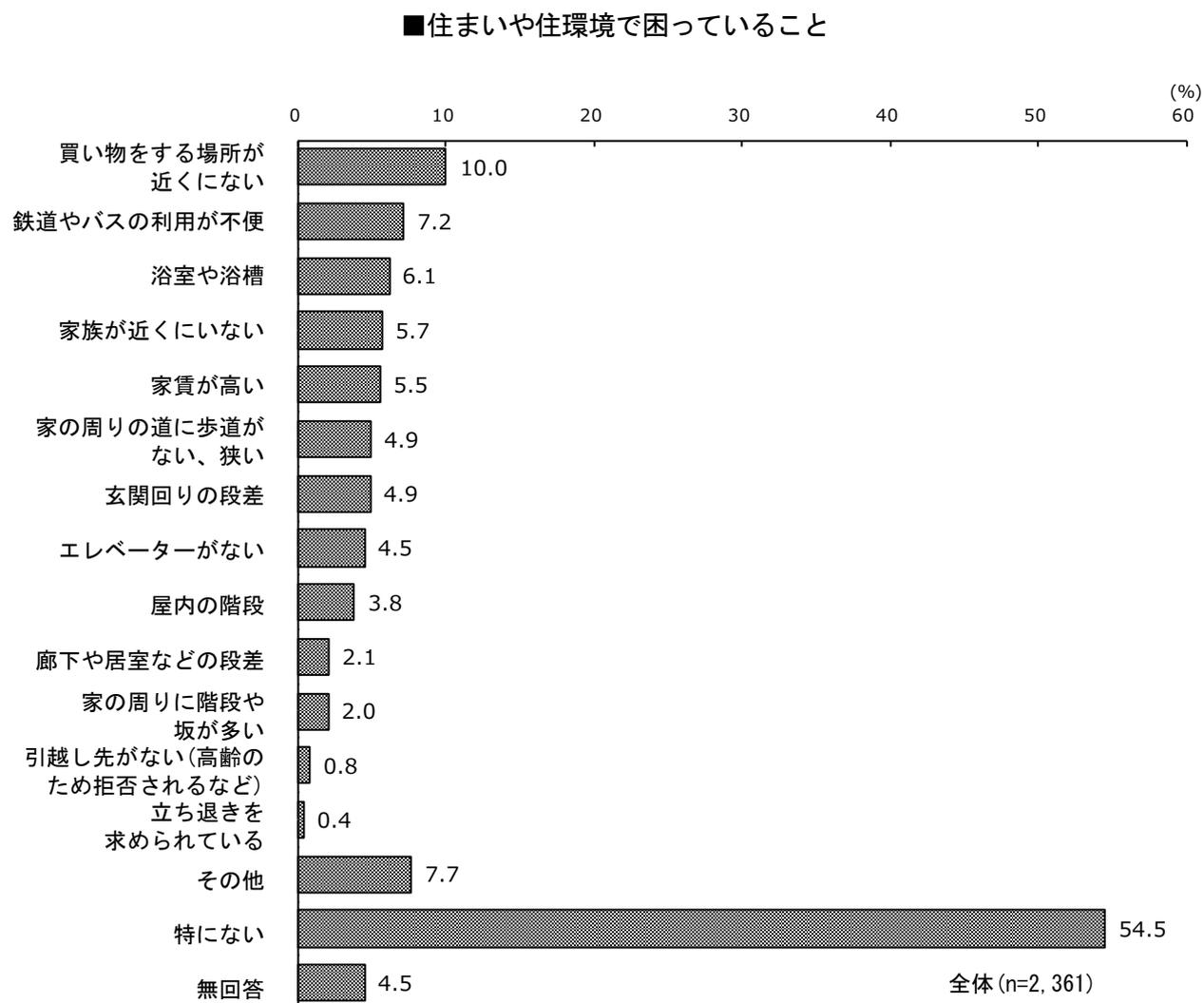
居住形態は、「持ち家の一戸建て」(54.8%)が最も多く、「持ち家の集合住宅」(24.3%)、「民間賃貸の集合住宅」(9.6%)が続いている。



1. 市民一般調査

(2) 住まいや住環境で困っていること (問2)

住まいや住環境で困っていることは、「特にない」(54.5%)が最も多い。困っていることでは「買い物をする場所が近くにない」(10.0%)が最も多く、「鉄道やバスの利用が不便」(7.2%)、「浴室や浴槽」(6.1%)が続いている。



4 就労状況について

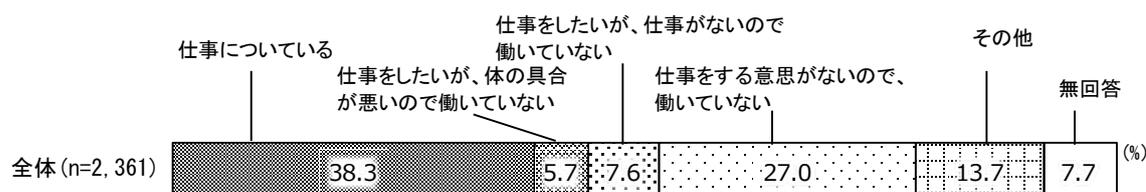
(1) 収入のある仕事の有無（問3）

収入のある仕事の有無は、「仕事についている」（38.3%）が最も多く、「仕事をする意思がないので、働いていない」（27.0%）、「仕事をしたいが、仕事がないので働いていない」（7.6%）が続いている。

性別にみると、男性は「仕事についている」（46.4%）が女性に比べ高くなっている。

また、年齢別にみると、40～64歳は「仕事についている」（78.3%）が65歳以上に比べ高く、65歳以上は「仕事をする意思がないので、働いていない」（32.4%）が40～64歳に比べ高くなっている。

■収入のある仕事の有無



		仕事についている	仕事をしたいが、体の具合が悪いので働いていない	仕事をしたいが、仕事がないので働いていない	仕事をする意思がないので働いていない	その他	無回答
全体(n=2,361)		38.3	5.7	7.6	27.0	13.7	7.7
性別	男性(n=1,085)	46.4	6.0	8.4	24.4	10.9	4.0
	女性(n=1,243)	31.5	5.3	6.8	29.4	16.3	10.6
年齢別	40～64歳(n=492)	78.3	4.5	4.1	6.7	6.1	0.4
	65歳以上(n=1,869)	27.8	6.0	8.5	32.4	15.7	9.6

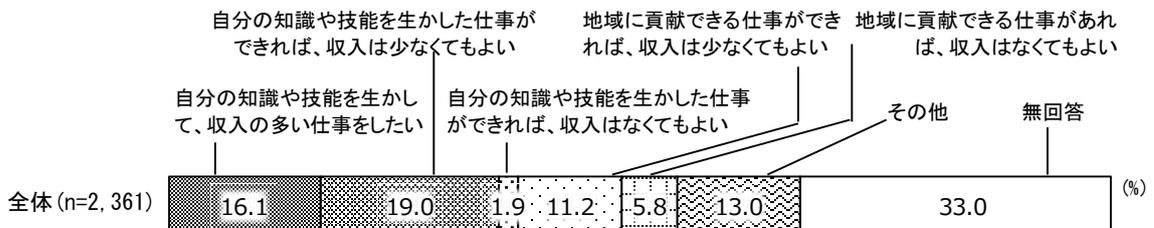
1. 市民一般調査

(2) 現在及び今後の就労希望 (問4)

現在及び今後の就労希望は、「自分の知識や技能を生かした仕事ができれば、収入は少なくてもよい」(19.0%)が最も多く、「自分の知識や技能を生かして、収入の多い仕事をしたい」(16.1%)、「地域に貢献できる仕事ができれば、収入は少なくてもよい」(11.2%)が続いている。

年齢別にみると、40～64歳は「自分の知識や技能を生かして、収入の多い仕事をしたい」(44.9%)が65歳以上に比べ高くなっている。

■現在及び今後の就労希望



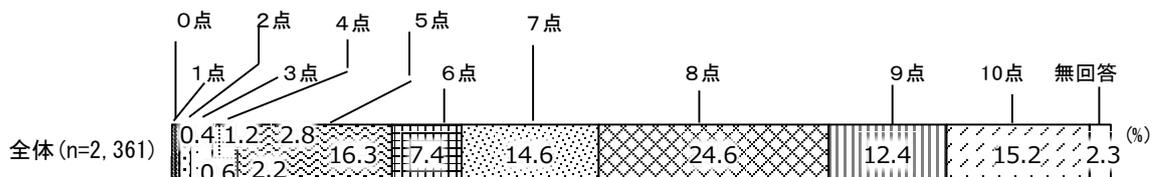
	自分の知識や技能を生かして、収入の多い仕事をしたい	自分の知識や技能を生かした仕事ができれば、収入は少なくてもよい	自分の知識や技能を生かして、収入の多い仕事をしたい	地域に貢献できる仕事ができれば、収入は少なくてもよい	自分の知識や技能を生かした仕事ができれば、収入は少なくてもよい	地域に貢献できる仕事があれば、収入は少なくてもよい	その他	無回答
全体(n=2,361)	16.1	19.0	1.9	11.2	5.8	13.0	33.0	33.0
年齢別								
40～64歳(n=492)	44.9	28.9	1.8	11.8	1.6	7.9	3.0	
65歳以上(n=1,869)	8.6	16.4	1.9	11.0	7.0	14.3	40.8	

5 健康づくりや介護予防などについて

(1) 幸福度 (問5)

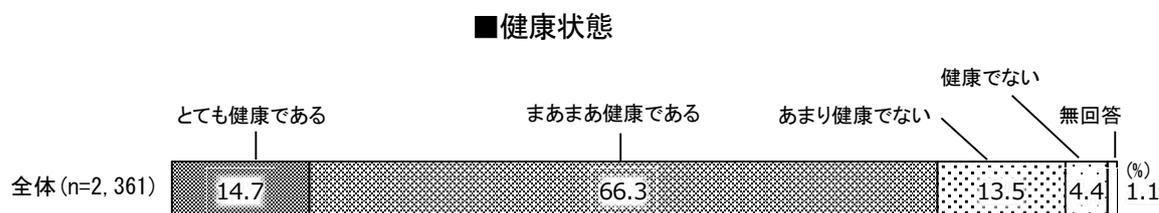
幸福度は、「8点」(24.6%)が最も多く、「5点」(16.3%)、「10点」(15.2%)が続いている。5点以上で90.5%を占めており、平均7.3点となっている。

■幸福度



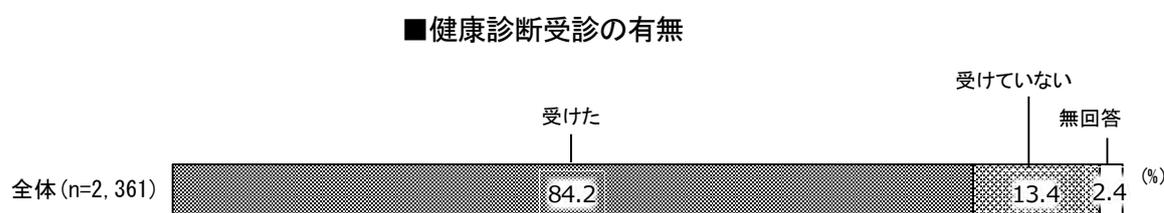
(2) 健康状態 (問6)

健康状態は、「まあまあ健康である」(66.3%)が最も多く、「とても健康である」(14.7%)、「あまり健康でない」(13.5%)が続いている。「とても健康である」と「まあまあ健康である」を合わせた“健康である”は81.0%となっている。



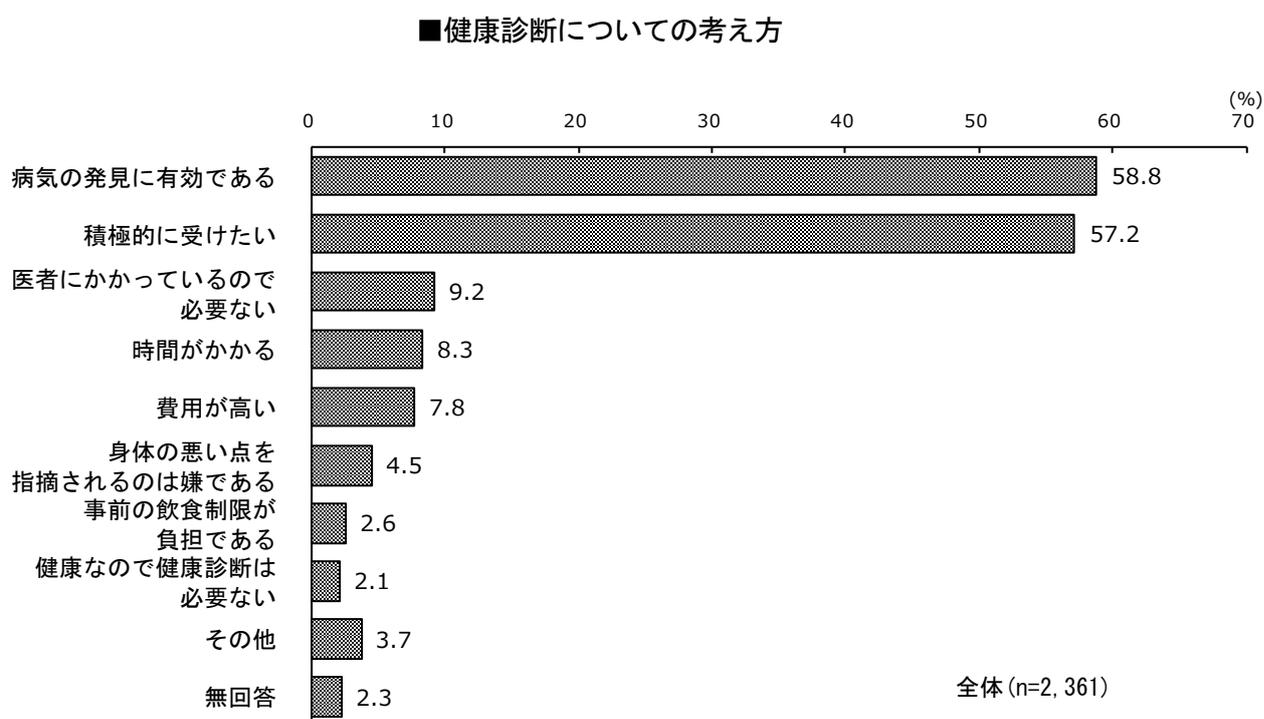
(3) 健康診断受診の有無 (問7)

健康診断受診の有無は、「受けた」が84.2%、「受けていない」が13.4%となっている。



(4) 健康診断についての考え方 (問8)

健康診断についての考え方は、「病気の発見に有効である」(58.8%)が最も多く、「積極的に受けたい」(57.2%)、「医者にかかっているので必要ない」(9.2%)が続いている。



1. 市民一般調査

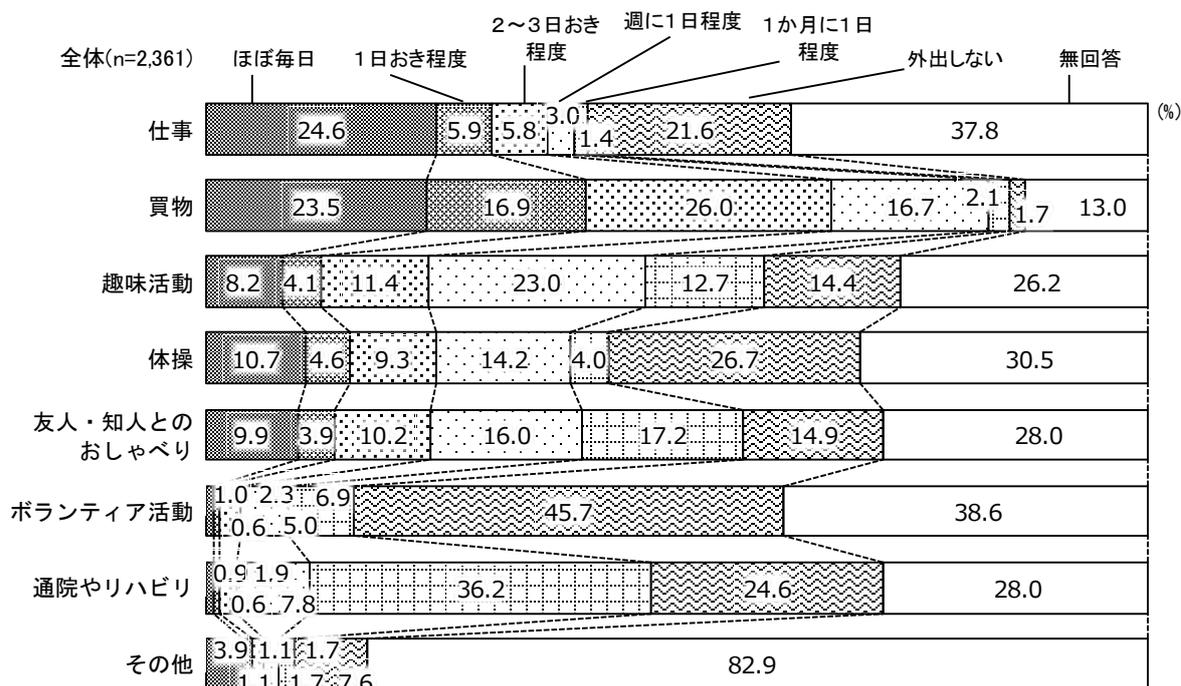
(5) 平日の外出の頻度（主たる目的別）（問9）

平日の外出の頻度について、「ほぼ毎日」から「1か月に1日程度」を合わせた“外出する”は『買物』（85.3%）が最も多く、『趣味活動』（59.4%）、『友人・知人とのおしゃべり』（57.2%）が続いている。外出の頻度を「ほぼ毎日」に限定すると、『仕事』（24.6%）が最も多く、『買物』（23.5%）、『体操』（10.7%）が続いている。

性別にみると、男性は『仕事』の「ほぼ毎日」（31.1%）が女性に比べ高く、女性は『買物』の「ほぼ毎日」（28.9%）が男性に比べ高くなっている。

また、年齢別にみると、40～64歳は『仕事』の「ほぼ毎日」（65.7%）が65歳以上に比べ高く、『趣味活動』『体操』『友人・知人とのおしゃべり』『ボランティア活動』『通院やりハビリ』の「外出しない」が65歳以上に比べ高くなっている。

■ 平日の外出の頻度（主たる目的別）



1. 市民一般調査

			ほぼ毎日	1日おき程度	2〜3日おき程度	週に1日程度	1か月に1日程度	外出しない	無回答
性別	仕事	全体(n=2,361)	24.6	5.9	5.8	3.0	1.4	21.6	37.8
		男性(n=1,085)	31.1	6.5	6.4	3.3	1.8	18.3	32.6
		女性(n=1,243)	19.2	5.5	5.2	2.6	1.0	24.5	41.9
	買物	全体(n=2,361)	23.5	16.9	26.0	16.7	2.1	1.7	13.0
		男性(n=1,085)	17.2	11.3	22.9	25.3	3.2	2.6	17.5
		女性(n=1,243)	28.9	21.8	29.0	9.6	1.1	1.0	8.7
	趣味活動	全体(n=2,361)	8.2	4.1	11.4	23.0	12.7	14.4	26.2
		男性(n=1,085)	11.2	4.5	11.5	24.1	12.5	13.5	22.6
		女性(n=1,243)	5.6	3.8	11.1	22.1	12.6	15.6	29.2
	体操	全体(n=2,361)	10.7	4.6	9.3	14.2	4.0	26.7	30.5
		男性(n=1,085)	14.0	5.2	7.4	10.9	5.2	27.3	30.1
		女性(n=1,243)	7.9	4.2	11.2	16.7	2.8	26.8	30.4
	友人・知人とのおしゃべり	全体(n=2,361)	9.9	3.9	10.2	16.0	17.2	14.9	28.0
		男性(n=1,085)	10.6	3.1	7.4	12.7	14.7	20.5	31.0
		女性(n=1,243)	9.5	4.6	12.9	18.8	19.3	10.1	24.8
	ボランティア活動	全体(n=2,361)	1.0	0.6	2.3	5.0	6.9	45.7	38.6
		男性(n=1,085)	1.3	0.5	2.4	4.5	7.2	48.1	36.0
		女性(n=1,243)	0.7	0.6	2.2	5.5	6.8	43.7	40.5
通院やリハビリ	全体(n=2,361)	0.9	0.6	1.9	7.8	36.2	24.6	28.0	
	男性(n=1,085)	0.9	0.4	1.4	7.6	36.8	24.3	28.7	
	女性(n=1,243)	0.9	0.7	2.3	8.0	35.7	25.3	27.0	
その他	全体(n=2,361)	3.9	1.1	1.1	1.7	1.7	7.6	82.9	
	男性(n=1,085)	5.2	1.1	1.1	1.8	1.8	8.5	80.6	
	女性(n=1,243)	2.7	1.1	1.0	1.7	1.6	6.8	85.0	
年齢別	仕事	全体(n=2,361)	24.6	5.9	5.8	3.0	1.4	21.6	37.8
		40〜64歳(n=492)	65.7	6.7	5.1	1.4	0.6	16.5	4.1
		65歳以上(n=1,869)	13.8	5.7	5.9	3.4	1.6	22.9	46.7
	買物	全体(n=2,361)	23.5	16.9	26.0	16.7	2.1	1.7	13.0
		40〜64歳(n=492)	26.6	14.0	26.0	29.3	1.6	1.2	1.2
		65歳以上(n=1,869)	22.6	17.7	26.1	13.4	2.2	1.9	16.1
	趣味活動	全体(n=2,361)	8.2	4.1	11.4	23.0	12.7	14.4	26.2
		40〜64歳(n=492)	6.9	2.4	7.7	35.4	21.5	21.7	4.3
		65歳以上(n=1,869)	8.5	4.5	12.3	19.8	10.4	12.5	31.9
	体操	全体(n=2,361)	10.7	4.6	9.3	14.2	4.0	26.7	30.5
		40〜64歳(n=492)	7.9	2.8	6.9	17.1	8.1	51.6	5.5
		65歳以上(n=1,869)	11.4	5.0	10.0	13.4	2.9	20.2	37.0
	友人・知人とのおしゃべり	全体(n=2,361)	9.9	3.9	10.2	16.0	17.2	14.9	28.0
		40〜64歳(n=492)	15.0	3.7	6.1	16.5	28.9	26.0	3.9
		65歳以上(n=1,869)	8.5	4.0	11.3	15.8	14.1	11.9	34.3
	ボランティア活動	全体(n=2,361)	1.0	0.6	2.3	5.0	6.9	45.7	38.6
		40〜64歳(n=492)	0.6	0.4	1.4	1.8	6.3	82.7	6.7
		65歳以上(n=1,869)	1.1	0.6	2.5	5.8	7.0	35.9	47.0
	通院やリハビリ	全体(n=2,361)	0.9	0.6	1.9	7.8	36.2	24.6	28.0
		40〜64歳(n=492)	0.0	0.0	0.6	4.9	27.6	60.2	6.7
		65歳以上(n=1,869)	1.2	0.7	2.2	8.6	38.5	15.2	33.7
	その他	全体(n=2,361)	3.9	1.1	1.1	1.7	1.7	7.6	82.9
		40〜64歳(n=492)	2.0	0.6	0.2	1.0	1.4	17.1	77.6
		65歳以上(n=1,869)	4.4	1.2	1.3	1.9	1.8	5.1	84.3

1. 市民一般調査

(6) 治療中の病気の有無 (問 10)

治療中の病気の有無は、「ある」が64.7%、「ない」が31.8%となっている。
性別にみると、男性は「ある」(69.2%)が女性に比べ高くなっている。
また、年齢別にみると、65歳以上は「ある」(70.8%)が40～64歳に比べ高くなっている。

■治療中の病気の有無

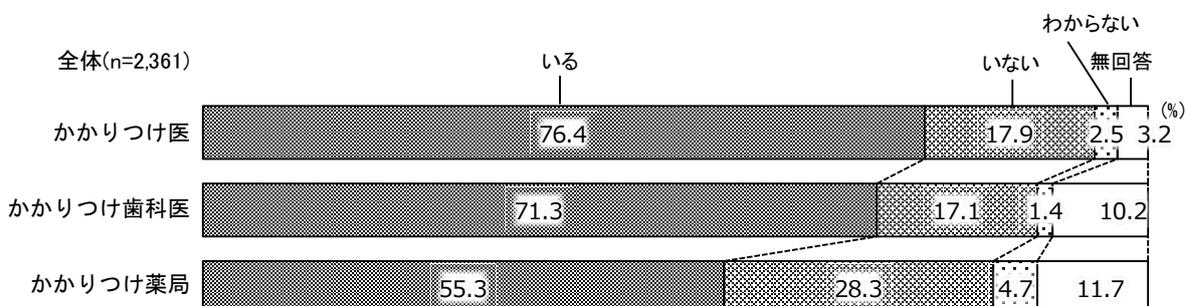


		ある	ない	無回答
全体(n=2,361)		64.7	31.8	3.5
性別	男性(n=1,085)	69.2	28.8	2.0
	女性(n=1,243)	60.8	34.6	4.6
年齢別	40～64歳(n=492)	41.7	57.5	0.8
	65歳以上(n=1,869)	70.8	25.0	4.2

(7) かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無 (問 11)

かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無は、『かかりつけ医』が76.4%、『かかりつけ歯科医』が71.3%、『かかりつけ薬局』が55.3%となっている。
年齢別にみると、65歳以上は「いる」が40～64歳に比べ高くなっている。

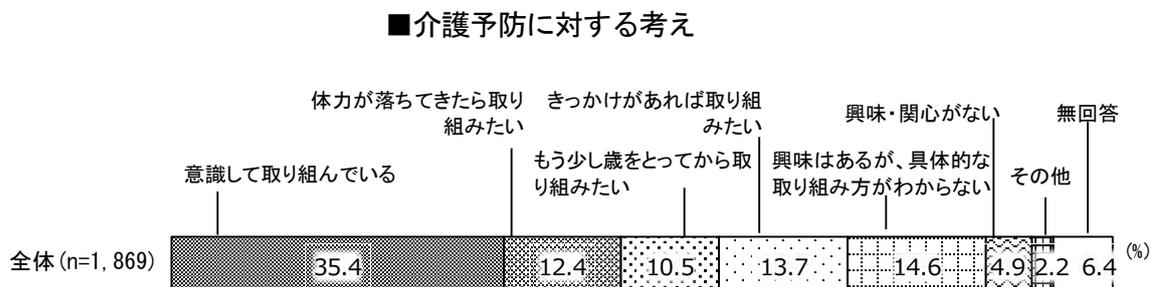
■かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無



		いる	いない	わからない	無回答	
年齢別	かかりつけ医	全体(n=2,361)	76.4	17.9	2.5	3.2
		40～64歳(n=492)	52.6	42.1	4.7	0.6
		65歳以上(n=1,869)	82.7	11.6	1.9	3.9
	かかりつけ歯科医	全体(n=2,361)	71.3	17.1	1.4	10.2
		40～64歳(n=492)	63.0	32.1	3.7	1.2
		65歳以上(n=1,869)	73.5	13.2	0.9	12.5
	かかりつけ薬局	全体(n=2,361)	55.3	28.3	4.7	11.7
		40～64歳(n=492)	35.0	55.5	8.1	1.4
		65歳以上(n=1,869)	60.6	21.2	3.8	14.4

(8) 介護予防に対する考え (問 12)

介護予防に対する考えは、「意識して取り組んでいる」(35.4%)が最も多く、「興味はあるが、具体的な取り組み方がわからない」(14.6%)、「きっかけがあれば取り組みたい」(13.7%)が続いている。

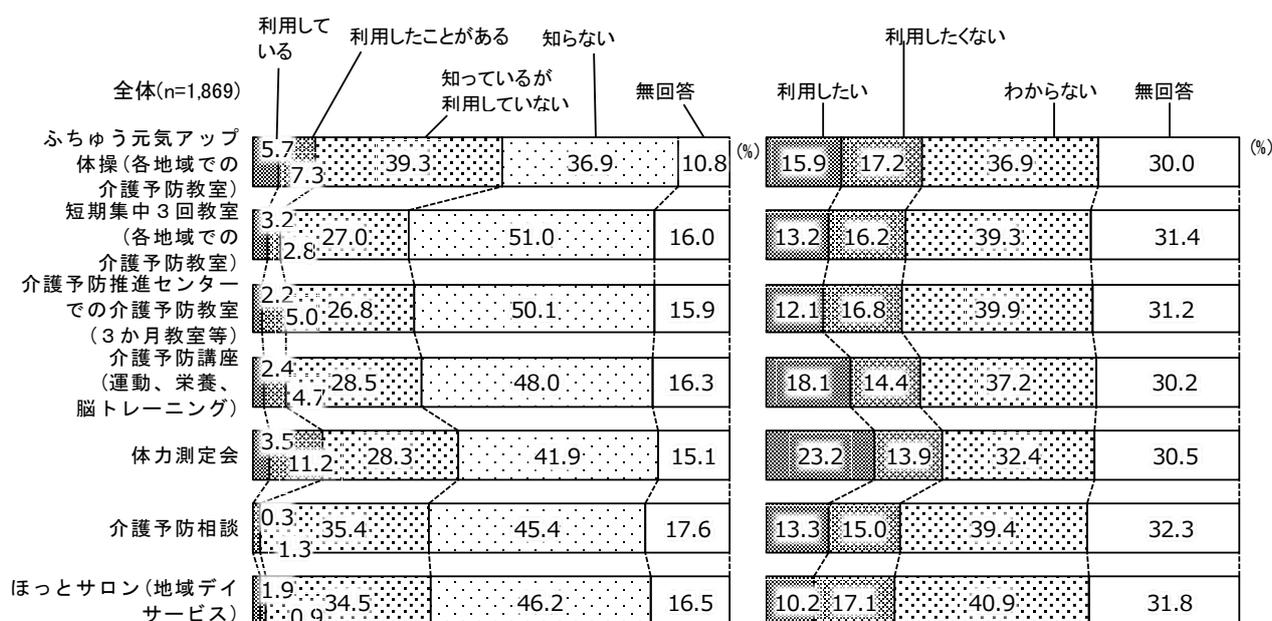


(9) 介護予防事業の利用状況、利用意向 (問 13)

介護予防事業について、「利用している」「利用したことがある」を合わせた“利用状況”は、『体力測定会』(14.8%)が最も多く、『ふちゅう元気アップ体操(各地域での介護予防教室)』(13.1%)、『介護予防推進センターでの介護予防教室(3か月教室等)』(7.2%)が続いている。「利用している」「利用したことがある」「知っているが利用していない」を合わせた“認知度”は、『ふちゅう元気アップ体操(各地域での介護予防教室)』(52.3%)が最も多く、『体力測定会』(43.0%)、『ほっとサロン(地域デイサービス)』(37.3%)が続いている。

利用意向は、『体力測定会』(23.2%)が最も多く、『介護予防講座(運動、栄養、脳トレーニング)』(18.1%)、『ふちゅう元気アップ体操(各地域での介護予防教室)』(15.9%)が続いている。性別にみると、女性は“認知度”も利用意向も男性に比べ高くなっている。

■ 介護予防事業の利用状況、利用意向



1. 市民一般調査

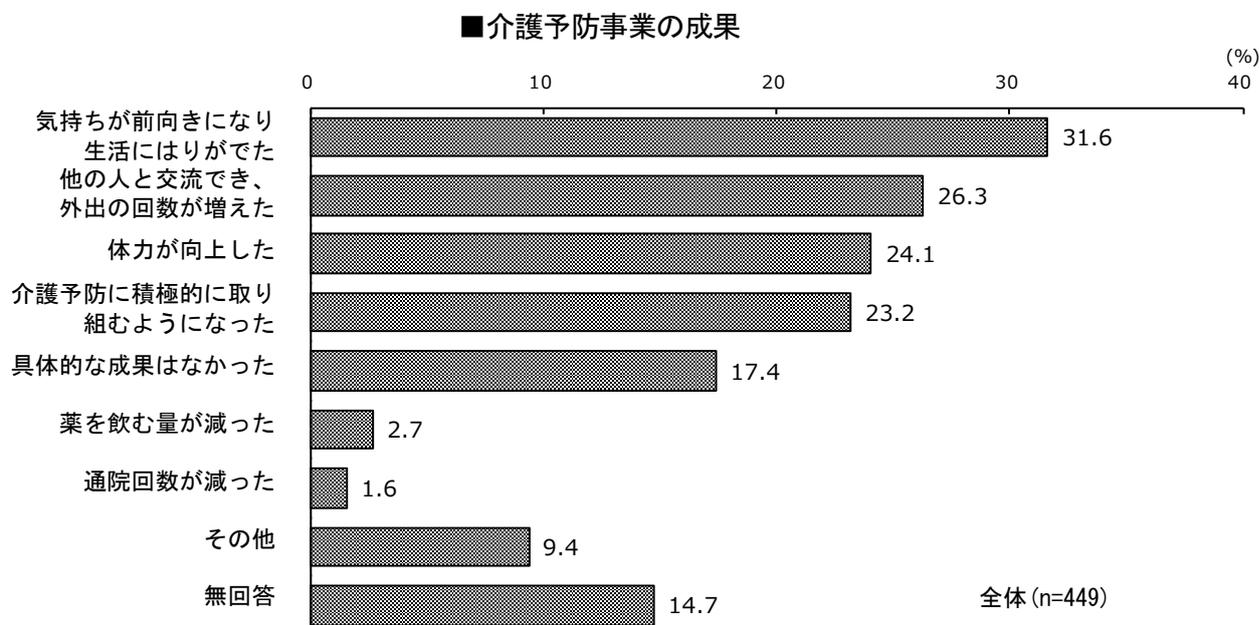
			利用している	利用したことがある	知っているが利用していない	知らない	無回答	認知度
性別	ふちゆう元気アップ体操(各地域での介護予防教室)	全体(n=1,869)	5.7	7.3	39.3	36.9	10.8	52.3
		男性(n=862)	3.5	3.8	36.8	47.9	8.0	44.1
		女性(n=977)	7.5	10.4	41.8	27.1	13.2	59.7
	短期集中3回教室(各地域での介護予防教室)	全体(n=1,869)	3.2	2.8	27.0	51.0	16.0	33.0
		男性(n=862)	1.6	2.1	24.0	60.2	12.1	27.7
		女性(n=977)	4.5	3.4	29.8	43.0	19.3	37.7
	介護予防推進センターでの介護予防教室(3か月教室等)	全体(n=1,869)	2.2	5.0	26.8	50.1	15.9	34.0
		男性(n=862)	1.0	3.1	23.1	60.2	12.5	27.3
		女性(n=977)	3.1	6.8	30.4	41.0	18.7	40.2
	介護予防講座(運動、栄養、脳トレーニング)	全体(n=1,869)	2.4	4.7	28.5	48.0	16.3	35.6
		男性(n=862)	0.9	2.6	26.3	57.8	12.4	29.8
		女性(n=977)	3.7	6.7	30.5	39.5	19.7	40.8
	体力測定会	全体(n=1,869)	3.5	11.2	28.3	41.9	15.1	43.0
		男性(n=862)	2.1	7.3	27.3	51.0	12.3	36.7
		女性(n=977)	4.7	14.8	29.1	33.8	17.6	48.6
	介護予防相談	全体(n=1,869)	0.3	1.3	35.4	45.4	17.6	37.0
		男性(n=862)	0.1	1.2	32.6	53.1	13.0	33.9
		女性(n=977)	0.5	1.4	38.1	38.6	21.4	40.0
	ほっとサロン(地域サービス)	全体(n=1,869)	1.9	0.9	34.5	46.2	16.5	37.3
		男性(n=862)	0.5	0.3	30.3	55.5	13.5	31.1
		女性(n=977)	3.1	1.4	38.3	38.1	19.1	42.8

			利用したい	利用したくない	わからない	無回答
性別	ふちゆう元気アップ体操(各地域での介護予防教室)	全体(n=1,869)	15.9	17.2	36.9	30.0
		男性(n=862)	11.6	19.6	44.2	24.6
		女性(n=977)	19.7	15.5	30.3	34.6
	短期集中3回教室(各地域での介護予防教室)	全体(n=1,869)	13.2	16.2	39.3	31.4
		男性(n=862)	10.2	18.2	45.6	26.0
		女性(n=977)	15.8	14.6	33.7	35.9
	介護予防推進センターでの介護予防教室(3か月教室等)	全体(n=1,869)	12.1	16.8	39.9	31.2
		男性(n=862)	10.2	17.9	46.3	25.6
		女性(n=977)	13.8	16.2	34.0	36.0
	介護予防講座(運動、栄養、脳トレーニング)	全体(n=1,869)	18.1	14.4	37.2	30.2
		男性(n=862)	13.9	16.4	44.8	24.9
		女性(n=977)	21.7	13.0	30.4	34.9
	体力測定会	全体(n=1,869)	23.2	13.9	32.4	30.5
		男性(n=862)	19.7	16.2	39.2	24.8
		女性(n=977)	25.8	12.2	26.5	35.5
	介護予防相談	全体(n=1,869)	13.3	15.0	39.4	32.3
		男性(n=862)	11.7	16.8	45.1	26.3
		女性(n=977)	14.8	13.6	34.1	37.5
	ほっとサロン(地域サービス)	全体(n=1,869)	10.2	17.1	40.9	31.8
		男性(n=862)	8.5	18.4	46.9	26.2
		女性(n=977)	11.7	16.2	35.5	36.6

(10) 介護予防事業の成果 (問 13-1)

介護予防事業を「利用している」「利用したことがある」と回答した人に介護予防事業の成果をきいたところ、「気持ちが前向きになり生活にはりがでた」(31.6%)が最も多く、「他の人と交流でき、外出の回数が増えた」(26.3%)、「体力が向上した」(24.1%)が続いている。

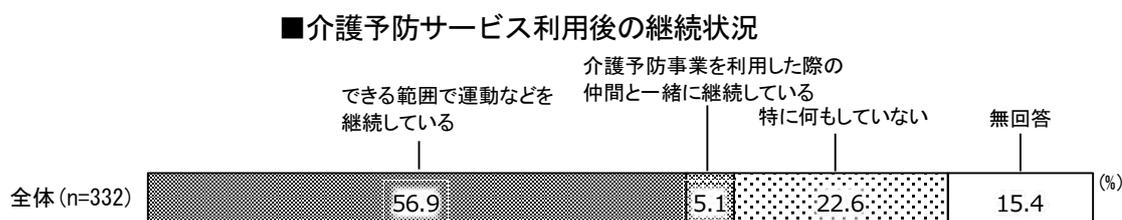
性別にみると、男性は「介護予防に積極的に取り組むようになった」(29.8%)が女性に比べ高く、女性は「他の人と交流でき、外出の回数が増えた」(30.4%)が男性に比べ高くなっている。



		通院回数が減った	薬を飲む量が減った	体力が向上した	でな気増他な介な介 たり持え、のっ取護 生活ちた外、の予防 にはががとと組むに りが向は向回交流積 きがにき数でう極 的	具体的成果はな	その他	無回答		
全体(n=449)		1.6	2.7	24.1	31.6	26.3	23.2	17.4	9.4	14.7
性別	男性(n=124)	1.6	0.8	24.2	30.6	16.9	29.8	19.4	8.9	12.9
	女性(n=316)	1.6	3.2	24.4	32.3	30.4	20.6	17.1	9.2	14.9

(11) 介護予防サービス利用後の継続状況 (問 13-2)

介護予防相談以外の介護予防事業を1つでも「利用したことがある」と回答した人に介護予防サービス利用後の継続状況をきいたところ、「できる範囲で運動などを継続している」が56.9%、「介護予防事業を利用した際の仲間と一緒に継続している」が5.1%、「特に何もしていない」が22.6%となっている。



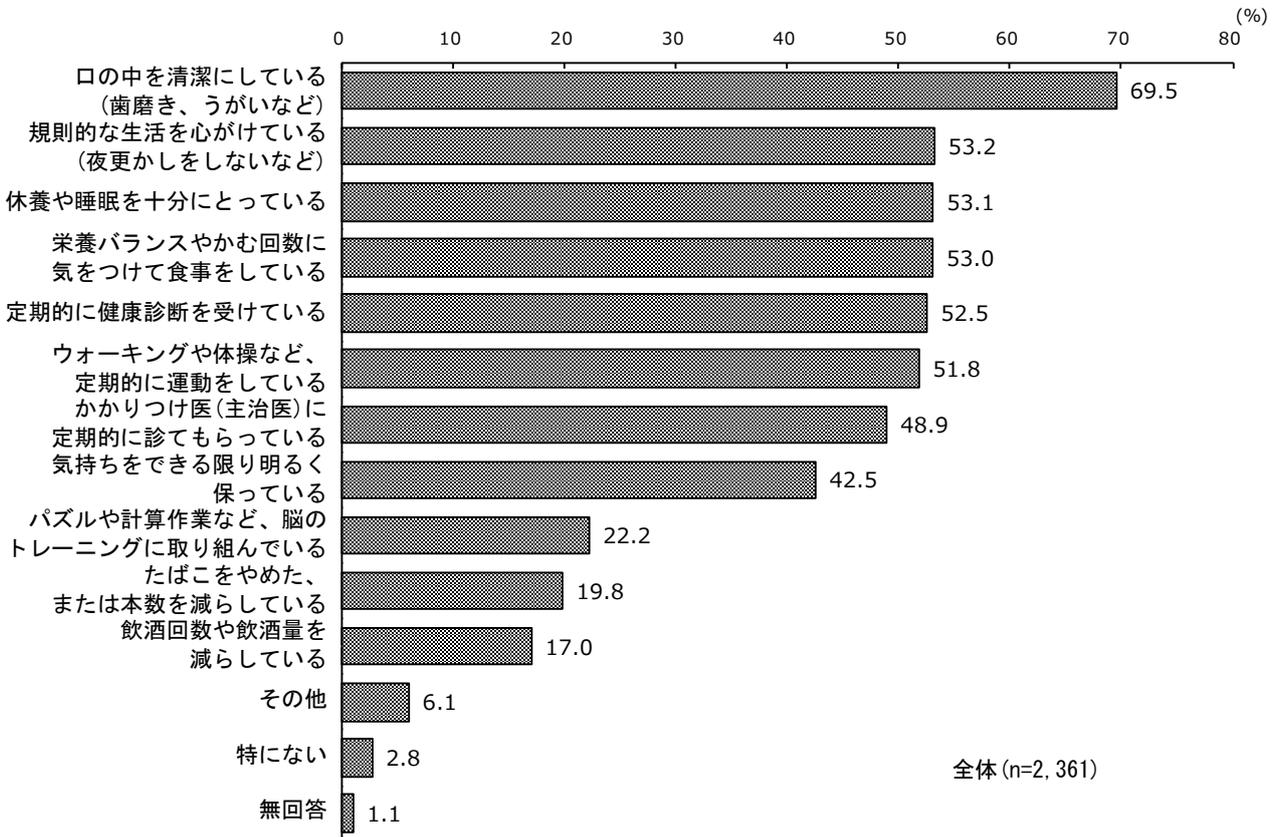
1. 市民一般調査

(12) 健康や介護予防のために気をつけていること (問 14)

健康や介護予防のために気をつけていることは、「口の中を清潔にしている(歯磨き、うがいなど)」(69.5%)が最も多く、「規則的な生活を心がけている(夜更かしをしないなど)」(53.2%)、「休養や睡眠を十分にとっている」(53.1%)が続いている。

年齢別にみると、65歳以上はほとんどの項目が40～64歳に比べ高くなっている。

■健康や介護予防のために気をつけていること



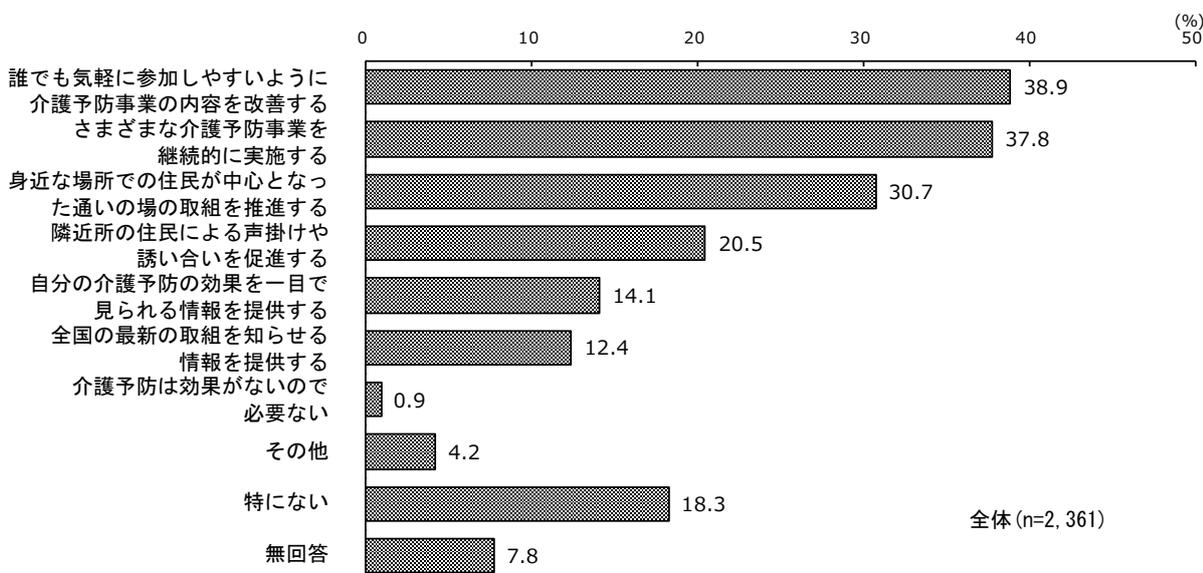
年齢別		し数栄	どる	口の	てど	ウオ	ない	規則	はた	ら飲	に取	パズ	け定	ら医	かか	る気	と休	そ	特	無
		数養	る(の中	い、	ーキ	な	則的	本	酒回	取り	ズル	定期	っ	かり	持	つ	他	に	回
	全体(n=2,361)	53.0	69.5	51.8	53.2	19.8	17.0	22.2	52.5	48.9	42.5	53.1	6.1	2.8	1.1					
	40～64歳(n=492)	41.3	59.8	38.8	38.2	17.3	14.4	12.2	54.9	19.7	30.5	36.8	3.0	5.5	0.2					
	65歳以上(n=1,869)	56.1	72.1	55.2	57.1	20.4	17.7	24.8	51.9	56.6	45.7	57.4	6.8	2.0	1.3					

(13) 府中市の介護予防に望むこと (問 15)

府中市の介護予防に望むことは、「誰でも気軽に参加しやすいように介護予防事業の内容を改善する」(38.9%)が最も多く、「さまざまな介護予防事業を継続的に実施する」(37.8%)、「身近な場所での住民が中心となった通いの場の取組を推進する」(30.7%)が続いている。

年齢別にみると、40～64歳は「さまざまな介護予防事業を継続的に実施する」(55.5%)が65歳以上に比べ高くなっている。

■府中市の介護予防に望むこと



	継続的に実施する	さまざまな介護予防事業を改善する	誰でも気軽に参加しやすい	推進する	身近な場所での住民が中心	や隣近所の住民による声掛け	自分で見られる情報を提供する	全国の最新の取組を知らせる	必要ない	介護予防は効果がないので	その他	特にない	無回答
全体(n=2,361)	37.8	38.9	30.7	20.5	14.1	12.4	0.9	4.2	18.3	7.8			
40～64歳(n=492)	55.5	44.9	28.3	19.3	20.5	18.7	1.2	2.6	10.6	0.8			
65歳以上(n=1,869)	33.1	37.3	31.4	20.8	12.4	10.8	0.9	4.7	20.3	9.6			

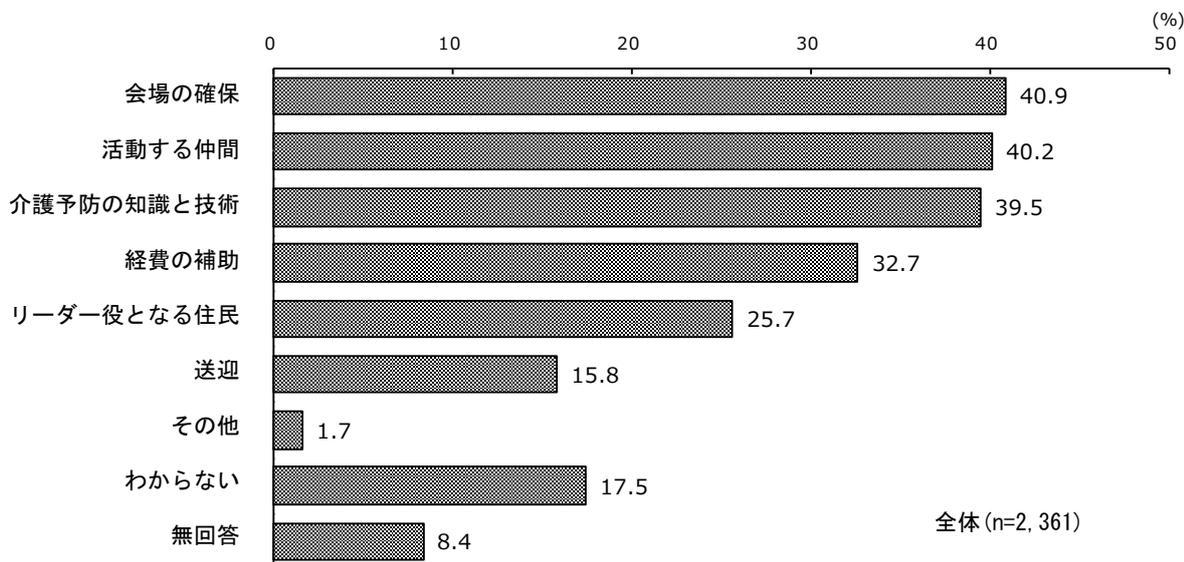
1. 市民一般調査

(14) 住民主体の介護予防活動のために必要なこと（問16）

住民主体の介護予防活動のために必要なことは、「会場の確保」（40.9%）が最も多く、「活動する仲間」（40.2%）、「介護予防の知識と技術」（39.5%）が続いている。

年齢別にみると、40～64歳は「経費の補助」（52.2%）、「介護予防の知識と技術」（51.6%）、「活動する仲間」（48.2%）が65歳以上に比べ高くなっている。

■住民主体の介護予防活動のために必要なこと



		会場の確保	経費の補助	介護予防の知識と技術	リーダー役となる住民	活動する仲間	送迎	その他	わからない	無回答
年齢別	全体(n=2,361)	40.9	32.7	39.5	25.7	40.2	15.8	1.7	17.5	8.4
	40～64歳(n=492)	42.5	52.2	51.6	27.2	48.2	20.1	1.2	11.2	1.2
	65歳以上(n=1,869)	40.5	27.5	36.3	25.3	38.0	14.7	1.8	19.1	10.3

6 生活習慣について

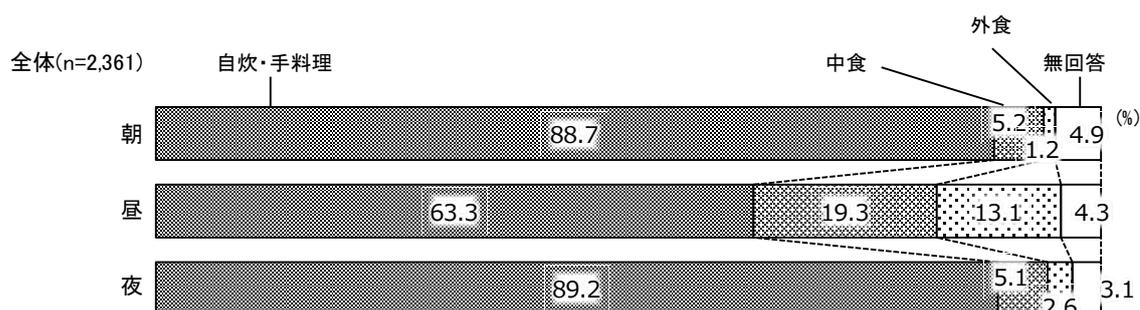
(1) 普段の食事の状況（自炊・手料理、中食、外食）（問17）

普段の食事の状況について、「自炊・手料理」は『朝』が88.7%、『昼』が63.3%、『夜』が89.2%となっている。

性別にみると、男性は『昼』の「外食」（19.9%）が女性に比べ高く、女性は『昼』の「自炊・手料理」（69.7%）が男性に比べて高くなっている。

また、年齢別にみると、40～64歳は『昼』の「中食」（30.1%）「外食」（30.9%）が65歳以上に比べ高く、65歳以上は『昼』の「自炊・手料理」（69.8%）が40～64歳に比べて高くなっている。

■普段の食事の状況（自炊・手料理、中食、外食）



		自炊・手料理	中食	外食	無回答	
性別	朝	全体(n=2,361)	88.7	5.2	1.2	4.9
		男性(n=1,085)	83.9	7.7	2.3	6.1
		女性(n=1,243)	93.0	3.0	0.3	3.7
	昼	全体(n=2,361)	63.3	19.3	13.1	4.3
		男性(n=1,085)	55.9	19.6	19.9	4.5
		女性(n=1,243)	69.7	19.0	7.4	3.9
	夜	全体(n=2,361)	89.2	5.1	2.6	3.1
		男性(n=1,085)	85.6	7.3	4.1	3.0
		女性(n=1,243)	92.3	3.2	1.4	3.1
年齢別	朝	全体(n=2,361)	88.7	5.2	1.2	4.9
		40～64歳(n=492)	83.3	11.0	2.0	3.7
		65歳以上(n=1,869)	90.1	3.7	1.0	5.2
	昼	全体(n=2,361)	63.3	19.3	13.1	4.3
		40～64歳(n=492)	38.6	30.1	30.9	0.4
		65歳以上(n=1,869)	69.8	16.5	8.4	5.3
	夜	全体(n=2,361)	89.2	5.1	2.6	3.1
		40～64歳(n=492)	85.4	9.1	5.1	0.4
		65歳以上(n=1,869)	90.2	4.1	1.9	3.8

1. 市民一般調査

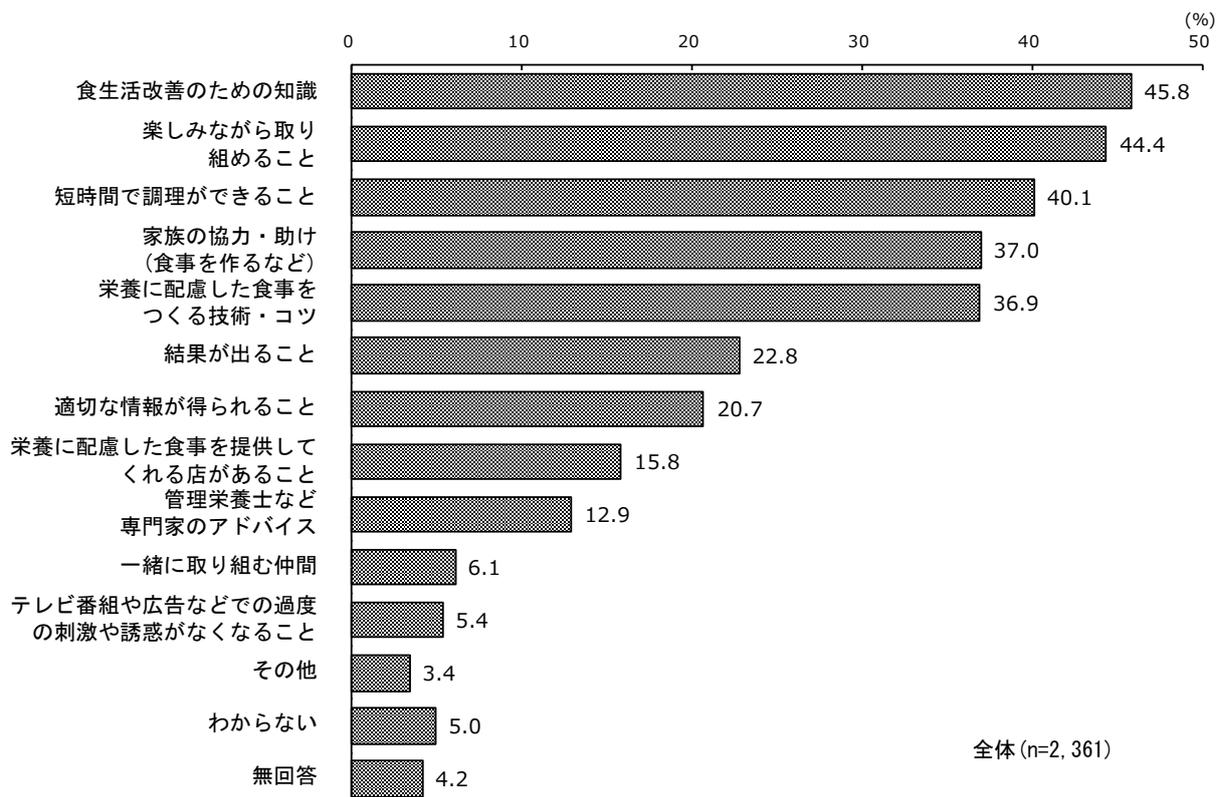
(2) 食生活を改善するために必要なこと (問18)

食生活を改善するために必要なことは、「食生活改善のための知識」(45.8%)が最も多く、「楽しみながら取り組めること」(44.4%)、「短時間で調理ができること」(40.1%)が続いている。

性別にみると、男性は「家族の協力・助け(食事を作るなど)」(48.1%)が女性に比べ高く、女性は「楽しみながら取り組めること」(52.9%)、「短時間で調理ができること」(52.9%)が男性に比べ高くなっている。

また、年齢別にみると、40～64歳は「食生活改善のための知識」(54.3%)が65歳以上に比べ高くなっている。

■食生活を改善するために必要なこと

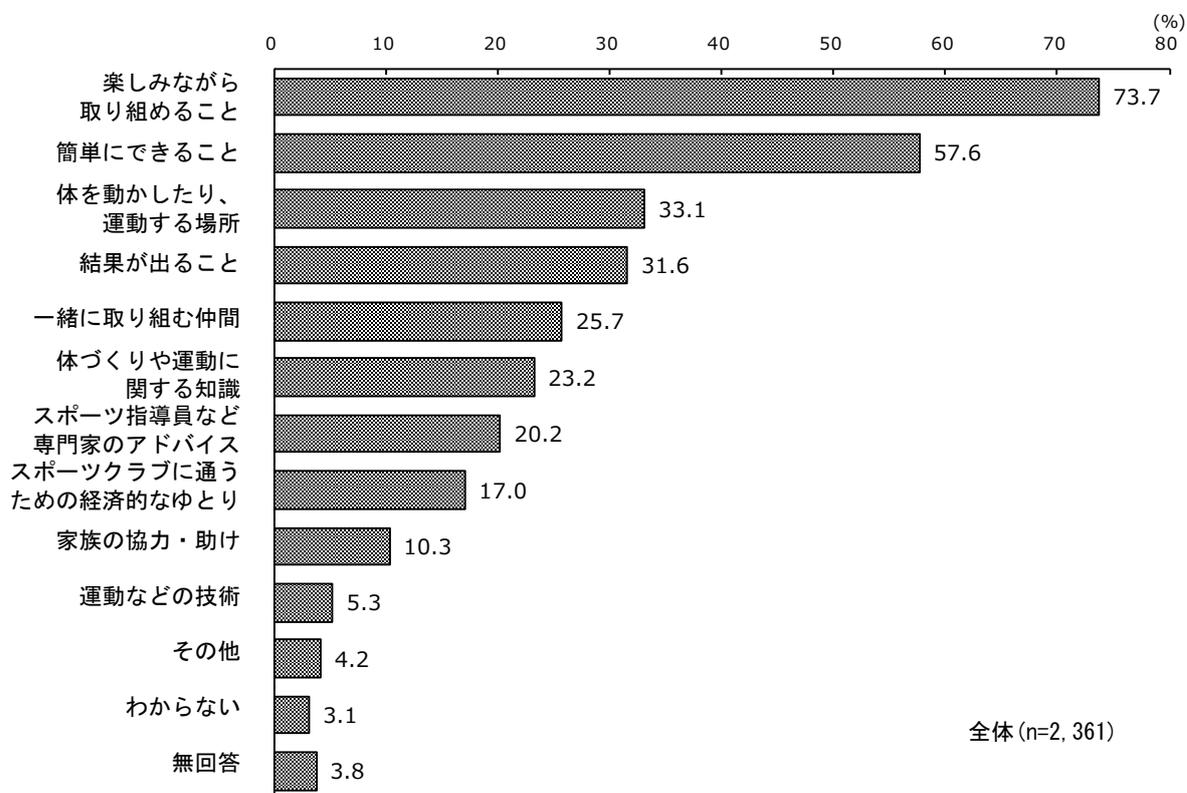


		知識	食生活改善のための	(家族の協力・助け)	め楽しみながら取り組	結果が出ること	栄養に配慮した食事	管理栄養士など専門	短時間で調理ができ	一緒に取り組む仲間	適切な情報が得られ	が栄養に配慮した食	誘惑がなくなること	テレビ番組や広告な	その他	わからない	無回答
性別	全体(n=2,361)	45.8	37.0	44.4	22.8	36.9	12.9	40.1	6.1	20.7	15.8	5.4	3.4	5.0	4.2		
	男性(n=1,085)	46.7	48.1	34.9	20.9	33.3	11.4	25.8	5.4	19.1	15.7	5.5	3.1	7.5	4.0		
	女性(n=1,243)	45.2	27.7	52.9	24.5	40.1	14.4	52.9	6.7	22.3	16.1	5.2	3.7	2.5	4.3		
年齢別	全体(n=2,361)	45.8	37.0	44.4	22.8	36.9	12.9	40.1	6.1	20.7	15.8	5.4	3.4	5.0	4.2		
	40～64歳(n=492)	54.3	43.7	43.3	31.3	34.6	13.6	44.1	5.9	24.0	23.6	3.7	3.9	3.0	0.4		
	65歳以上(n=1,869)	43.6	35.2	44.7	20.5	37.6	12.7	39.1	6.2	19.9	13.8	5.8	3.3	5.5	5.2		

(3) 運動習慣を改善するために必要なこと (問19)

運動習慣を改善するために必要なことは、「楽しみながら取り組めること」(73.7%)が最も多く、「簡単にできること」(57.6%)、「体を動かしたり、運動する場所」(33.1%)が続いている。性別にみると、女性は「簡単にできること」(63.6%)が男性に比べ高くなっている。

■運動習慣を改善するために必要なこと



		楽しみながら取り組めること	結果が出ること	体を動かしたり、運動する場所	体づくりや運動に関する知識	簡単にできること	家族の協力・助け	一緒に取り組む仲間	スポーツ指導員など専門家のアドバイス	運動などの技術	スポーツクラブに通うための経済的なゆとり	その他	わからない	無回答
性別	全体(n=2,361)	73.7	31.6	33.1	23.2	57.6	10.3	25.7	20.2	5.3	17.0	4.2	3.1	3.8
	男性(n=1,085)	70.1	30.6	32.7	24.5	51.4	12.4	23.1	16.1	6.7	17.8	4.2	4.1	3.3
	女性(n=1,243)	76.8	32.7	33.4	22.1	63.6	8.5	28.0	23.6	4.0	16.5	3.9	2.3	4.1

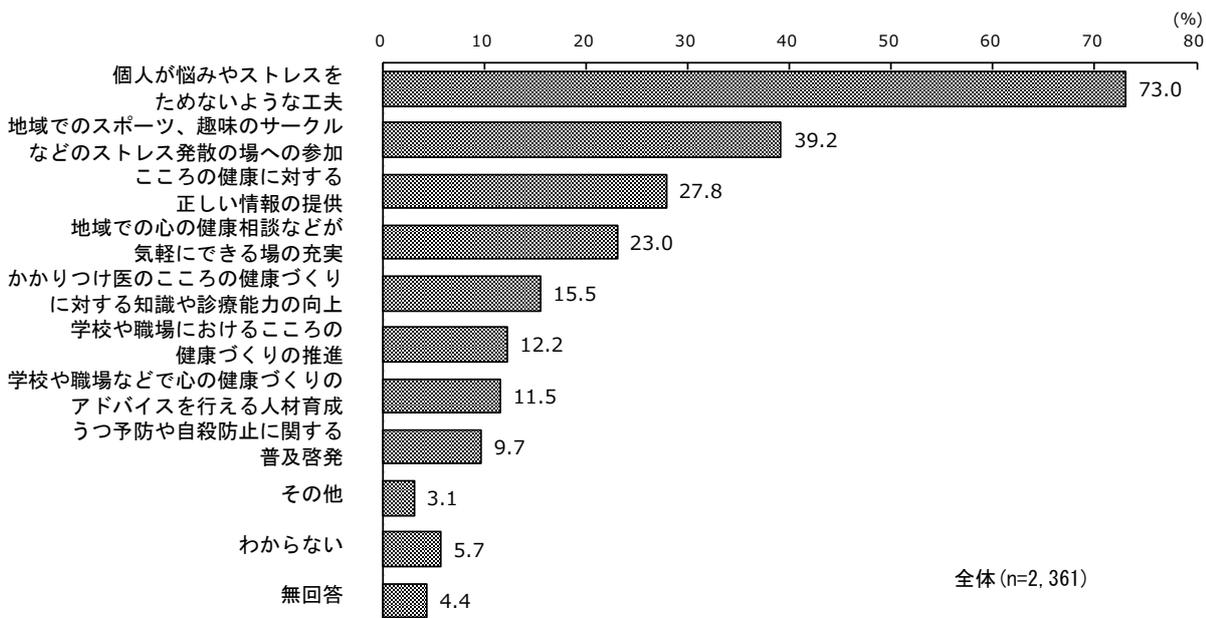
1. 市民一般調査

(4) こころの健康づくりのために必要なこと (問 20)

こころの健康づくりのために必要なことは、「個人が悩みやストレスをためないような工夫」(73.0%)が最も多く、「地域でのスポーツ、趣味のサークルなどのストレス発散の場への参加」(39.2%)、「こころの健康に対する正しい情報の提供」(27.8%)が続いている。

年齢別にみると、40～64歳は「学校や職場におけるこころの健康づくりの推進」(27.0%)が65歳以上に比べ高くなっている。

■こころの健康づくりのために必要なこと



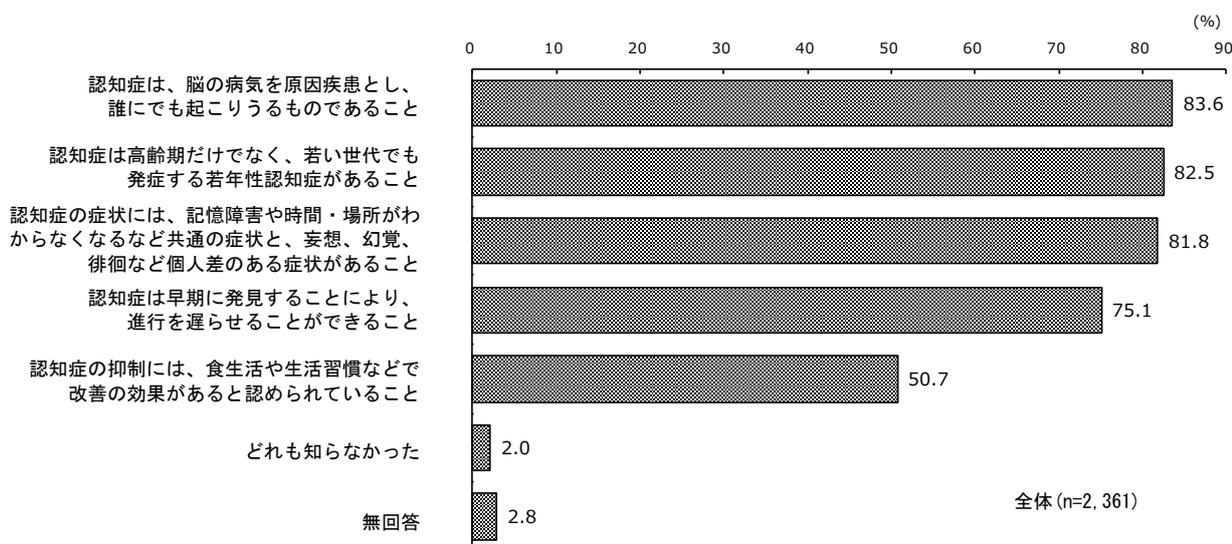
	個人が悩みやストレスをためないような工夫	学校や職場におけるこころの健康づくりの推進	散場への参加	地域でのスポーツ、趣味の発散	地域での心の健康相談など	診療能力の向上	かかりつけ医の知識や診療	こころの健康に対する正しい情報の提供	うつ予防や自殺防止に関する普及啓発	学校や職場などで心の健康づくりのアドバイスを行える人材育成	その他	わからない	無回答
年齢別	全体(n=2,361)	73.0	12.2	39.2	23.0	15.5	27.8	9.7	11.5	3.1	5.7	4.4	
	40～64歳(n=492)	76.6	27.0	35.6	27.0	14.0	27.8	14.4	20.5	3.5	3.7	1.0	
	65歳以上(n=1,869)	72.1	8.3	40.1	21.9	15.8	27.8	8.5	9.1	3.0	6.3	5.2	

7 認知症について

(1) 認知症について知っていること (問 21)

認知症について知っていることは、「認知症は、脳の病気を原因疾患とし、誰にでも起こりうるものであること」(83.6%)が最も多く、「認知症は高齢期だけでなく、若い世代でも発症する若年性認知症があること」(82.5%)、「認知症の症状には、記憶障害や時間・場所がわからなくなるなど共通の症状と、妄想、幻覚、徘徊など個人差のある症状があること」(81.8%)が続いている。

■ 認知症について知っていること



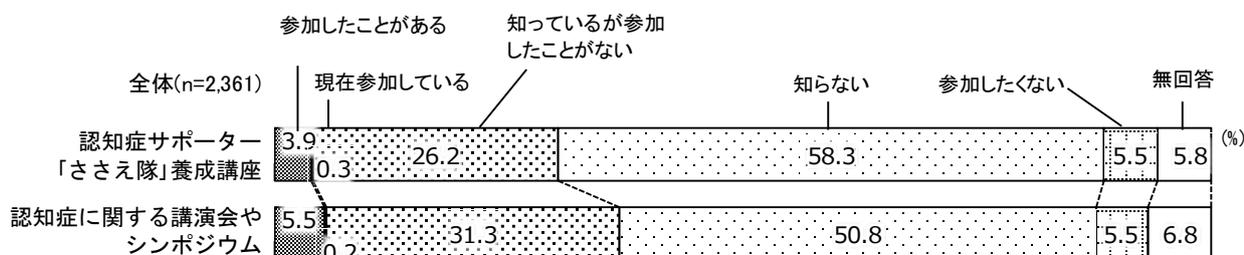
(2) 認知症予防啓発活動への参加・認知状況 (問 22)

認知症予防啓発活動について、「参加したことがある」「現在参加している」を合わせた“参加状況”は、『認知症サポーター「ささえ隊」養成講座』が4.2%、『認知症に関する講演会やシンポジウム』が5.7%となっている。「参加したことがある」「現在参加している」「知っているが参加したことがない」を合わせた“認知度”は、『認知症サポーター「ささえ隊」養成講座』が30.4%、『認知症に関する講演会やシンポジウム』が37.0%となっている。

性別にみると、女性は“認知度”が男性に比べ高くなっている。

また、年齢別にみると、65歳以上は“認知度”が40～64歳に比べ高くなっている。

■ 認知症予防啓発活動への参加・認知状況



1. 市民一般調査

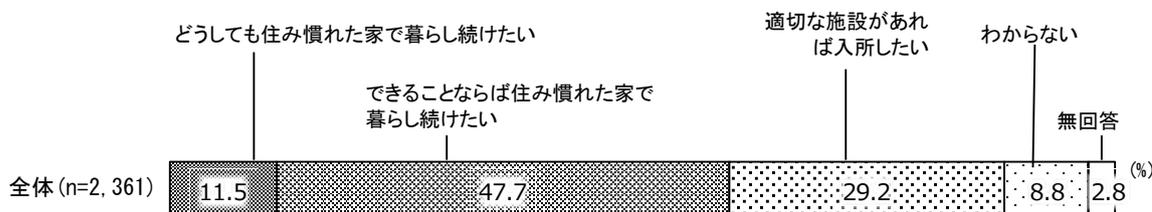
			参加したことがある	現在参加している	知っているが参加しない	知らない	参加したくない	無回答	認知度
性別	認知症サポーター「ささえ隊」養成講座	全体(n=2,361)	3.9	0.3	26.2	58.3	5.5	5.8	30.4
		男性(n=1,085)	3.1	0.4	17.5	68.8	6.0	4.1	21.0
		女性(n=1,243)	4.7	0.2	33.5	49.4	5.1	7.1	38.4
	認知症に関する講演会やシンポジウム	全体(n=2,361)	5.5	0.2	31.3	50.8	5.5	6.8	36.9
		男性(n=1,085)	3.6	0.1	23.4	61.3	6.4	5.3	27.1
		女性(n=1,243)	7.2	0.2	38.2	41.8	4.7	7.7	45.7
年齢別	認知症サポーター「ささえ隊」養成講座	全体(n=2,361)	3.9	0.3	26.2	58.3	5.5	5.8	30.4
		40～64歳(n=492)	1.4	0.0	15.4	77.6	3.3	2.2	16.9
		65歳以上(n=1,869)	4.5	0.4	29.0	53.2	6.2	6.7	33.9
	認知症に関する講演会やシンポジウム	全体(n=2,361)	5.5	0.2	31.3	50.8	5.5	6.8	36.9
		40～64歳(n=492)	2.0	0.0	22.2	70.1	3.5	2.2	24.2
		65歳以上(n=1,869)	6.4	0.2	33.7	45.7	6.0	8.0	40.3

(3) 認知症になっても住み慣れた家で暮らしたいか (問 23)

認知症になっても住み慣れた家で暮らしたいかは、「できることならば住み慣れた家で暮らし続けたい」(47.7%)が最も多く、「適切な施設があれば入所したい」(29.2%)、「どうしても住み慣れた家で暮らし続けたい」(11.5%)が続いている。

性別にみると、女性は「適切な施設があれば入所したい」(33.7%)が男性に比べ高くなっている。

■ 認知症になっても住み慣れた家で暮らしたいか



		どうしても住み慣れた家で暮らし続けたい	できることならば住み慣れた家で暮らし続けたい	適切な施設があれば入所したい	わからない	無回答
性別	全体(n=2,361)	11.5	47.7	29.2	8.8	2.8
	男性(n=1,085)	14.3	49.9	23.8	9.8	2.3
	女性(n=1,243)	9.0	45.9	33.7	8.2	3.1

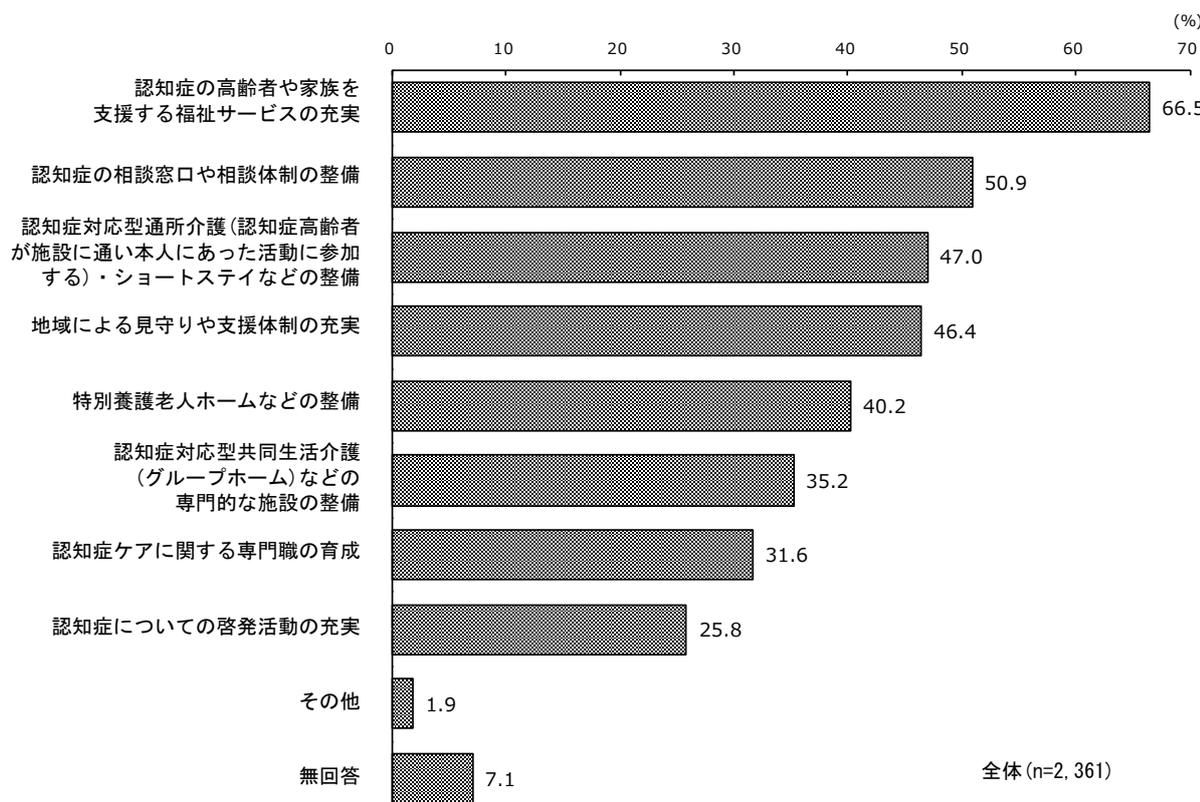
(4) 認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なこと (問 24)

認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なことは、「認知症の高齢者や家族を支援する福祉サービスの充実」(66.5%)が最も多く、「認知症の相談窓口や相談体制の整備」(50.9%)、「認知症対応型通所介護(認知症高齢者が施設に通い本人にあった活動に参加する)・ショートステイなどの整備」(47.0%)が続いている。

性別にみると、女性は「認知症対応型通所介護(認知症高齢者が施設に通い本人にあった活動に参加する)・ショートステイなどの整備」(52.7%)が男性に比べ高くなっている。

また、年齢別にみると、40～64歳は「認知症の高齢者や家族を支援する福祉サービスの充実」(76.4%)、「認知症対応型通所介護(認知症高齢者が施設に通い本人にあった活動に参加する)・ショートステイなどの整備」(54.7%)が65歳以上に比べ高くなっている。

■ 認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なこと



		認知症についての啓発活動の充実	認知症の相談窓口や相談体制の整備	地域による見守りや支援体制の充実	福祉サービスの充実	認知症対応型通所介護(認知症高齢者が施設に通い本人にあった活動に参加する)・ショートステイなどの整備	認知症対応型共同生活介護(グループホーム)などの専門的な施設の整備	特別養護老人ホームなどの整備	認知症ケアに関する専門職の育成	その他	無回答
性別	全体(n=2,361)	25.8	50.9	46.4	66.5	47.0	35.2	40.2	31.6	1.9	7.1
	男性(n=1,085)	28.1	50.1	46.5	66.5	40.7	31.5	39.8	27.4	2.1	5.6
	女性(n=1,243)	24.0	51.9	47.0	66.9	52.7	38.5	40.7	35.2	1.7	8.0
年齢別	全体(n=2,361)	25.8	50.9	46.4	66.5	47.0	35.2	40.2	31.6	1.9	7.1
	40～64歳(n=492)	23.4	53.9	52.2	76.4	54.7	41.7	39.0	33.5	1.6	2.8
	65歳以上(n=1,869)	26.5	50.1	44.9	63.8	44.9	33.5	40.6	31.1	1.9	8.2

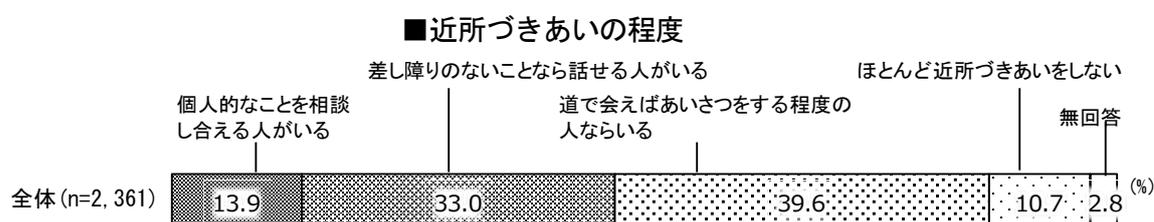
8 地域生活と日ごろの活動について

(1) 近所づきあいの程度 (問 25)

近所づきあいの程度は、「道で会えばあいさつをする程度の人ならいる」(39.6%)が最も多く、「差し障りのないことなら話せる人がいる」(33.0%)、「個人的なことを相談し合える人がいる」(13.9%)が続いている。

性別にみると、女性は「個人的なことを相談し合える人がいる」(19.1%)、「差し障りのないことなら話せる人がいる」(38.1%)が男性に比べ高く、男性は「道で会えばあいさつをする程度の人ならいる」(48.5%)、「ほとんど近所づきあいをしない」(14.6%)が女性に比べ高くなっている。

また、年齢別にみると、65歳以上は「個人的なことを相談し合える人がいる」(15.2%)、「差し障りのないことなら話せる人がいる」(35.4%)が40～64歳に比べ高く、40～64歳は「道で会えばあいさつをする程度の人ならいる」(46.1%)、「ほとんど近所づきあいをしない」(18.9%)が65歳以上に比べ高くなっている。



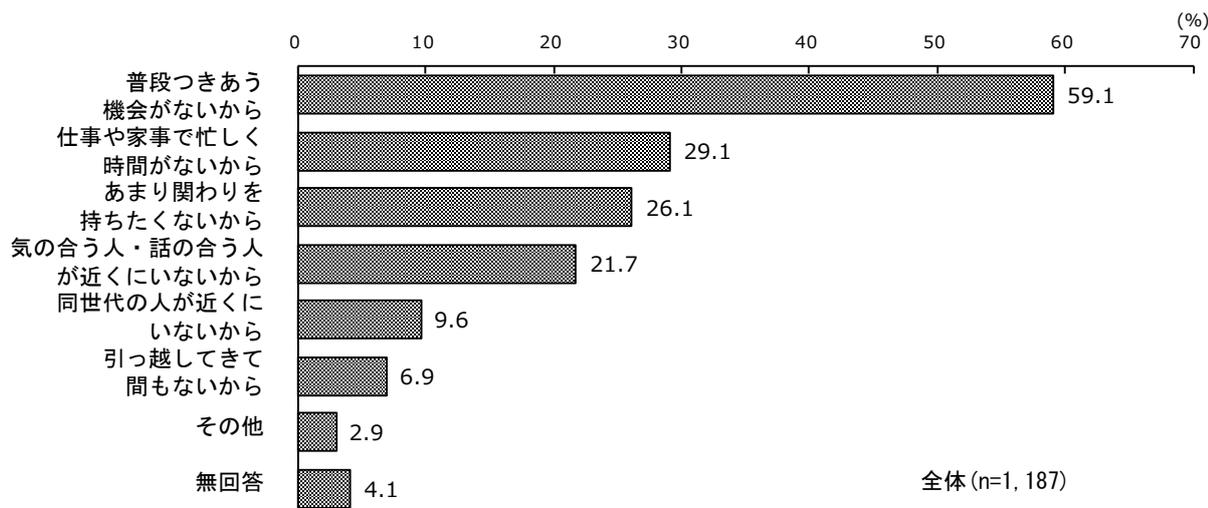
		個人的なことを相談し合える人がいる	差し障りのないことなら話せる人がいる	道で会えばあいさつをする程度の人ならいる	ほとんど近所づきあいをしない	無回答
性別	全体(n=2,361)	13.9	33.0	39.6	10.7	2.8
	男性(n=1,085)	7.7	27.2	48.5	14.6	2.0
	女性(n=1,243)	19.1	38.1	32.0	7.4	3.4
年齢別	全体(n=2,361)	13.9	33.0	39.6	10.7	2.8
	40～64歳(n=492)	8.9	24.0	46.1	18.9	2.0
	65歳以上(n=1,869)	15.2	35.4	37.9	8.5	3.0

(2) 近所づきあいをしていない理由 (問 25-1)

「道で会えばあいさつをする程度の人ならいる」「ほとんど近所づきあいをしない」と回答した人に近所づきあいをしていない理由をきいたところ、「普段つきあう機会がないから」(59.1%)が最も多く、「仕事や家事で忙しく時間がないから」(29.1%)、「あまり関わりを持ちたくないから」(26.1%)が続いている。

年齢別にみると、40～64歳は「仕事や家事で忙しく時間がないから」(55.6%)が65歳以上に比べ高く、65歳以上は「気の合う人・話の合う人が近くにいないから」(24.2%)、「あまり関わりを持ちたくないから」(29.4%)が40～64歳に比べ高くなっている。

■近所づきあいをしていない理由



		間仕 が事 ない 家事 から 忙し く時	引 越 して きて 間も な	い 普 段 つ き あ う 機 会 が な	な 同 世 代 の 人 が 近 く に い	人 気 の 合 う 人 に 話 の 合 う	く あ ま り 関 わ り を 持 ち た	そ の 他	無 回 答
年齢別	全体(n=1,187)	29.1	6.9	59.1	9.6	21.7	26.1	2.9	4.1
	40～64歳(n=320)	55.6	8.4	64.7	7.2	15.0	17.2	2.2	1.9
	65歳以上(n=867)	19.3	6.3	57.0	10.5	24.2	29.4	3.2	5.0

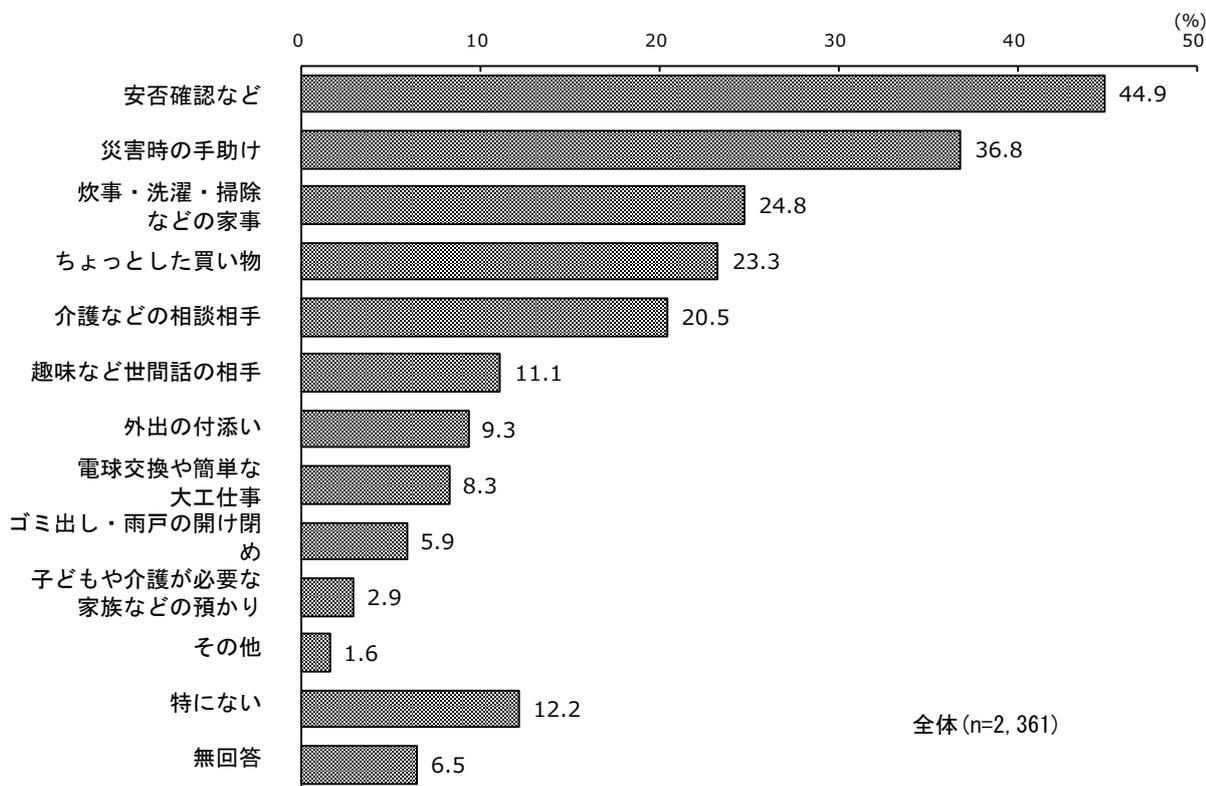
1. 市民一般調査

(3) 日常生活が不自由になったとき地域の人たちにしてほしい手助け (問 26)

日常生活が不自由になったとき地域の人たちにしてほしい手助けは、「安否確認など」(44.9%)が最も多く、「災害時の手助け」(36.8%)、「炊事・洗濯・掃除などの家事」(24.8%)が続いている。

年齢別にみると、40～64歳は「災害時の手助け」(44.5%)が65歳以上に比べ高くなっている。

■日常生活が不自由になったとき地域の人たちにしてほしい手助け



年齢別	全体(n=2,361)	安否確認など	趣味など世間話の相手	介護などの相談相手	の炊事・洗濯・掃除などの家事	ちょっとした買い物	子どもや介護が必要な家族などの預かり	外出の付添い	災害時の手助け	閉め出し・雨戸の開け	仕事 電球交換や簡単な大工	その他	特にない	無回答
		40～64歳(n=492)	48.6	8.9	17.9	25.0	27.4	7.7	7.5	44.5	7.1	5.7	1.4	10.2
65歳以上(n=1,869)	43.9	11.7	21.1	24.7	22.2	1.7	9.8	34.8	5.6	8.9	1.7	12.7	7.4	

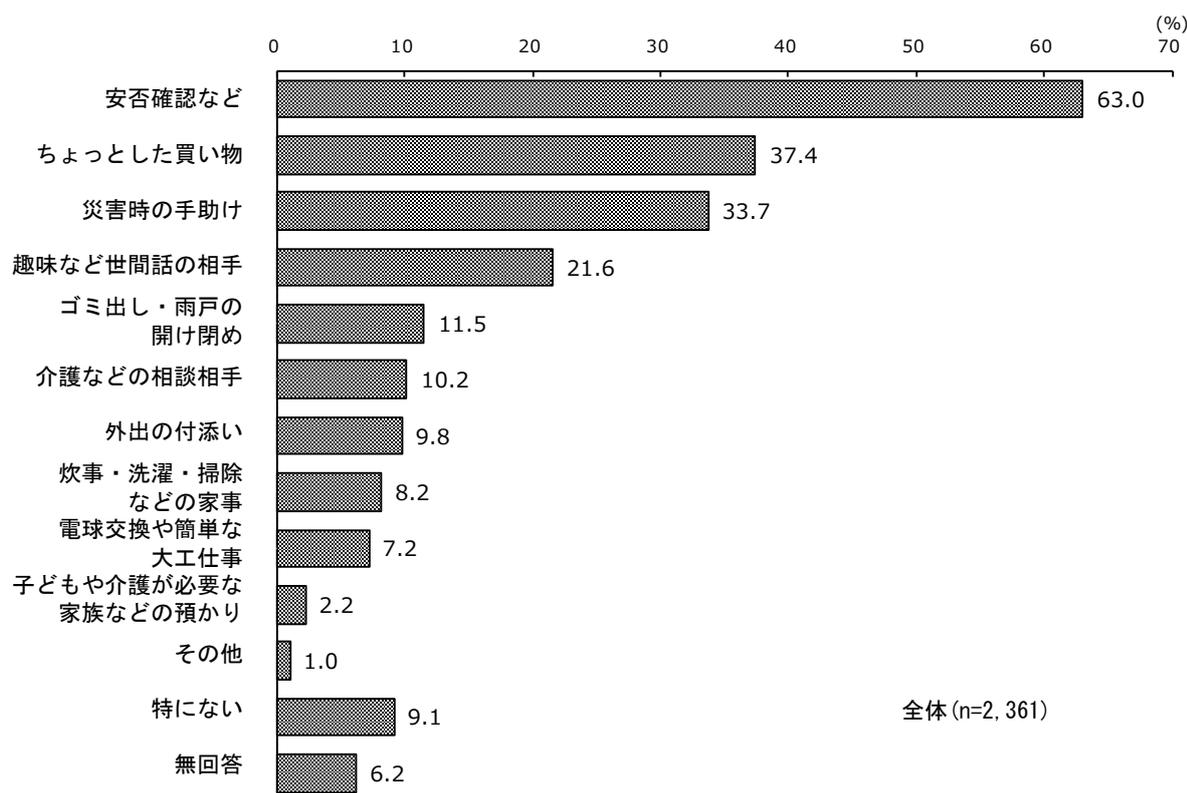
(4) 地域の支え合いとしてできること (問 27)

地域の支え合いとしてできることは、「安否確認など」(63.0%)が最も多く、「ちょっとした買い物」(37.4%)、「災害時の手助け」(33.7%)が続いている。

性別にみると、男性は「災害時の手助け」(42.2%)が女性に比べ高く、女性は「ちょっとした買い物」(44.0%)が男性に比べ高くなっている。

また、年齢別にみると、40～64歳は「災害時の手助け」(45.9%)が65歳以上に比べ高くなっている。

■地域の支え合いとしてできること



		安否確認など	趣味など世間話の相手	介護などの相談相手	の炊事・洗濯・掃除などの家事	ちょっとした買い物	子どもや介護が必要な家族などの預かり	外出の付添い	災害時の手助け	閉め ゴミ出し・雨戸の開け	仕事 電球交換や簡単な大工	その他	特になし	無回答
性別	全体(n=2,361)	63.0	21.6	10.2	8.2	37.4	2.2	9.8	33.7	11.5	7.2	1.0	9.1	6.2
	男性(n=1,085)	64.1	19.1	9.9	4.1	30.0	1.5	9.0	42.2	11.2	14.1	1.0	10.5	4.3
	女性(n=1,243)	62.0	23.6	10.6	11.6	44.0	2.9	10.7	26.5	11.7	1.4	1.0	8.2	7.6
年齢別	全体(n=2,361)	63.0	21.6	10.2	8.2	37.4	2.2	9.8	33.7	11.5	7.2	1.0	9.1	6.2
	40～64歳(n=492)	69.7	16.1	7.1	7.3	40.4	4.3	7.1	45.9	12.4	9.3	0.6	6.3	2.4
	65歳以上(n=1,869)	61.3	23.0	11.0	8.4	36.7	1.7	10.5	30.5	11.3	6.6	1.1	9.9	7.2

1. 市民一般調査

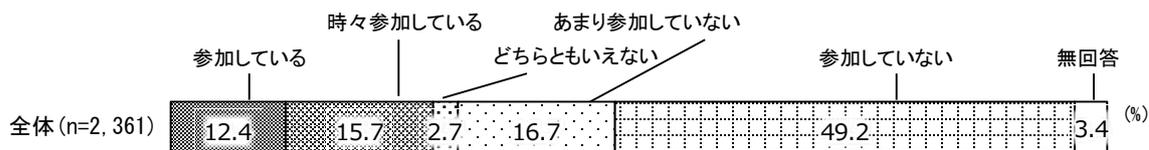
(5) 地域活動やボランティア活動、地域行事等への参加状況（問 28）

地域活動やボランティア活動、地域行事等への参加状況は、「参加していない」（49.2%）が最も多く、「あまり参加していない」（16.7%）、「時々参加している」（15.7%）が続いている。「参加している」と「時々参加している」を合わせた“参加”は28.1%「あまり参加していない」と「参加していない」を合わせた“不参加”は65.9%となっている。

年齢別にみると、40～64歳は“不参加”（78.5%）が65歳以上に比べ高くなっている。

また、地区別にみると、最も“参加”（33.1%）が高いのは第4地区である。

■地域活動やボランティア活動、地域行事等への参加状況



		参加している	時々参加している	どちらともいえない	あまり参加していない	参加していない	無回答	参加	不参加
年齢別	全体(n=2,361)	12.4	15.7	2.7	16.7	49.2	3.4	28.1	65.9
	40～64歳(n=492)	5.5	11.2	2.4	14.2	64.2	2.4	16.7	78.5
	65歳以上(n=1,869)	14.2	16.9	2.7	17.3	45.2	3.6	31.1	62.5
地区別	全体(n=2,361)	12.4	15.7	2.7	16.7	49.2	3.4	28.1	65.9
	第1地区(n=457)	8.8	15.3	2.4	16.6	54.0	2.8	24.1	70.7
	第2地区(n=484)	12.6	16.9	2.3	14.5	49.8	3.9	29.5	64.3
	第3地区(n=428)	12.9	13.6	1.6	21.7	47.2	3.0	26.4	68.9
	第4地区(n=290)	16.9	16.2	1.7	12.8	47.6	4.8	33.1	60.3
	第5地区(n=299)	12.4	16.1	4.0	17.4	46.8	3.3	28.4	64.2
第6地区(n=368)	13.3	16.6	3.8	16.6	47.3	2.4	29.9	63.9	

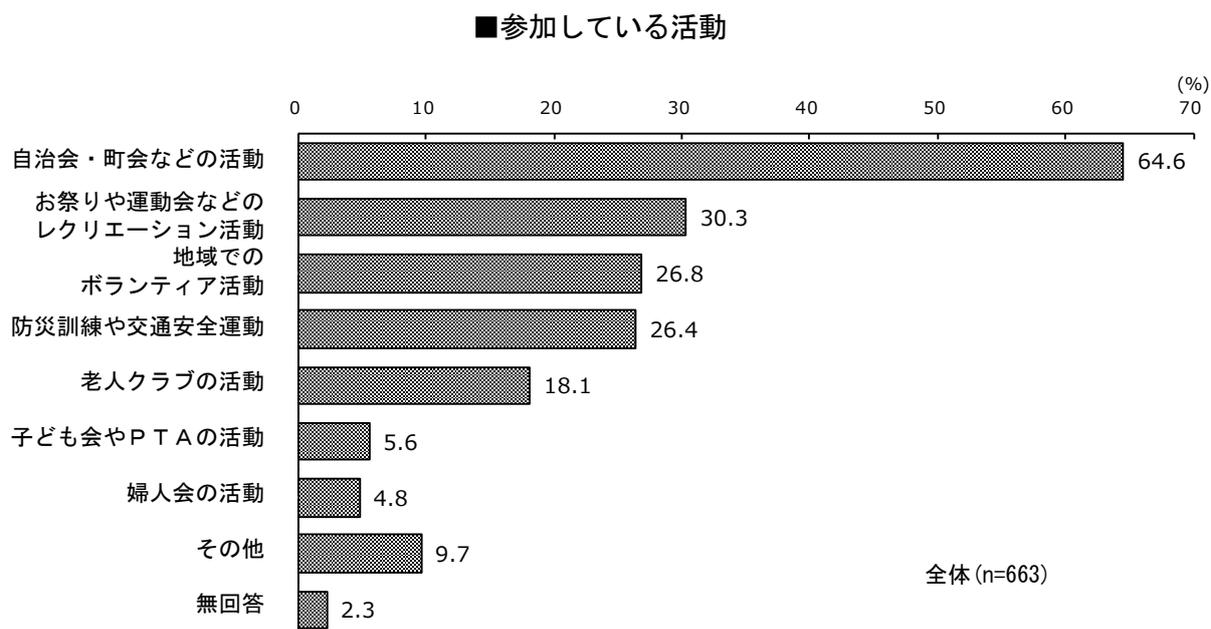
(5) 参加している活動（問 28-1）

“参加”と回答した人に参加している活動をきいたところ、「自治会・町会などの活動」（64.6%）が最も多く、「お祭りや運動会などのレクリエーション活動」（30.3%）、「地域でのボランティア活動」（26.8%）が続いている。

性別にみると、男性は「お祭りや運動会などのレクリエーション活動」（37.1%）が女性に比べ高くなっている。

また、年齢別にみると、40～64歳は「子ども会やPTAの活動」（30.5%）が65歳以上に比べ高く、65歳以上は「自治会・町会などの活動」（66.4%）、「地域でのボランティア活動」（28.4%）が40～64歳に比べ高くなっている。

さらに地区別にみると、第4地区は「お祭りや運動会などのレクリエーション活動」（41.7%）が全体に比べ高くなっている。



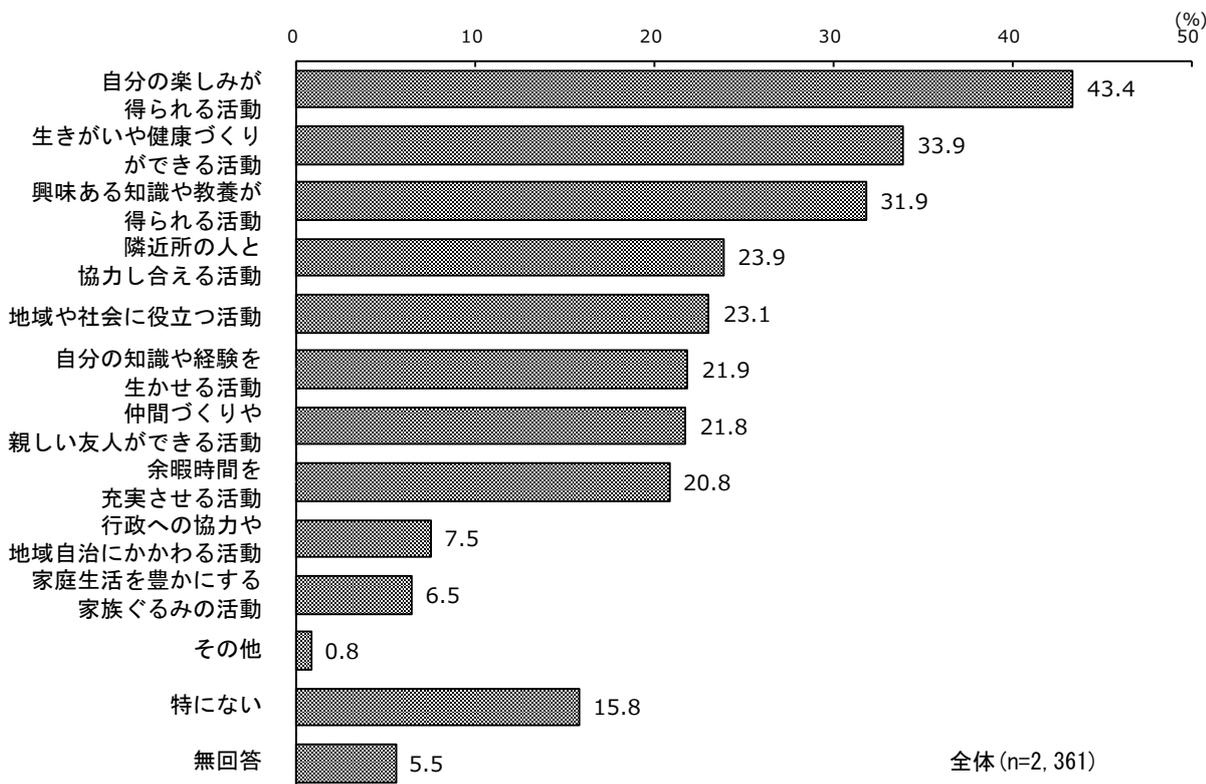
1. 市民一般調査

		自治会・町会などの活動	子ども会やPTAの活動	老人クラブの活動	婦人会の活動	地域でのボランティア活動	防災訓練や交通安全運動	お祭りや運動会などのレクリエーション活動	その他	無回答
性別	全体(n=663)	64.6	5.6	18.1	4.8	26.8	26.4	30.3	9.7	2.3
	男性(n=299)	68.6	2.7	19.7	0.0	29.4	28.4	37.1	9.0	1.7
	女性(n=357)	61.1	8.1	16.8	9.0	24.9	24.6	24.4	10.4	2.8
年齢別	全体(n=663)	64.6	5.6	18.1	4.8	26.8	26.4	30.3	9.7	2.3
	40～64歳(n=82)	51.2	30.5	1.2	3.7	15.9	13.4	32.9	4.9	1.2
	65歳以上(n=581)	66.4	2.1	20.5	5.0	28.4	28.2	29.9	10.3	2.4
地区別	全体(n=663)	64.6	5.6	18.1	4.8	26.8	26.4	30.3	9.7	2.3
	第1地区(n=110)	64.5	5.5	13.6	3.6	25.5	24.5	29.1	10.9	1.8
	第2地区(n=143)	59.4	7.0	16.1	2.1	24.5	25.9	25.9	11.9	3.5
	第3地区(n=113)	67.3	4.4	17.7	7.1	31.0	28.3	25.7	13.3	0.9
	第4地区(n=96)	62.5	6.3	30.2	6.3	21.9	32.3	41.7	5.2	4.2
	第5地区(n=85)	69.4	4.7	12.9	3.5	31.8	23.5	21.2	10.6	2.4
	第6地区(n=110)	67.3	4.5	19.1	6.4	27.3	24.5	38.2	4.5	0.9

(6) これから参加したい活動 (問 29)

これから参加したい活動は、「自分の楽しみが得られる活動」(43.4%)が最も多く、「生きがいや健康づくりができる活動」(33.9%)、「興味ある知識や教養が得られる活動」(31.9%)が続いている。

■これから参加したい活動

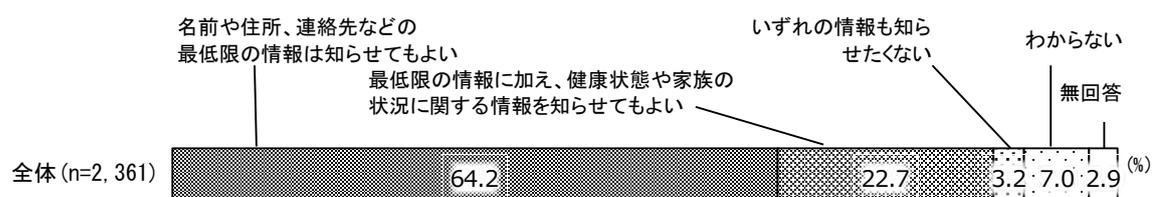


9 災害時の対応について

(1) 災害対策のため自分の住所、氏名、連絡先などを事前通知することについて（問 30）

災害対策のため自分の住所、氏名、連絡先などを事前通知することについては、「名前や住所、連絡先などの最低限の情報は知らせてもよい」が64.2%、「最低限の情報に加え、健康状態や家族の状況に関する情報を知らせてもよい」が22.7%、「いずれの情報も知らせたくない」が3.2%となっている。

■災害対策のため自分の住所、氏名、連絡先などを事前通知することについて



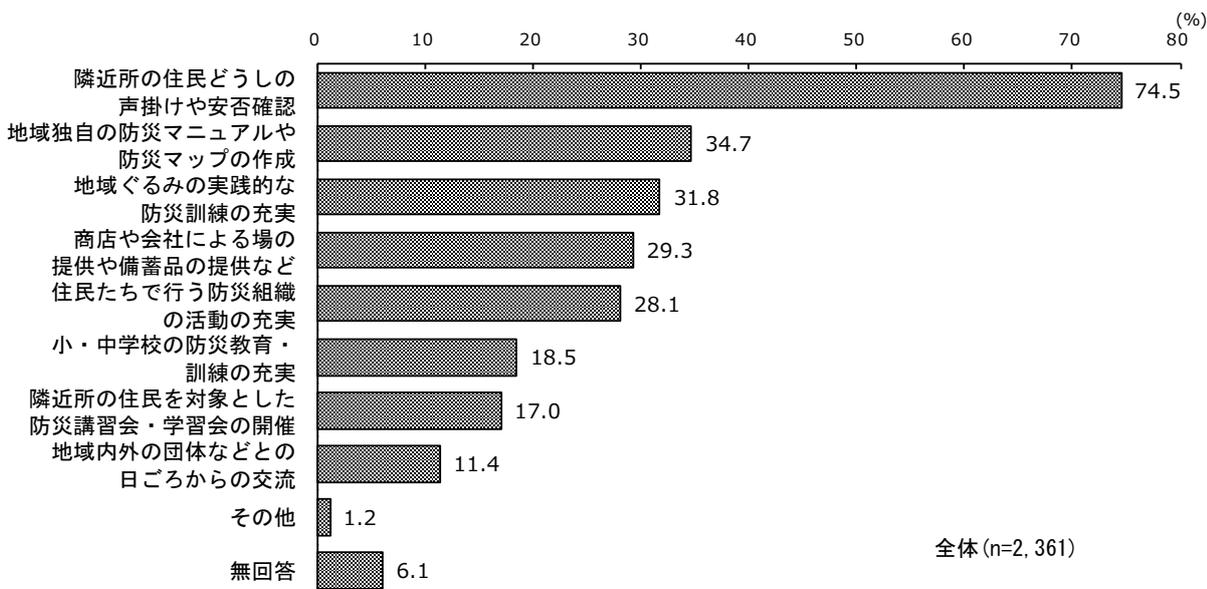
1. 市民一般調査

(2) 災害に備えて市民や企業等が協働で取り組むとよいと思うもの（問 31）

災害に備えて市民や企業等が協働で取り組むとよいと思うものは、「隣近所の住民どうしの声掛けや安否確認」(74.5%)が最も多く、「地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成」(34.7%)、「地域ぐるみの実践的な防災訓練の充実」(31.8%)が続いている。

年齢別にみると、40～64歳は「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など」(41.9%)が65歳以上に比べ高く、65歳以上は「隣近所の住民どうしの声掛けや安否確認」(77.0%)が40～64歳に比べ高くなっている。

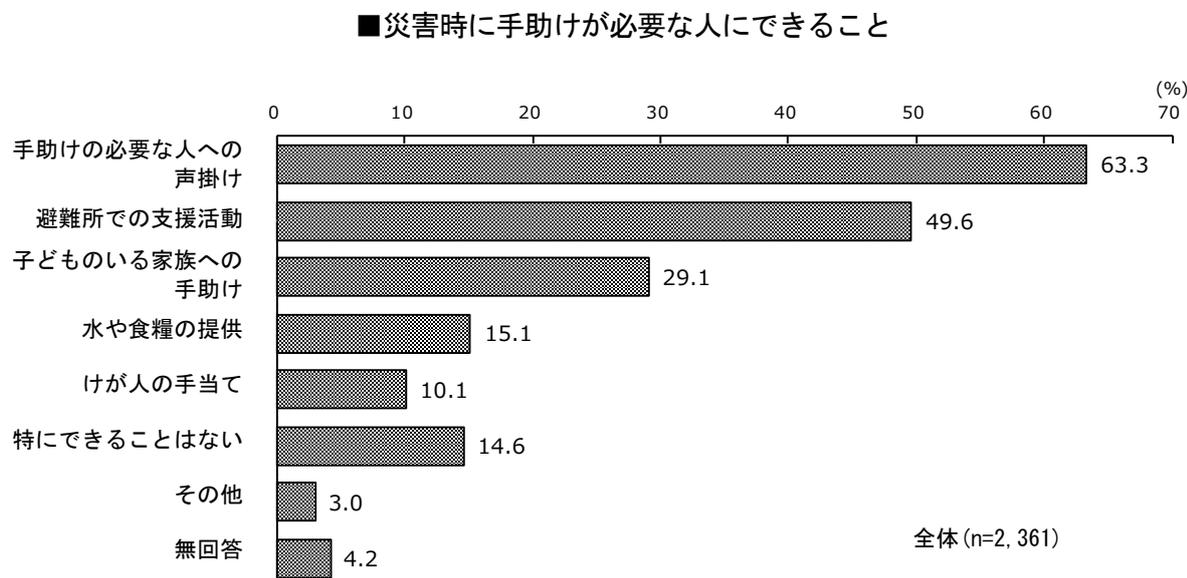
■災害に備えて市民や企業等が協働で取り組むとよいと思うもの



	隣近所の住民どうしの声掛けや安否確認	住民たちで行う防災組織の活動の充実	地域ぐるみの実践的な防災訓練の充実	地域独自の防災マップの作成	隣近所の住民を対象とした防災講習会・学習会の開催	小・中学校の防災教育・訓練の充実	地域内外の団体などとの日ごろからの交流	商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など	その他	無回答
全体(n=2,361)	74.5	28.1	31.8	34.7	17.0	18.5	11.4	29.3	1.2	6.1
年齢別										
40～64歳(n=492)	64.8	27.4	31.1	40.9	14.6	27.0	11.6	41.9	0.8	2.6
65歳以上(n=1,869)	77.0	28.3	31.9	33.1	17.6	16.2	11.3	25.9	1.3	7.0

(3) 災害時に手助けが必要な人にできること (問 32)

災害時に手助けが必要な人にできることは、「手助けが必要な人への声掛け」(63.3%)が最も多く、「避難所での支援活動」(49.6%)、「子どものいる家族への手助け」(29.1%)が続いている。年齢別にみると、40～64歳は「避難所での支援活動」(64.2%)が65歳以上に比べ高くなっている。



		避難所での支援活動	手助けが必要な人への声掛け	子どものいる家族への手助け	けが人の手当て	水や食糧の提供	特にできることはない	その他	無回答
年齢別	全体(n=2,361)	49.6	63.3	29.1	10.1	15.1	14.6	3.0	4.2
	40～64歳(n=492)	64.2	65.7	34.8	8.5	9.1	7.7	1.8	1.6
	65歳以上(n=1,869)	45.8	62.7	27.6	10.5	16.7	16.4	3.3	4.8

1. 市民一般調査

10 情報について

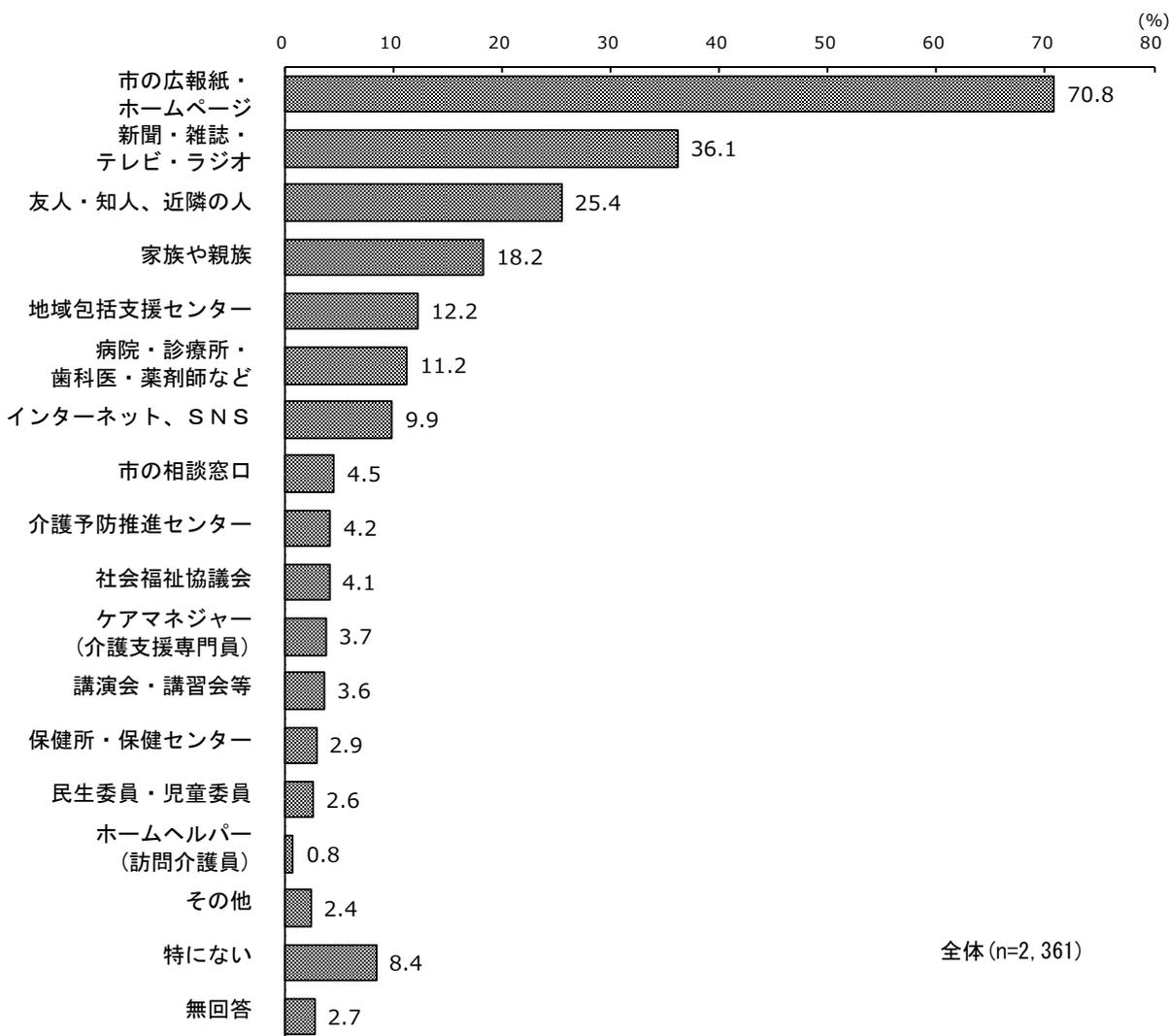
(1) 健康や介護、福祉サービス、地域活動の情報入手先 (問 33)

健康や介護、福祉サービス、地域活動の情報入手先は、「市の広報紙・ホームページ」(70.8%)が最も多く、「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」(36.1%)、「友人・知人、近隣の人」(25.4%)が続いている。

性別にみると、女性は「友人・知人、近隣の人」(30.5%)が男性に比べ高くなっている。

年齢別にみると、65歳以上は「地域包括支援センター」(14.7%)、「友人・知人、近隣の人」(27.7%)、「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」(38.8%)が40~64歳に比べ高く、40~64歳は「インターネット、SNS」(26.2%)が65歳以上に比べ高くなっている。

■健康や介護、福祉サービス、地域活動の情報入手先



	市の広報紙・ホームページ	市の相談窓口	地域包括支援センター	保健所・保健センター	社会福祉協議会	介護予防推進センター	病院・診療所・歯科医・薬剤師など	訪問ヘルパー(ホームヘルパー)	ケアマネジャー(介護支援専門員)	民生委員・児童委員	家族や親族	友人・知人、近隣	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ	講演会・講習会等	インターネット、SNS	その他	特にない	無回答	
性別	全体(n=2,361)	70.8	4.5	12.2	2.9	4.1	4.2	11.2	0.8	3.7	2.6	18.2	25.4	36.1	3.6	9.9	2.4	8.4	2.7
	男性(n=1,085)	68.3	5.5	9.6	3.0	3.7	3.3	13.5	0.7	2.9	1.8	21.6	19.6	37.2	2.8	12.5	2.5	10.6	2.1
	女性(n=1,243)	73.0	3.7	14.8	2.8	4.5	5.0	8.8	0.8	4.5	3.2	15.1	30.5	35.0	4.3	7.7	2.3	6.5	3.1
年齢別	全体(n=2,361)	70.8	4.5	12.2	2.9	4.1	4.2	11.2	0.8	3.7	2.6	18.2	25.4	36.1	3.6	9.9	2.4	8.4	2.7
	40~64歳(n=492)	66.1	3.3	2.6	1.2	1.4	0.2	8.5	0.2	3.3	0.4	14.4	16.9	25.8	1.0	26.2	3.0	13.8	1.0
	65歳以上(n=1,869)	72.0	4.9	14.7	3.3	4.8	5.2	11.9	0.9	3.9	3.2	19.2	27.7	38.8	4.3	5.6	2.2	7.0	3.2

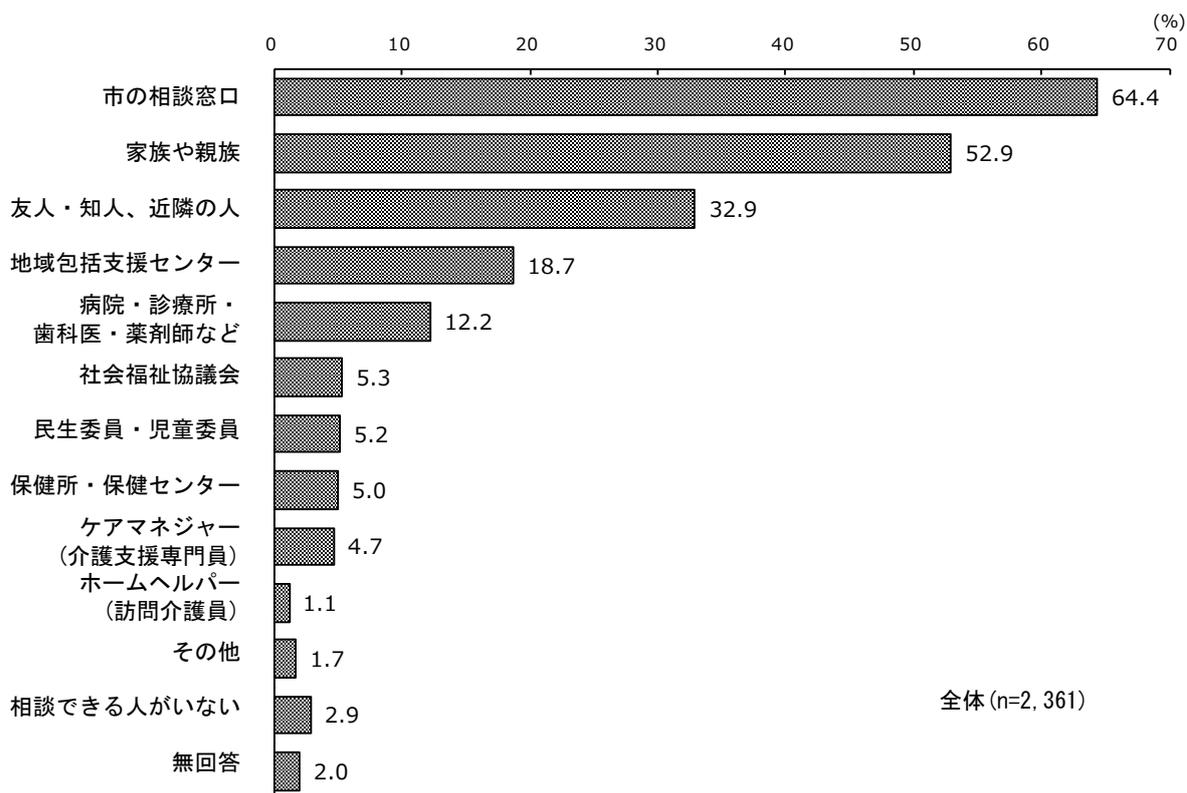
(2) 暮らしの問題や福祉に関する相談先 (問 34)

暮らしの問題や福祉に関する相談先は、「市の相談窓口」(64.4%)が最も多く、「家族や親族」(52.9%)、「友人・知人、近隣の人」(32.9%)が続いている。

性別にみると、女性は「家族や親族」(57.8%)、「友人・知人、近隣の人」(39.3%)が男性に比べ高くなっている。

年齢別にみると、65歳以上は「地域包括支援センター」(21.5%)が40～64歳に比べ高くなっている。

■暮らしの問題や福祉に関する相談先



		市の相談窓口	地域包括支援センター	保健所・保健センター	社会福祉協議会	病院・診療所など・ 歯科	ホームヘルパー (訪問介護員)	ケアマネジャー (介護支援専門員)	民生委員・児童委員	家族や親族	友人・知人、 近隣の	その他	相談できる人がいない	無回答
性別	全体(n=2,361)	64.4	18.7	5.0	5.3	12.2	1.1	4.7	5.2	52.9	32.9	1.7	2.9	2.0
	男性(n=1,085)	68.1	15.2	6.1	5.0	12.9	1.6	4.1	4.6	47.3	25.9	2.0	4.5	1.3
	女性(n=1,243)	61.2	21.8	3.9	5.6	11.3	0.8	5.2	5.8	57.8	39.3	1.4	1.5	2.4
年齢別	全体(n=2,361)	64.4	18.7	5.0	5.3	12.2	1.1	4.7	5.2	52.9	32.9	1.7	2.9	2.0
	40～64歳(n=492)	63.8	8.1	5.5	1.6	10.0	0.8	3.5	1.2	52.0	39.4	1.4	5.7	0.6
	65歳以上(n=1,869)	64.5	21.5	4.9	6.3	12.8	1.2	5.0	6.2	53.2	31.2	1.8	2.1	2.4

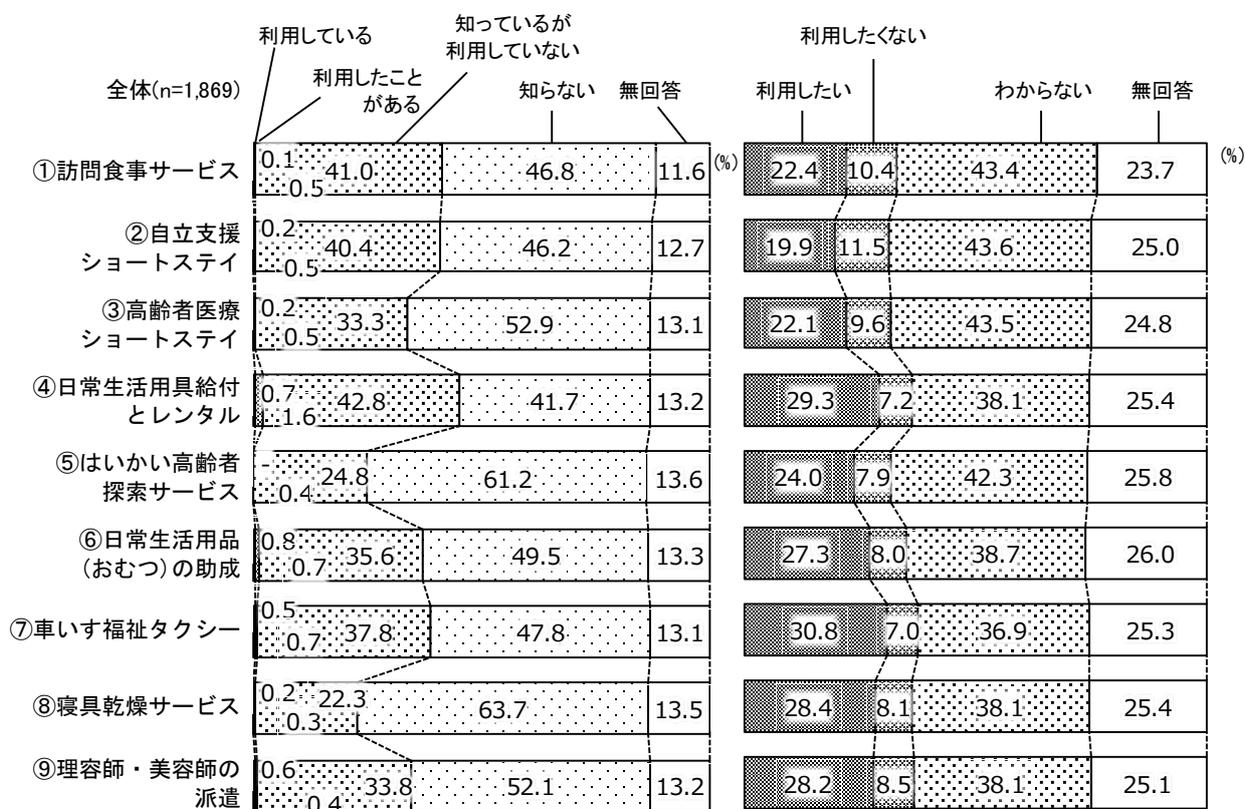
11 高齢者保健福祉サービスについて

(1) 高齢者保健福祉サービスに関する利用状況、利用意向（問 35）

高齢者保健福祉サービスについて、「利用している」「利用したことがある」を合わせた“利用状況”は、『日常生活用具給付とレンタル』(2.3%)が最も多く、『日常生活用品(おむつ)の助成』(1.5%)、『車いす福祉タクシー』(1.2%)が続いている。「利用している」「利用したことがある」「知っているが利用していない」を合わせた“認知度”は、『日常生活用具給付とレンタル』(45.1%)が最も多く、『訪問食事サービス』(41.6%)、『自立支援ショートステイ』(41.1%)が続いている。利用意向は、『車いす福祉タクシー』(30.8%)が最も多く、『日常生活用具給付とレンタル』(29.3%)、『寝具乾燥サービス』(28.4%)が続いている。

性別にみると、女性は“認知度”も利用意向も男性に比べ高くなっている。

■高齢者保健福祉サービスに関する利用状況、利用意向



1. 市民一般調査

		利用 してい	と利 用し たこ	いが知 ない利 用して	知ら ない	無 回 答	認 知 度
訪問食事サービス	全体(n=1,869)	0.1	0.5	41.0	46.8	11.6	41.6
	男性(n=862)	0.1	0.7	34.7	54.5	10.0	35.5
	女性(n=977)	0.0	0.3	46.8	40.5	12.4	47.1
自立支援ショートステイ	全体(n=1,869)	0.2	0.5	40.4	46.2	12.7	41.1
	男性(n=862)	0.2	0.6	33.8	54.1	11.4	34.6
	女性(n=977)	0.1	0.5	46.3	39.9	13.2	46.9
高齢者医療ショートステイ	全体(n=1,869)	0.2	0.5	33.3	52.9	13.1	34.0
	男性(n=862)	0.1	0.5	29.2	58.2	11.9	29.8
	女性(n=977)	0.2	0.5	37.1	48.7	13.5	37.8
日常生活用具給付とレンタル	全体(n=1,869)	0.7	1.6	42.8	41.7	13.2	45.1
	男性(n=862)	0.6	1.3	35.0	51.2	11.9	36.9
	女性(n=977)	0.9	1.8	49.7	33.9	13.6	52.5
はいかい高齢者探索サービス	全体(n=1,869)	0.0	0.4	24.8	61.2	13.6	25.1
	男性(n=862)	0.0	0.3	21.7	65.5	12.4	22.0
	女性(n=977)	0.0	0.4	27.4	58.0	14.1	27.8
日常生活用品(おむつ)の助成	全体(n=1,869)	0.8	0.7	35.6	49.5	13.3	37.2
	男性(n=862)	0.9	0.8	30.2	56.0	12.1	31.9
	女性(n=977)	0.7	0.6	40.7	44.2	13.7	42.1
車いす福祉タクシー	全体(n=1,869)	0.5	0.7	37.8	47.8	13.1	39.1
	男性(n=862)	0.8	0.6	34.1	52.6	11.9	35.5
	女性(n=977)	0.2	0.8	41.2	44.2	13.5	42.3
寝具乾燥サービス	全体(n=1,869)	0.2	0.3	22.3	63.7	13.5	22.8
	男性(n=862)	0.3	0.3	20.1	66.8	12.4	20.8
	女性(n=977)	0.1	0.2	24.4	61.4	13.9	24.7
理容師・美容師の派遣	全体(n=1,869)	0.6	0.4	33.8	52.1	13.2	34.7
	男性(n=862)	0.9	0.6	29.0	57.5	11.9	30.5
	女性(n=977)	0.3	0.2	38.1	47.9	13.5	38.6

		利用 した	く利 ない した	いわ か ら な	無 回 答
訪問食事サービス	全体(n=1,869)	22.4	10.4	43.4	23.7
	男性(n=862)	20.2	10.8	49.0	20.1
	女性(n=977)	24.6	10.3	38.8	26.3
自立支援ショートステイ	全体(n=1,869)	19.9	11.5	43.6	25.0
	男性(n=862)	17.5	12.1	49.0	21.5
	女性(n=977)	22.2	11.3	39.0	27.5
高齢者医療ショートステイ	全体(n=1,869)	22.1	9.6	43.5	24.8
	男性(n=862)	19.7	10.4	48.1	21.7
	女性(n=977)	24.4	9.0	39.7	26.9
日常生活用具給付とレンタル	全体(n=1,869)	29.3	7.2	38.1	25.4
	男性(n=862)	25.1	8.5	44.8	21.7
	女性(n=977)	33.5	6.1	32.4	27.9
はいかい高齢者探索サービス	全体(n=1,869)	24.0	7.9	42.3	25.8
	男性(n=862)	21.5	9.3	47.1	22.2
	女性(n=977)	26.6	6.8	38.3	28.4
日常生活用品(おむつ)の助成	全体(n=1,869)	27.3	8.0	38.7	26.0
	男性(n=862)	21.9	10.2	45.2	22.6
	女性(n=977)	32.2	6.2	33.2	28.4
車いす福祉タクシー	全体(n=1,869)	30.8	7.0	36.9	25.3
	男性(n=862)	25.2	8.8	43.9	22.2
	女性(n=977)	36.2	5.3	31.0	27.4
寝具乾燥サービス	全体(n=1,869)	28.4	8.1	38.1	25.4
	男性(n=862)	24.2	9.2	44.2	22.4
	女性(n=977)	32.4	7.2	32.9	27.5
理容師・美容師の派遣	全体(n=1,869)	28.2	8.5	38.1	25.1
	男性(n=862)	23.9	9.7	44.0	22.4
	女性(n=977)	32.2	7.5	33.3	27.0

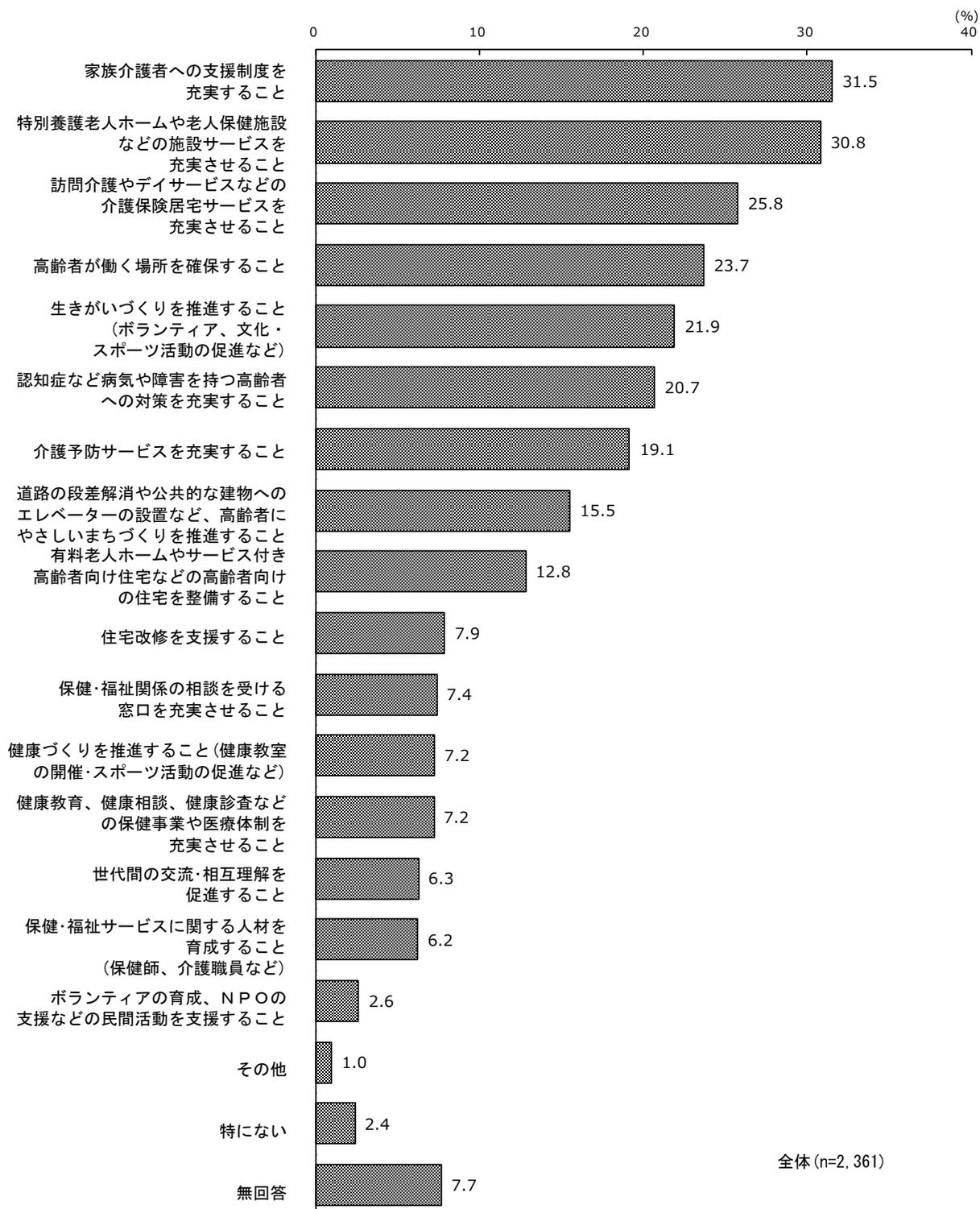
1. 市民一般調査

(2) 府中市が優先して取り組むべきサービス (問 36)

府中市が優先して取り組むべきサービスは、「家族介護者への支援制度を充実すること」(31.5%)が最も多く、「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設サービスを充実させること」(30.8%)、「訪問介護やデイサービスなどの介護保険居宅サービスを充実させること」(25.8%)が続いている。

年齢別にみると、40～64歳は「高齢者が働く場所を確保すること」(41.9%)、「訪問介護やデイサービスなどの介護保険居宅サービスを充実させること」(35.0%)が65歳以上に比べ高くなっている。

■府中市が優先して取り組むべきサービス



1. 市民一般調査

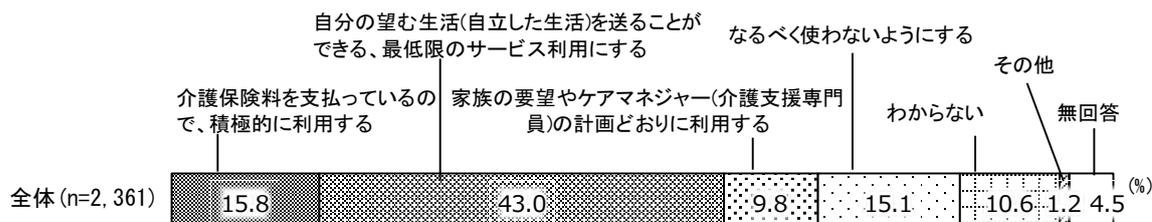
		生活がいづくりを推進すること（ボランティア、文化・スポーツ活動の促進など）	高齢者が働く場所を確保すること	世代間の交流・相互理解を促進すること	介護予防サービスを充実すること	訪問介護やデイサービスなどの介護保険居宅サービスを充実させること	特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設サービスを充実させること	有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅などの高齢者向けの住宅を整備すること	住宅改修を支援すること	認知症など病気や障害を持つ高齢者への対策を充実すること	家族介護者への支援制度を充実すること	健康教育、健康相談、健康診査などの健康事業や医療体制を充実させること	健康づくりを推進すること（健康教室の開催・スポーツ活動の促進など）	保健・福祉関係の相談を受ける窓口を充実させること	保健・福祉サービスに関する人材を育成すること（保健師、介護職員など）	ボランティアの育成、NPOの支援などの民間活動を支援すること	道路の段差解消や公共的な建物へのエレベーターの設置など、高齢者にやさしいまちづくりを推進すること	その他	特になし	無回答
年齢別	全体(n=2,361)	21.9	23.7	6.3	19.1	25.8	30.8	12.8	7.9	20.7	31.5	7.2	7.2	7.4	6.2	2.6	15.5	1.0	2.4	7.7
	40～64歳(n=492)	20.9	41.9	8.1	22.6	35.0	27.0	11.6	6.7	22.0	37.0	6.9	6.1	8.3	5.1	3.0	13.2	0.8	0.8	1.8
	65歳以上(n=1,869)	22.2	18.9	5.8	18.2	23.3	31.8	13.1	8.2	20.3	30.1	7.3	7.5	7.1	6.5	2.5	16.1	1.0	2.8	9.2

12 介護保険について

(1) 介護保険サービス利用についての考え（問 37）

介護保険サービス利用についての考えは、「自分の望む生活(自立した生活)を送ることができる、最低限のサービス利用にする」(43.0%)が最も多く、「介護保険料を支払っているので、積極的に利用する」(15.8%)、「なるべく使わないようにする」(15.1%)が続いている。

■介護保険サービス利用についての考え

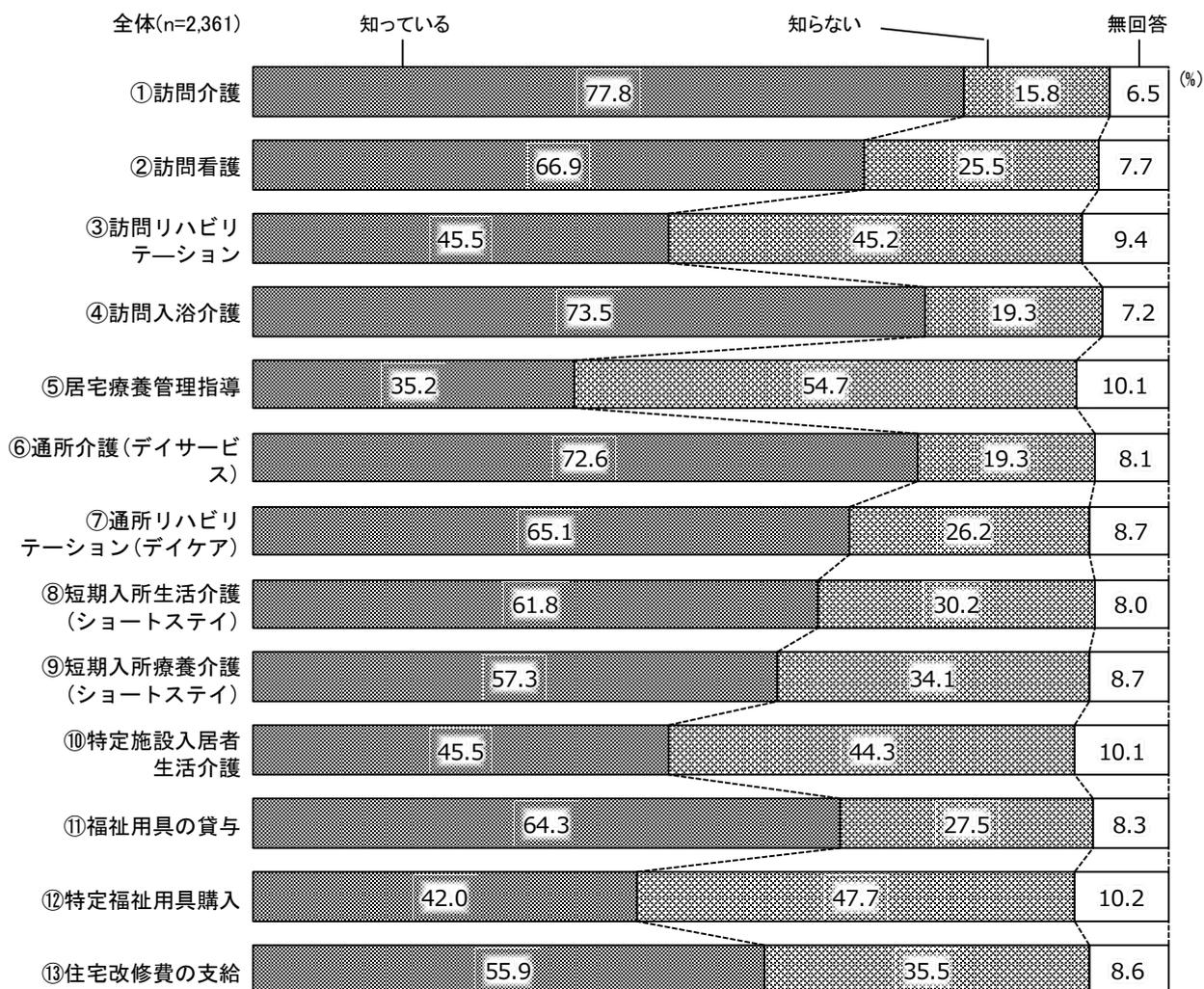


1. 市民一般調査

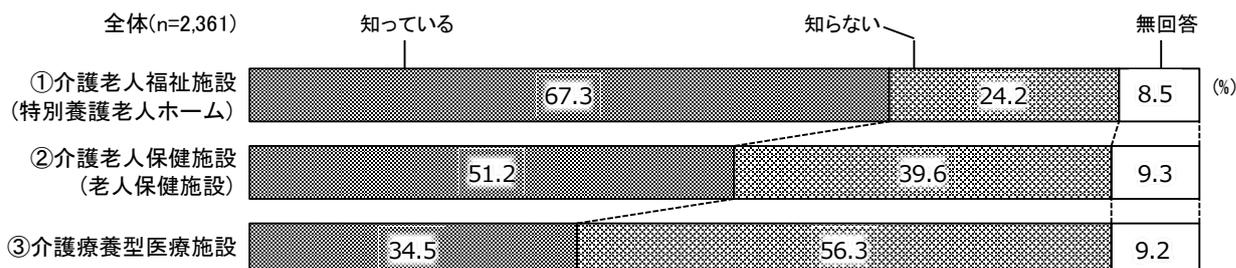
(2) 介護保険サービスの認知度 (問 38)

介護保険サービスの認知度について、居宅サービスは『訪問介護』(77.8%)が最も多く、『訪問入浴介護』(73.5%)、『通所介護(デイサービス)』(72.6%)が続いている。施設サービスは『介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)』(67.3%)が最も多く、『介護老人保健施設(老人保健施設)』(51.2%)、『介護療養型医療施設』(34.5%)が続いている。地域密着型サービスは『認知症対応型共同生活介護(グループホーム)』(27.9%)が最も多く、『定期巡回・随時対応型訪問介護看護』(25.8%)、『夜間対応型訪問介護』(22.2%)が続いている。

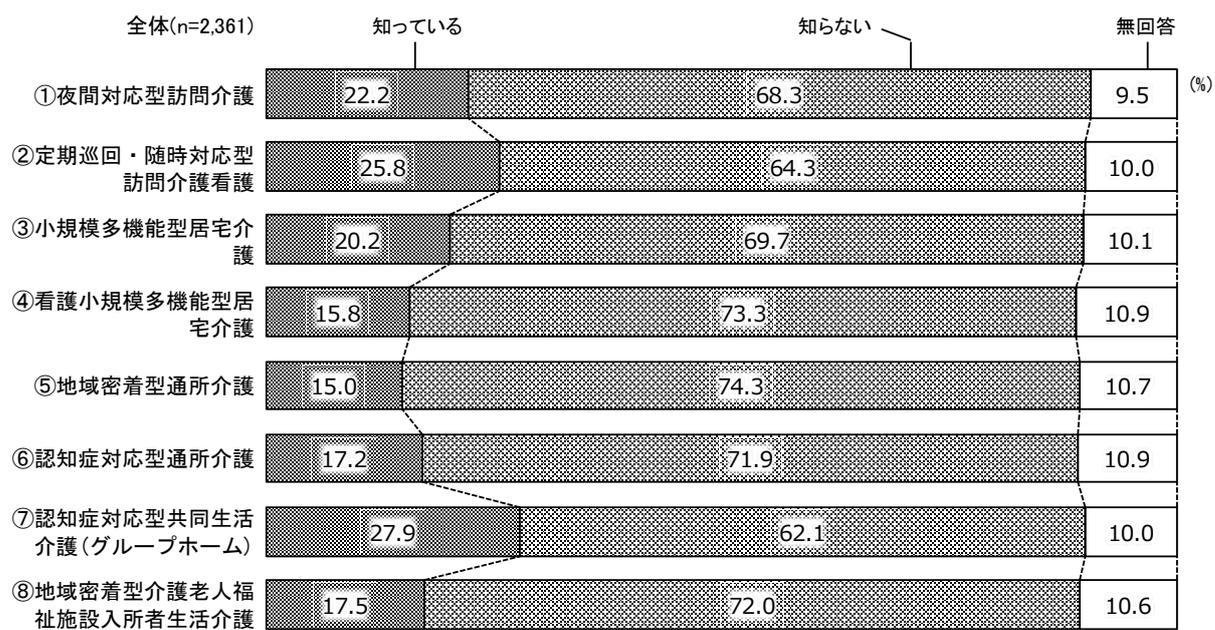
■介護保険サービスの認知度 (居宅サービス)



■介護保険サービスの認知度 (施設サービス)



■介護保険サービスの認知度（地域密着型サービス）



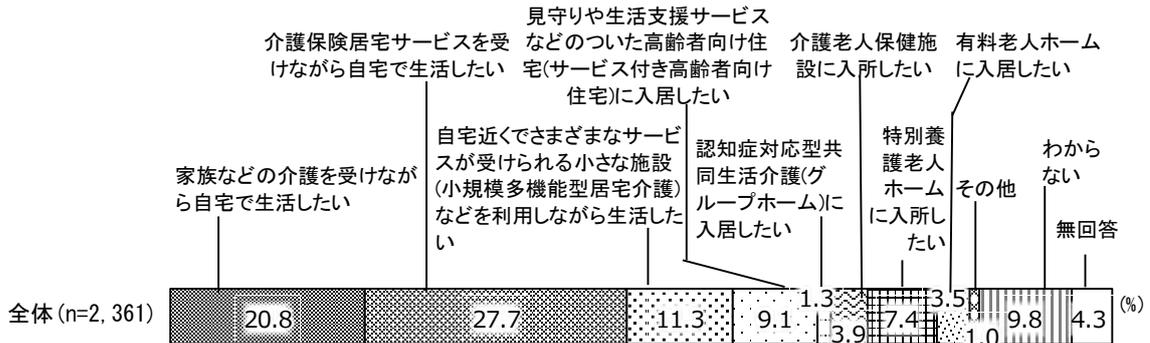
1. 市民一般調査

(3) 介護が必要になった時に生活したい場所 (問 39)

介護が必要になった時に生活したい場所は、「介護保険居宅サービスを受けながら自宅で生活したい」(27.7%)が最も多く、「家族などの介護を受けながら自宅で生活したい」(20.8%)、「自宅近くでさまざまなサービスが受けられる小さな施設(小規模多機能型居宅介護)などを利用しながら生活したい」(11.3%)が続いている。

性別にみると、男性は「家族などの介護を受けながら自宅で生活したい」(26.4%)が女性に比べ高くなっている。

■ 介護が必要になった時に生活したい場所

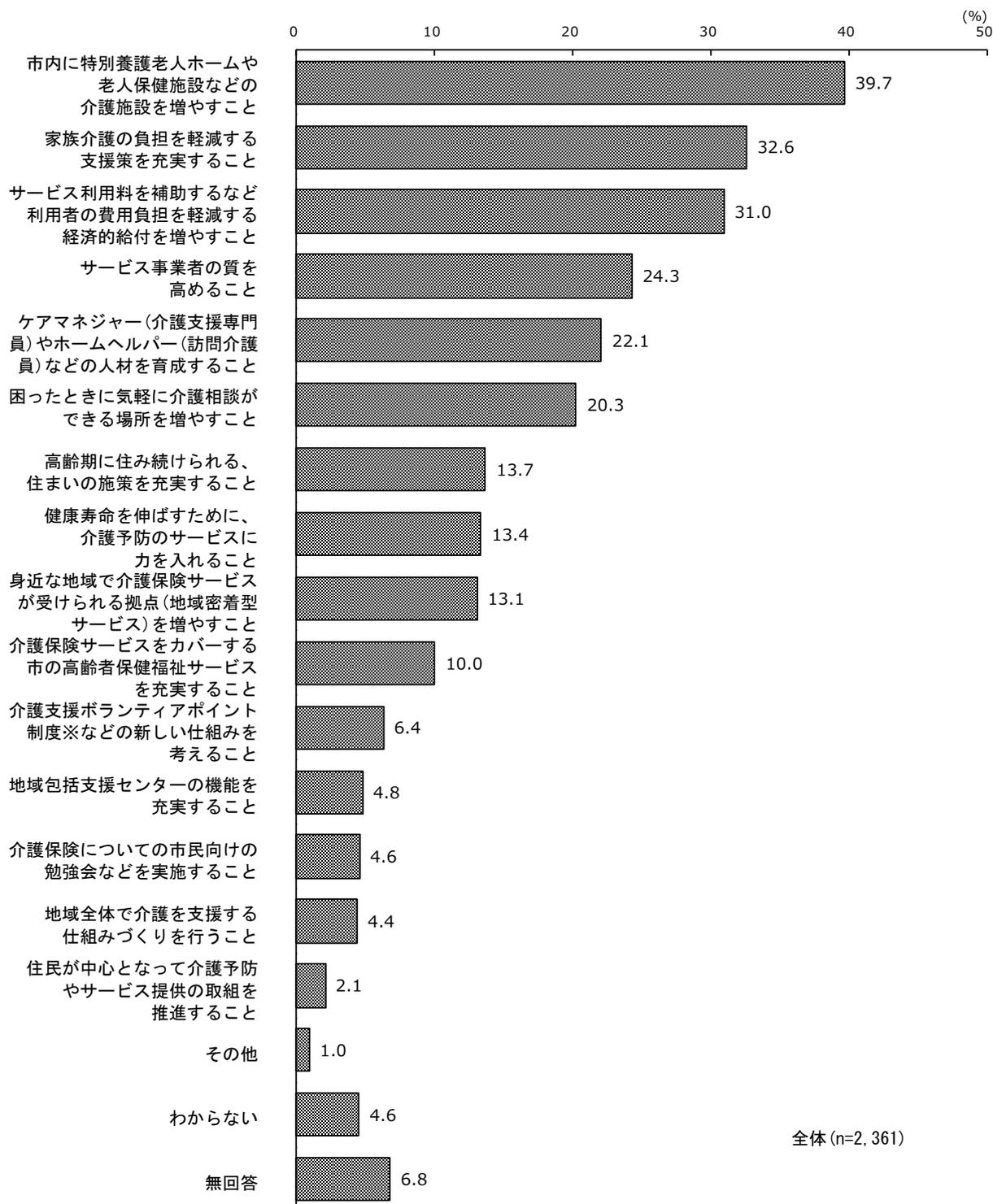


性別	全体(n=2,361)	家族などの介護を受けながら自宅で生活したい	介護保険居宅サービスを受けながら自宅で生活したい	自宅近くでさまざまなサービスが受けられる小さな施設(小規模多機能型居宅介護)などを利用しながら生活したい	見守りや生活支援サービスなどのついた高齢者向け住宅(サービス付き高齢者向け住宅)に入居したい	認知症対応型共同生活介護(グループホーム)に入居したい	介護老人保健施設に入所したい	特別養護老人ホームに入所したい	有料老人ホームに入居したい	その他	わからない	無回答
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
	全体(n=2,361)	20.8	27.7	11.3	9.1	1.3	3.9	7.4	3.5	1.0	9.8	4.3
	男性(n=1,085)	26.4	26.8	9.2	7.2	1.3	4.0	7.7	3.3	1.1	8.9	4.1
	女性(n=1,243)	16.2	28.6	13.2	10.7	1.3	3.8	7.2	3.6	0.7	10.5	4.2

(4) 介護保険制度の全体をよりよくするために府中市が力を入れるべきこと (問 40)

介護保険制度の全体をよりよくするために府中市が力を入れるべきことは、「市内に特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護施設を増やすこと」(39.7%)が最も多く、「家族介護の負担を軽減する支援策を充実すること」(32.6%)、「サービス利用料を補助するなど利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと」(31.0%)が続いている。

■介護保険制度の全体をよりよくするために府中市が力を入れるべきこと



1. 市民一般調査

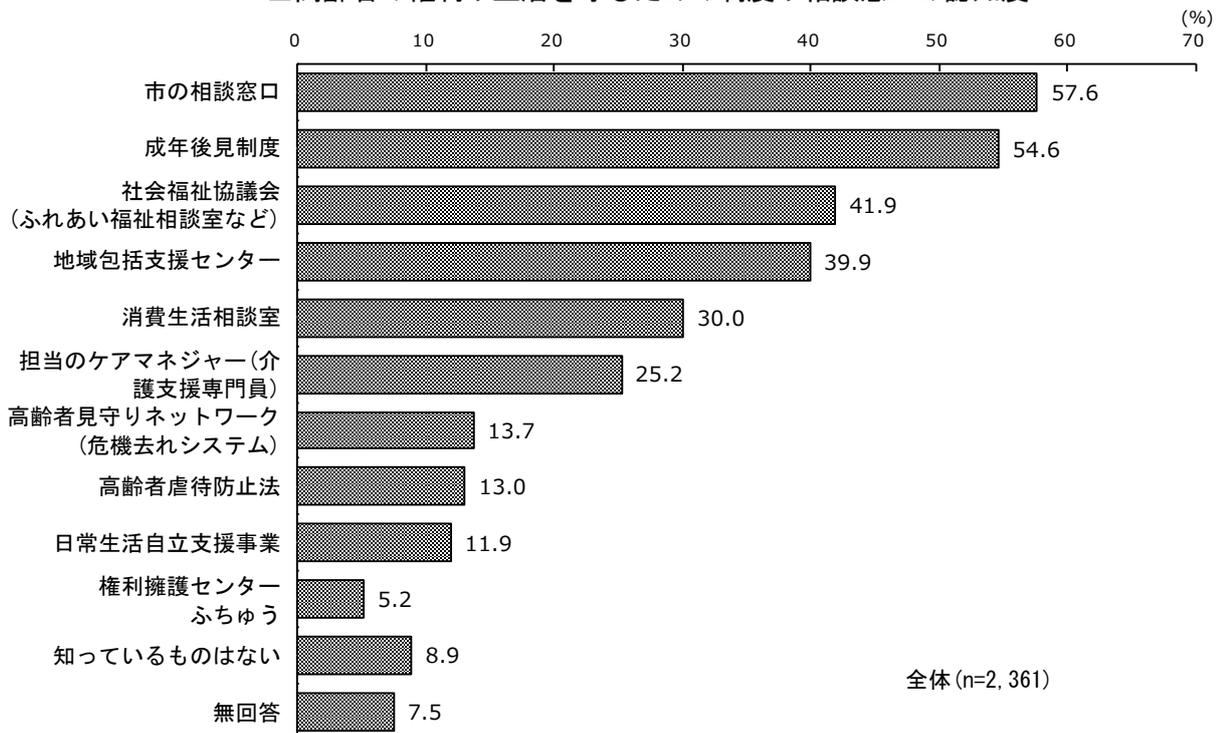
12 高齢者の権利擁護について

(1) 高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口の認知度 (問 41)

高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口の認知度は、「市の相談窓口」(57.6%)が最も多く、「成年後見制度」(54.6%)、「社会福祉協議会(ふれあい福祉相談室など)」(41.9%)が続いている。

性別にみると、女性は「地域包括支援センター」(47.0%)が男性に比べ高くなっている。

■ 高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口の認知度

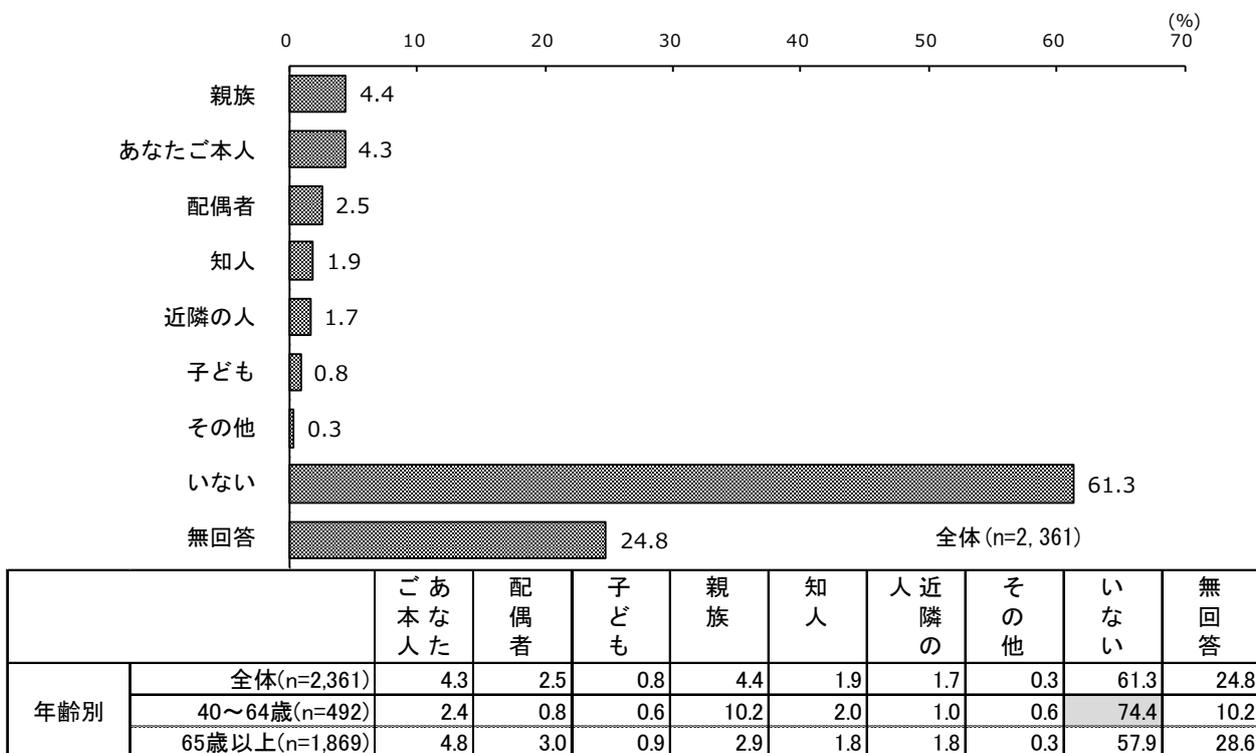


		成年後見制度	日常生活自立支援事業	地域包括支援センター	高齢者見守りネットワーク (危機去れシステム)	高齢者虐待防止法	市の相談窓口	社会福祉協議会 (ふれあい福祉相談室など)	権利擁護センター ふちゆう	消費生活相談室	担当のケアマネジャー (介護支援専門員)	知っているものはない	無回答
性別	全体(n=2,361)	54.6	11.9	39.9	13.7	13.0	57.6	41.9	5.2	30.0	25.2	8.9	7.5
	男性(n=1,085)	52.5	11.2	31.9	12.5	12.2	57.9	40.6	5.1	28.2	19.0	11.6	6.3
	女性(n=1,243)	56.8	12.8	47.0	14.7	13.6	57.3	42.9	5.1	31.5	30.5	6.5	8.2

(2) 周囲で困っている人（本人を含む）（問 42）

周囲で困っている人（本人を含む）は、「いない」（61.3%）が最も多い。困っている人の中では、「親族」（4.4%）が最も多く、「あなたご本人」（4.3%）、「配偶者」（2.5%）が続いている。年齢別にみると、40～64歳は「いない」（74.4%）が65歳以上に比べ高くなっている。

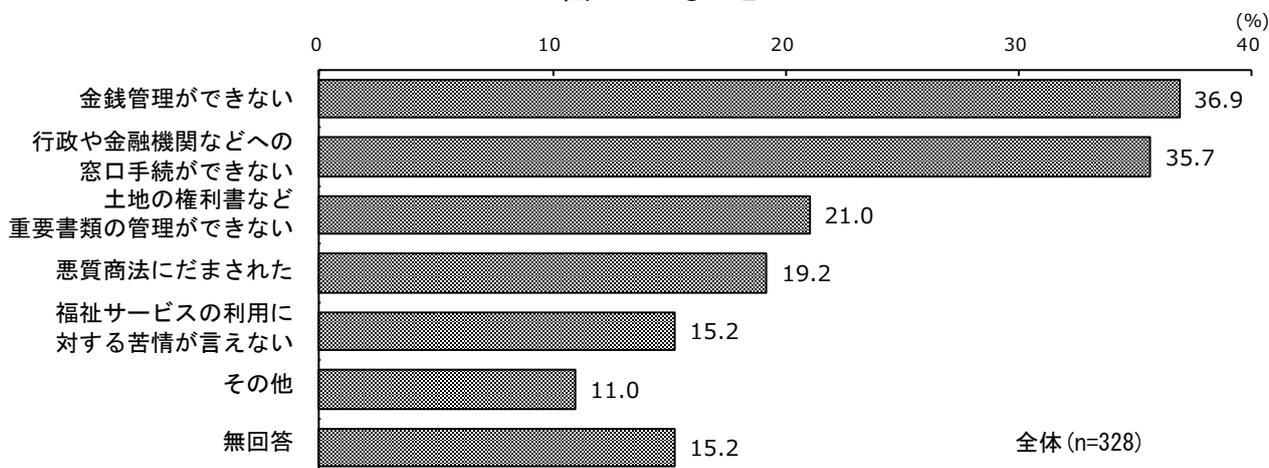
■周囲で困っている人（本人を含む）



(3) 困っていること（問 42-1）

周囲で困っている人（本人を含む）がいると回答した人に困っていることをきいたところ、「金銭管理ができない」（36.9%）が最も多く、「行政や金融機関などへの窓口手続きができない」（35.7%）、「土地の権利書など重要書類の管理ができない」（21.0%）が続いている。

■困っていること



1. 市民一般調査

(4) 市の高齢者保健福祉サービスや介護保険制度についての意見・要望〈自由回答〉(問
43)

※整理中

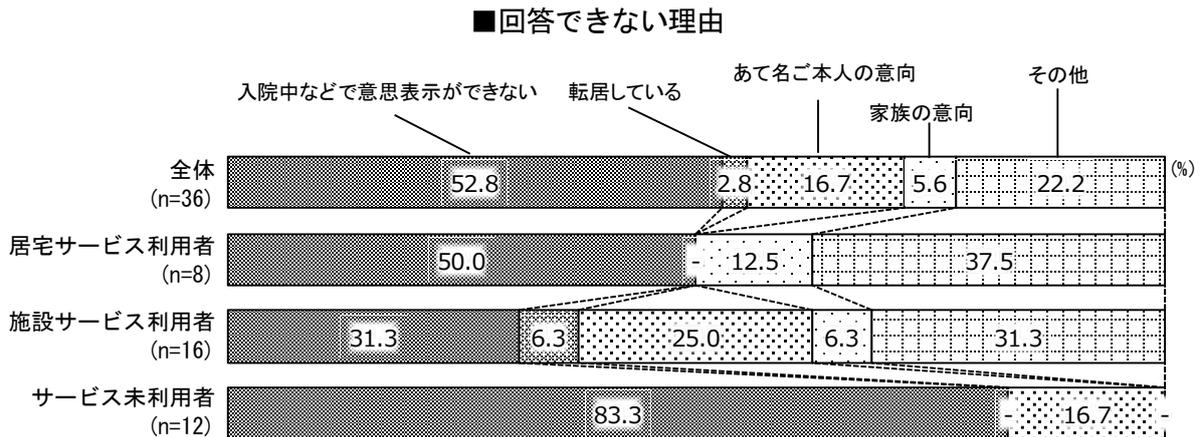
2. 要支援・要介護認定者調査

1 調査票記入にあたって

(1) 回答できない理由

回答できない理由は、「入院中などで意思表示ができない」(52.8%)が最も多く、「あて名ご本人の意向」(16.7%)、「家族の意向」(5.6%)が続いている。

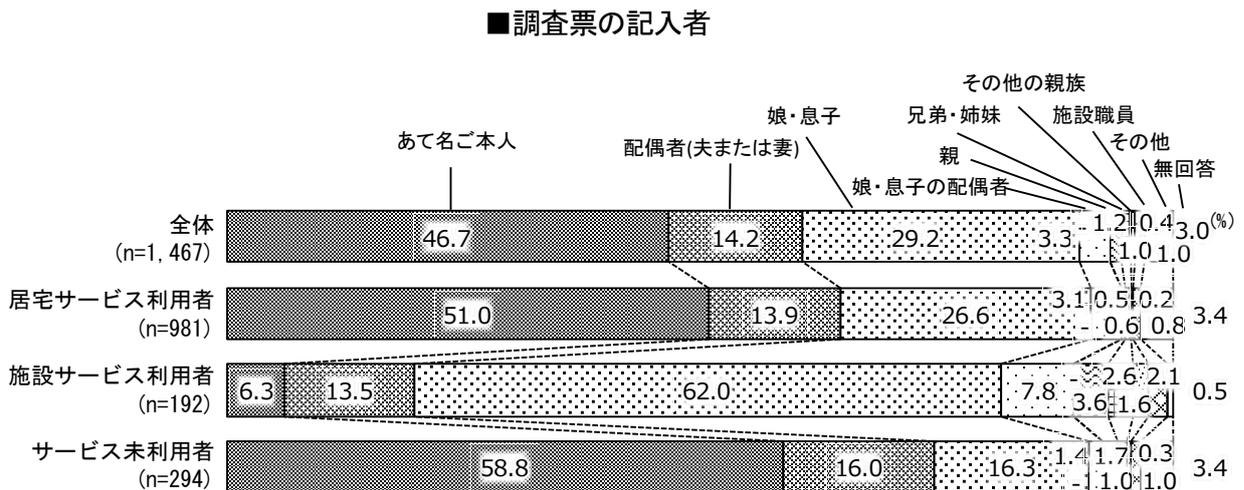
利用者種別にみると、サービス未利用者は「入院中などで意思表示ができない」(83.3%)が全体に比べ高くなっている。



(2) 調査票の記入者

調査票の記入者は、「あて名ご本人」(46.7%)が最も多く、「娘・息子」(29.2%)、「配偶者(夫または妻)」(14.2%)が続いている。

利用者種別にみると、施設サービス利用者は「娘・息子」(62.0%)が最も多い。

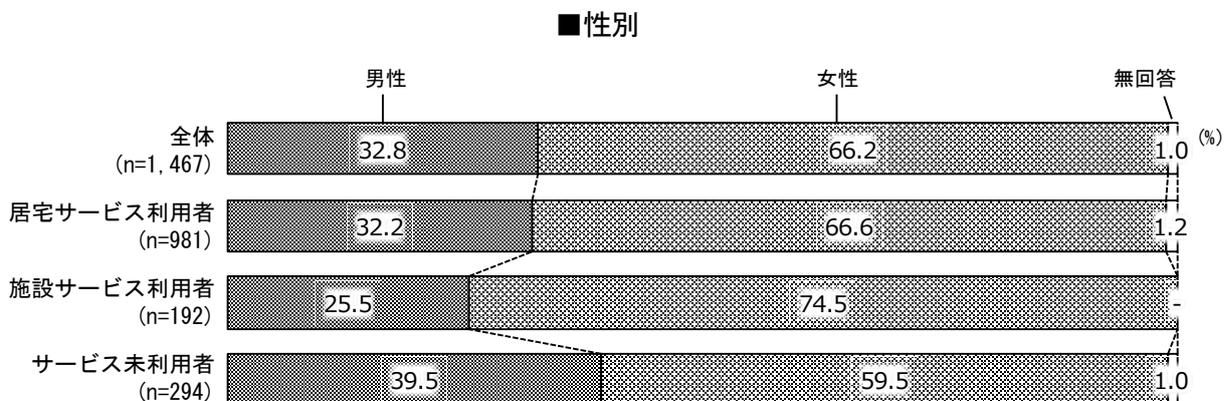


2. 要支援・要介護認定者調査

2 基本属性

(1) 性別 (F 1)

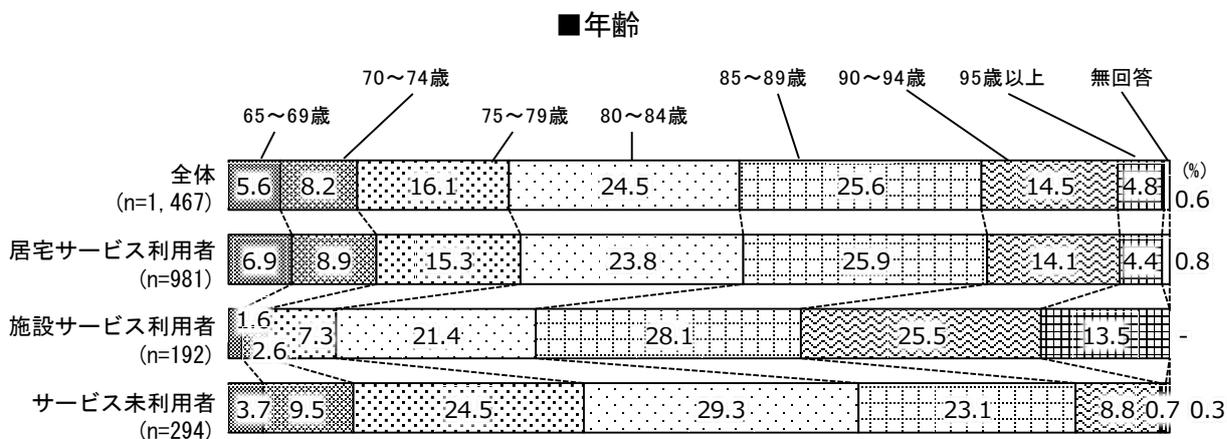
性別は、「男性」が32.8%、「女性」が66.2%となっている。



(2) 年齢 (F 2)

年齢は、「85～89歳」(25.6%)が最も多く、「80～84歳」(24.5%)、「75～79歳」(16.1%)が続いている。

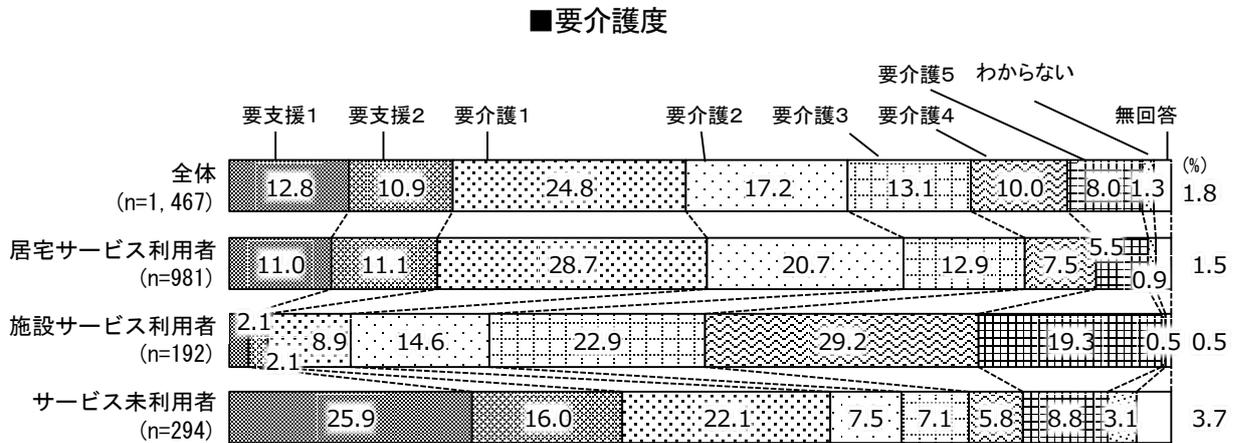
利用者種別にみると、施設サービス利用者は“90歳以上”(39.0%)が全体に比べ高くなっている。



(3) 要介護度 (F3)

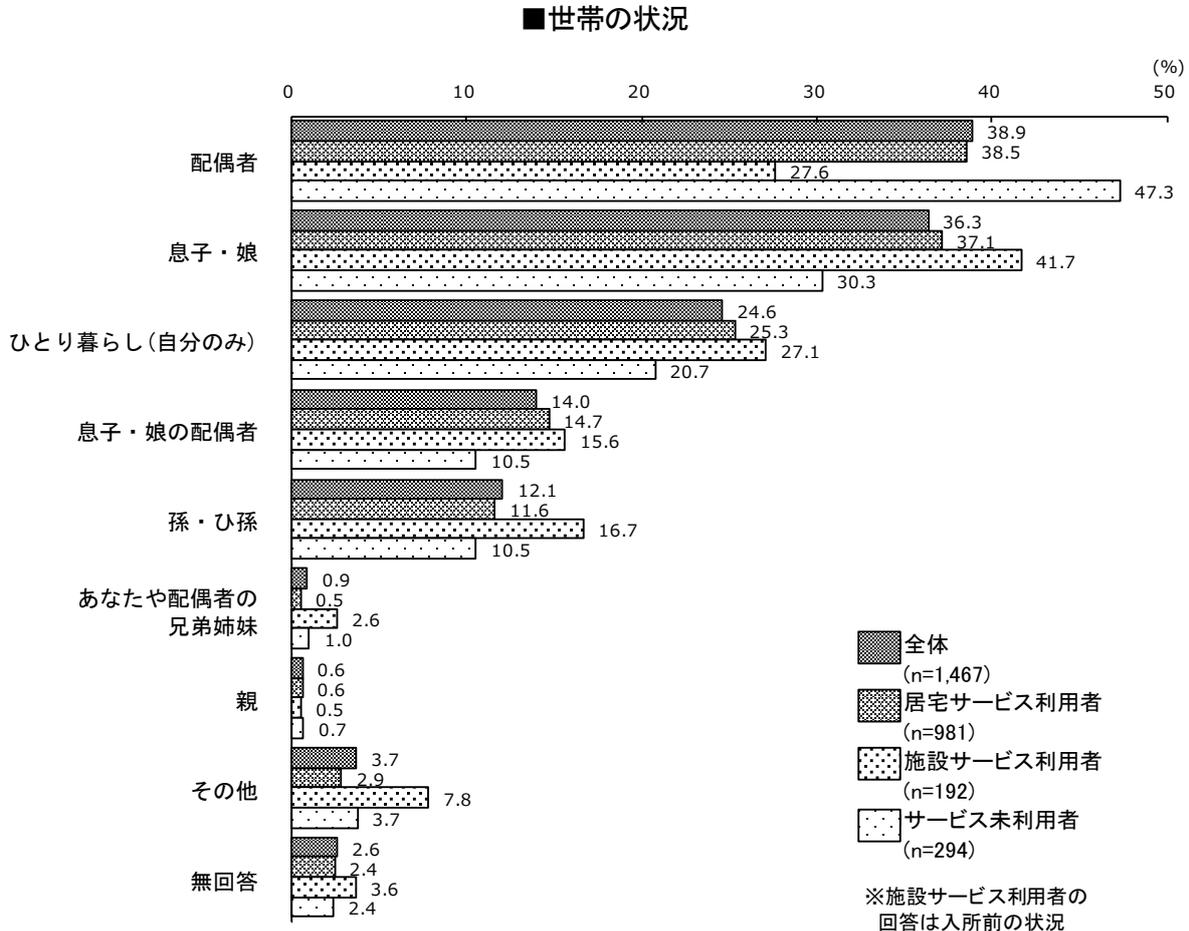
要介護度は、「要介護1」(24.8%)が最も多く、「要介護2」(17.2%)、「要介護3」(13.1%)が続いている。

利用者種別に見ると、施設サービス利用者は「要介護4」(29.2%)、サービス未利用者は「要支援1」(25.9%)が最も多い。



(4) 世帯の状況 (F4)

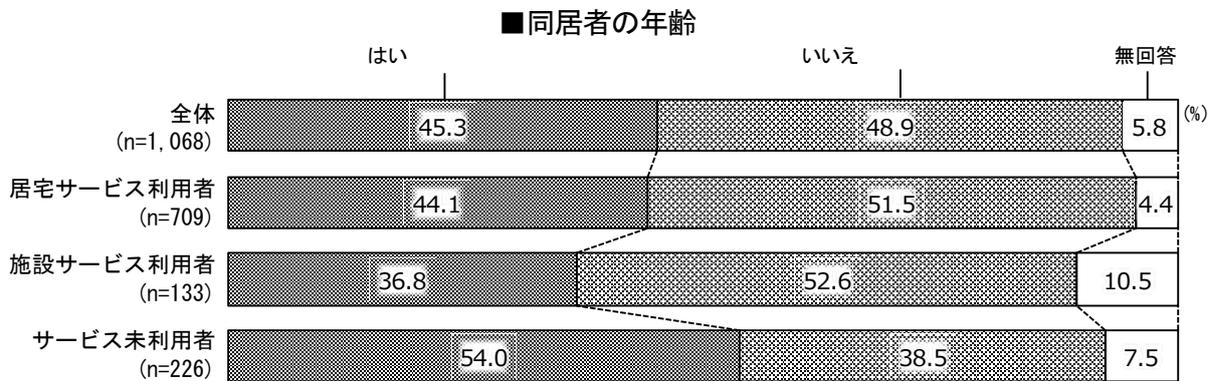
世帯の状況は、「配偶者」と同居(38.9%)が最も多く、「息子・娘」と同居(36.3%)、「ひとり暮らし(自分のみ)」(24.6%)が続いている。



2. 要支援・要介護認定者調査

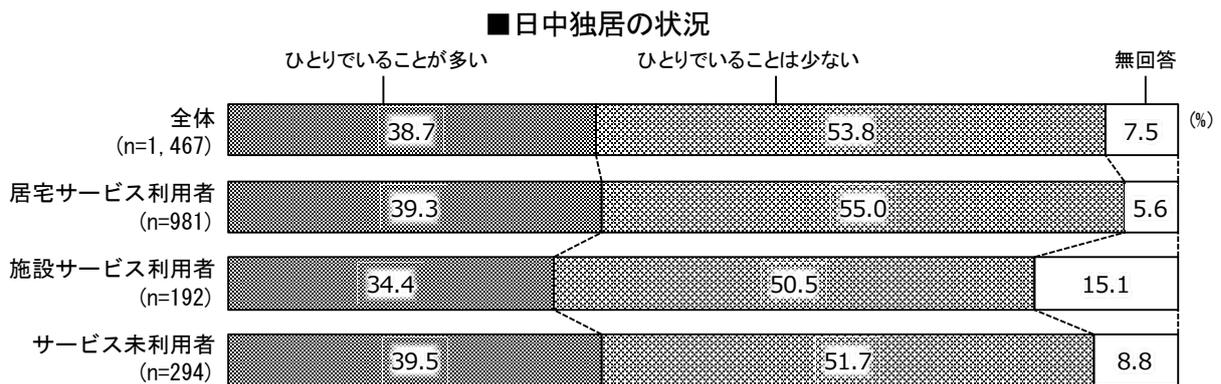
(5) 同居者の年齢 (F 4-1)

世帯の状況で「ひとり暮らし(自分のみ)」以外と回答した人に同居者の年齢が全員 65 歳以上かをきいたところ、「はい」が 45.3%、「いいえ」が 48.9%となっている。



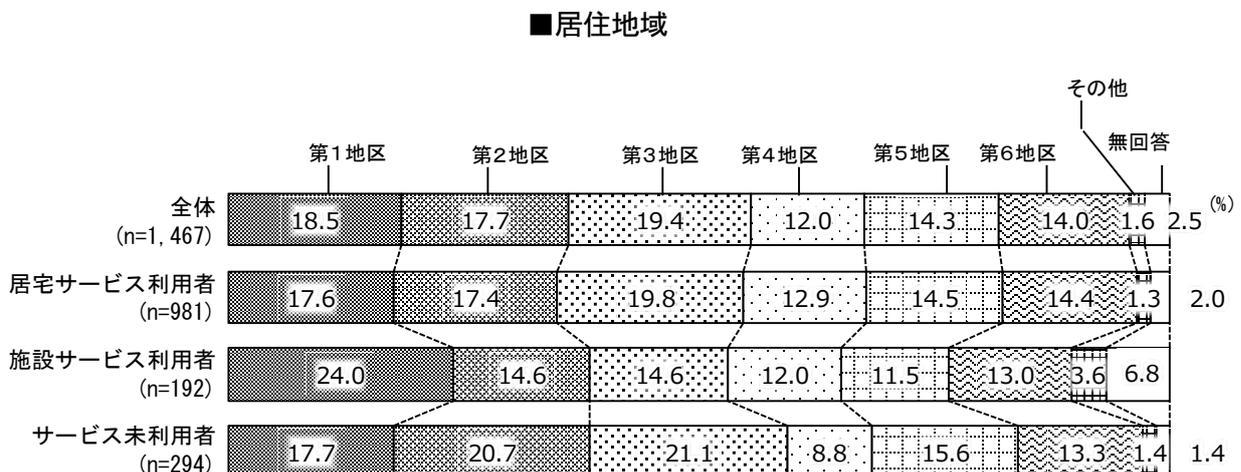
(6) 日中独居の状況 (F 5)

日中独居の状況は、「ひとりであることが多い」が 38.7%、「ひとりであることは少ない」が 53.8%となっている。



(7) 居住地域 (F 6)

居住地域は、「第3地区」(19.4%)が最も多く、「第1地区」(18.5%)、「第2地区」(17.7%)が続いている。

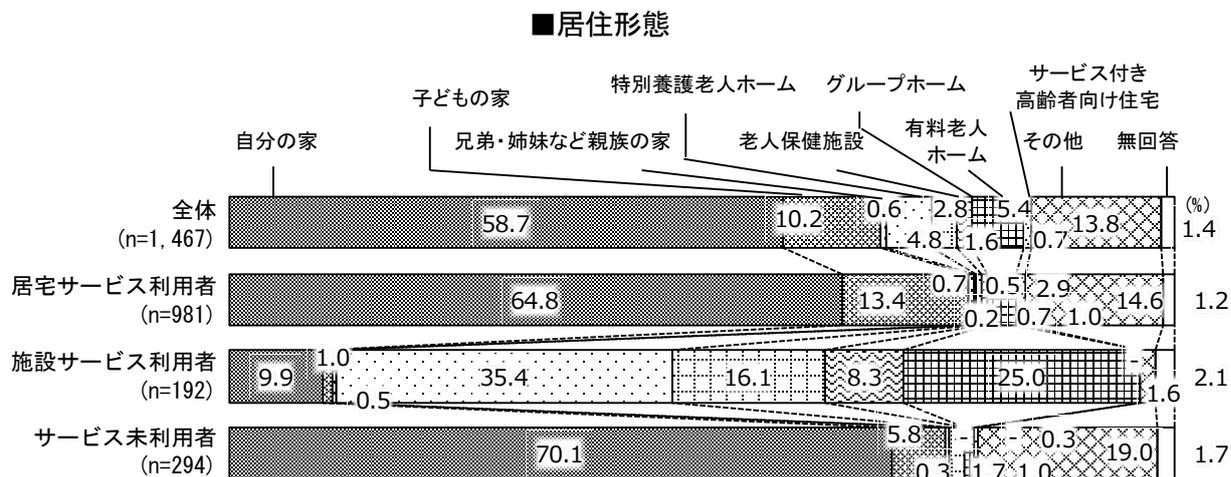


3 住まいについて

(1) 居住形態 (問1)

居住形態は、「自分の家」(58.7%)が最も多く、「子どもの家」(10.2%)、「有料老人ホーム」(5.4%)が続いている。

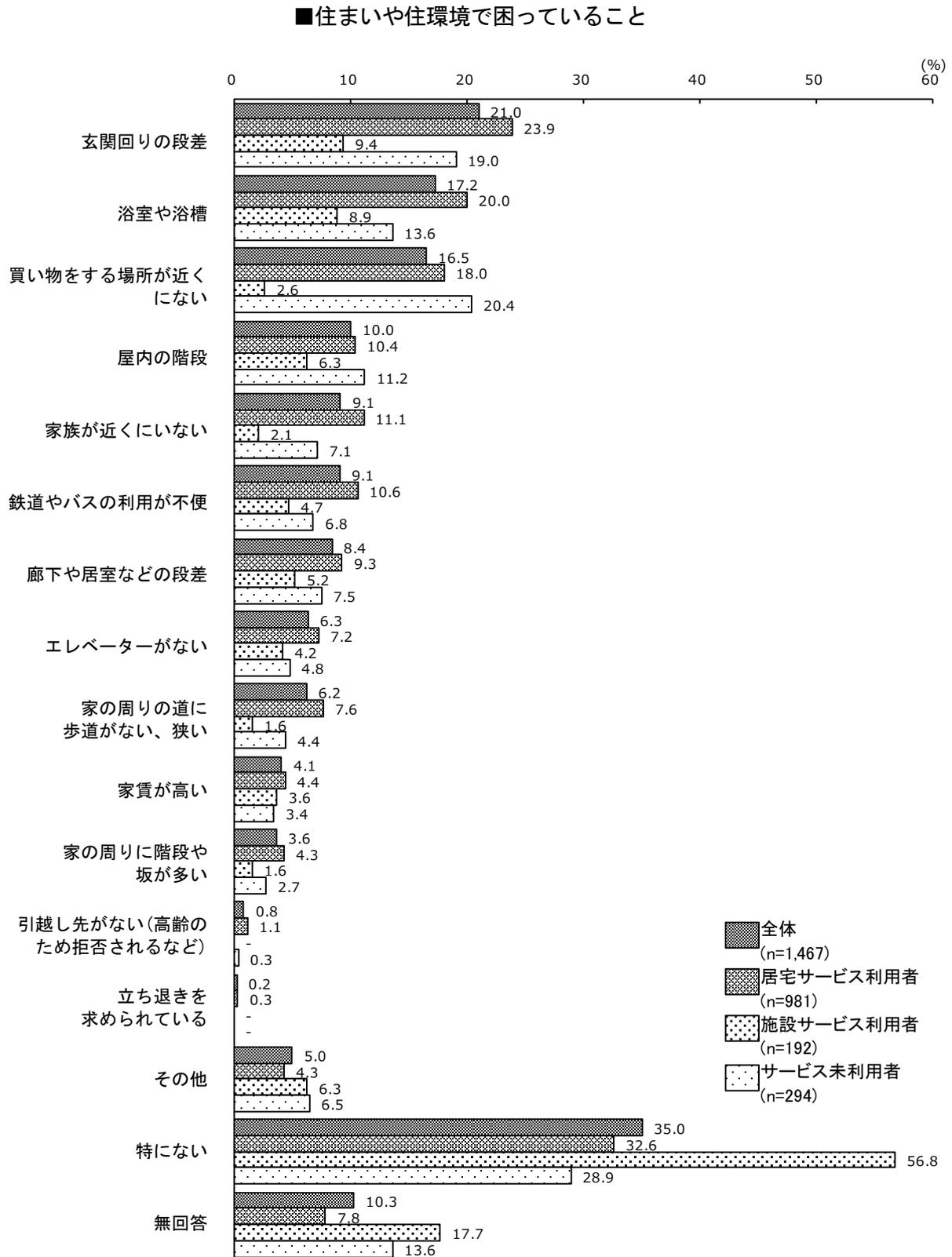
利用者種別にみると、施設サービス利用者は「特別養護老人ホーム」(35.4%)が最も多く、「有料老人ホーム」(25.0%)、「老人保健施設」(16.1%)が続いている。



2. 要支援・要介護認定者調査

(2) 住まいや住環境で困っていること (問2)

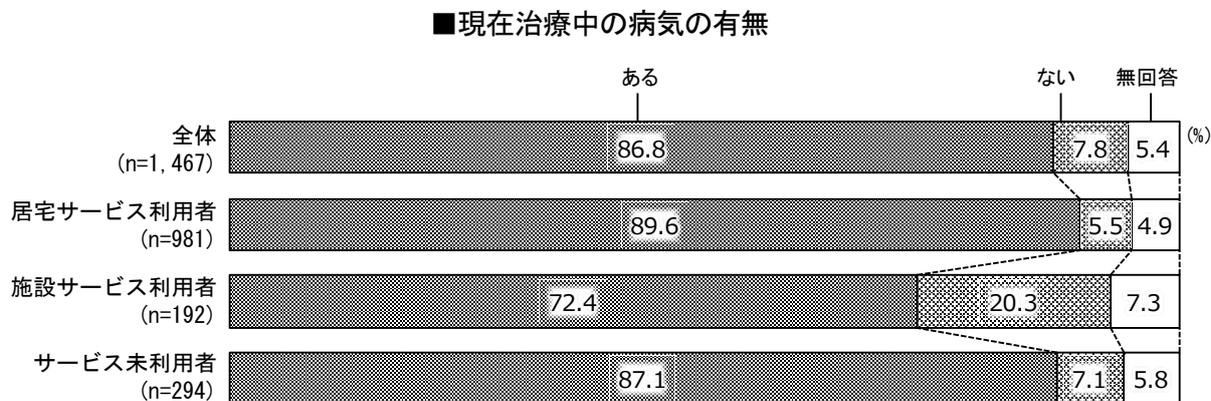
住まいや住環境で困っていることは、「玄関回りの段差」(21.0%)が最も多く、「浴室や浴槽」(17.2%)、「買い物をする場所が近くにない」(16.5%)が続いている。



4 医療について

(1) 現在治療中の病気の有無（問3）

現在治療中の病気の有無は、「ある」が86.8%、「ない」が7.8%となっている。
利用者種別にみると、施設サービス利用者は「ない」（20.3%）が全体に比べ高くなっている。

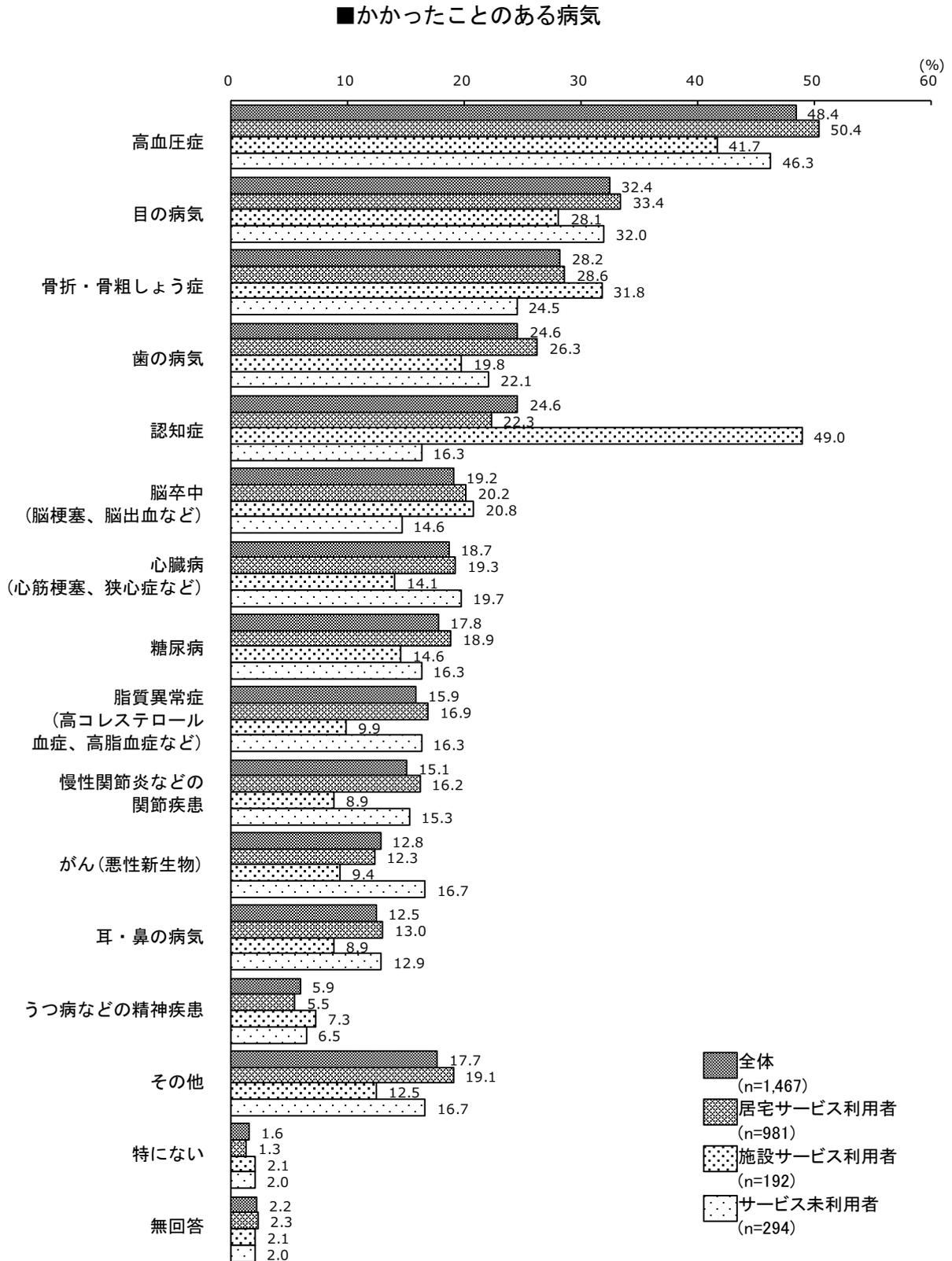


2. 要支援・要介護認定者調査

(2) かかったことのある病気 (問4)

かかったことのある病気は、「高血圧症」(48.4%)が最も多く、「目の病気」(32.4%)、「骨折・骨粗しょう症」(28.2%)が続いている。

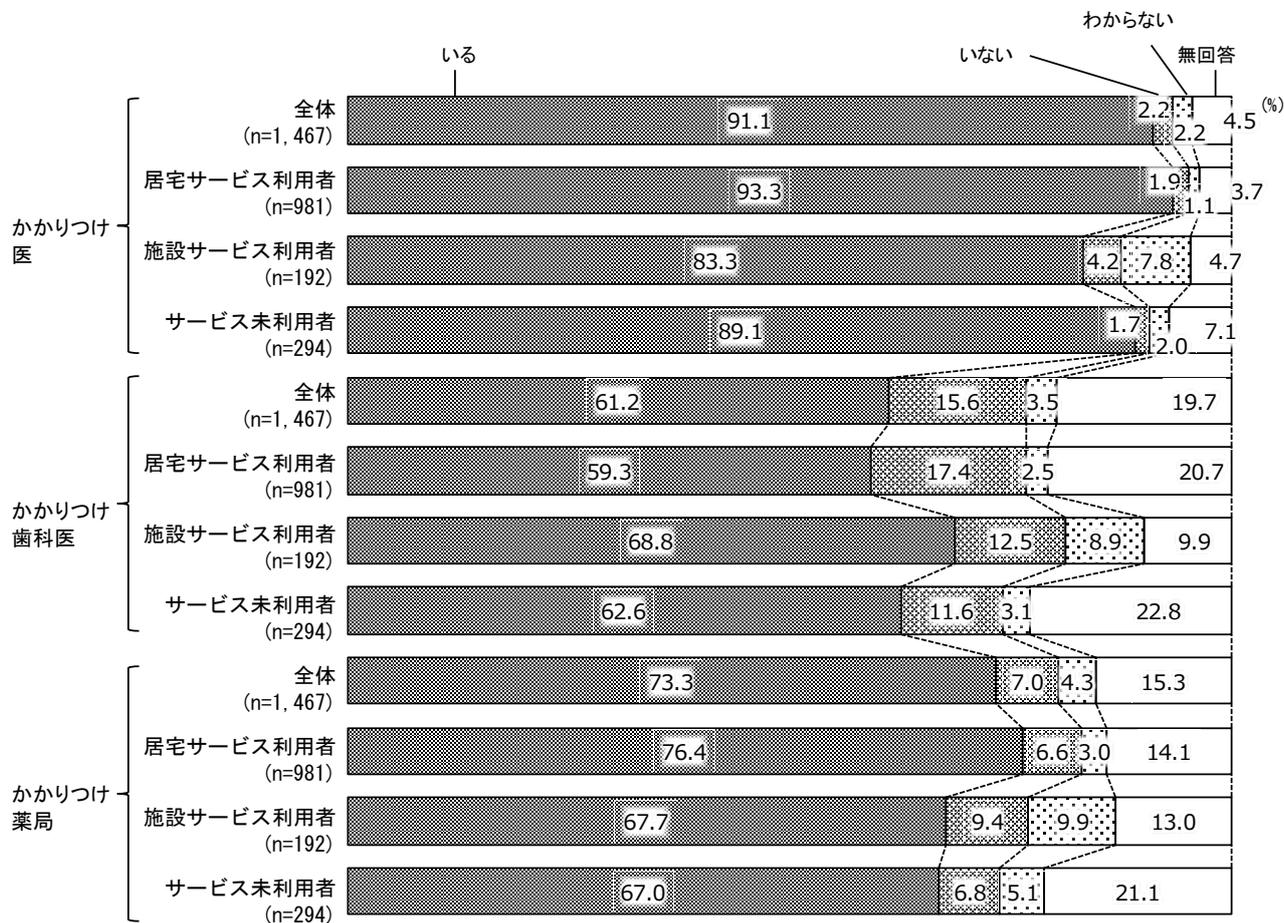
利用者種別にみると、施設サービス利用者は「認知症」(49.0%)が全体に比べ高くなっている。



(3) かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無 (問5)

かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無は、『かかりつけ医』が91.1%、『かかりつけ歯科医』が61.2%、『かかりつけ薬局』が73.3%となっている。

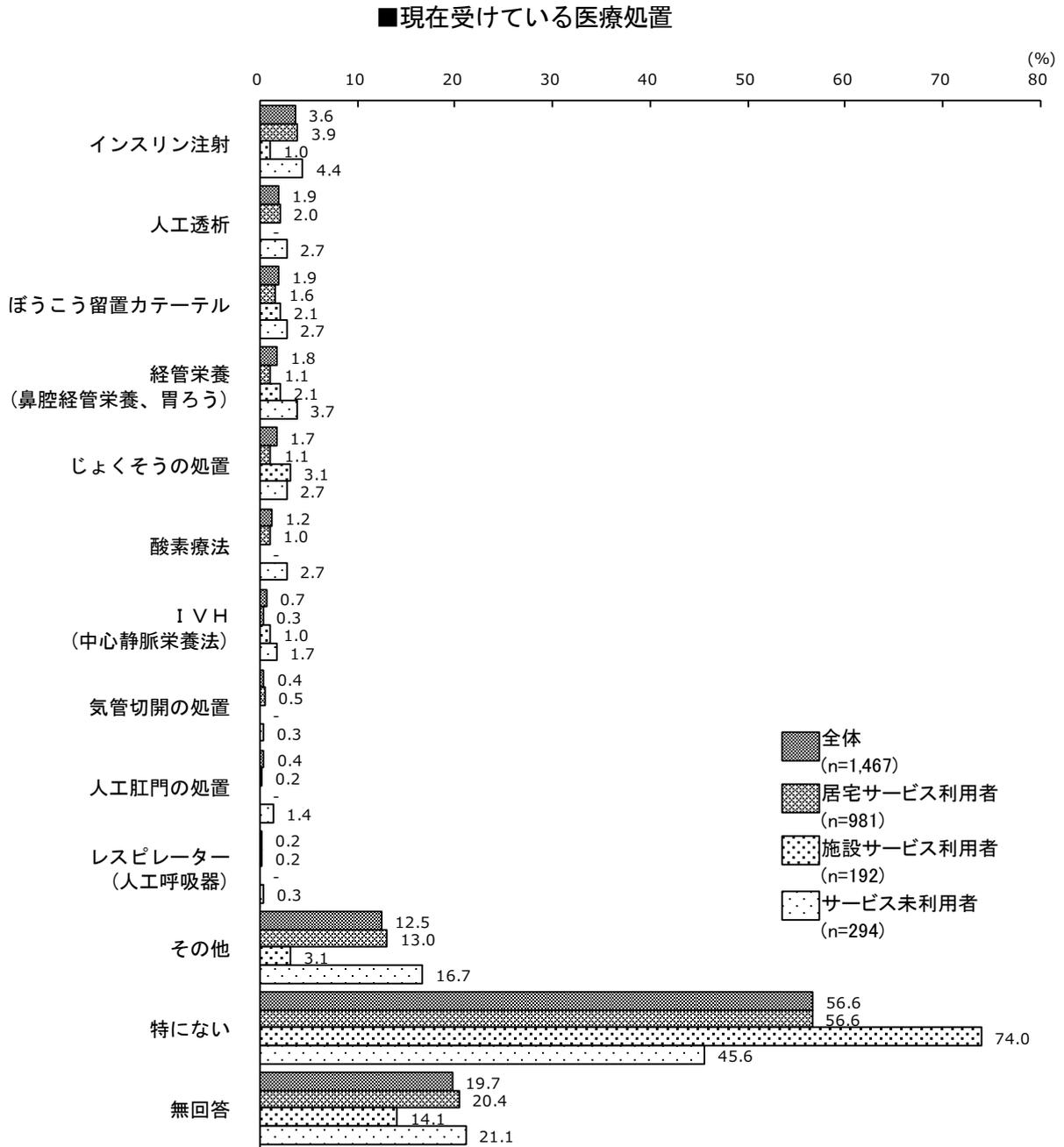
■かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無



2. 要支援・要介護認定者調査

(4) 現在受けている医療処置 (問6)

現在受けている医療処置は、「特にない」(56.6%)が最も多い。受けている医療処置では「インスリン注射」(3.6%)が最も多く、「人工透析」(1.9%)、「ぼうこう留置カテーテル」(1.9%)が続いている。

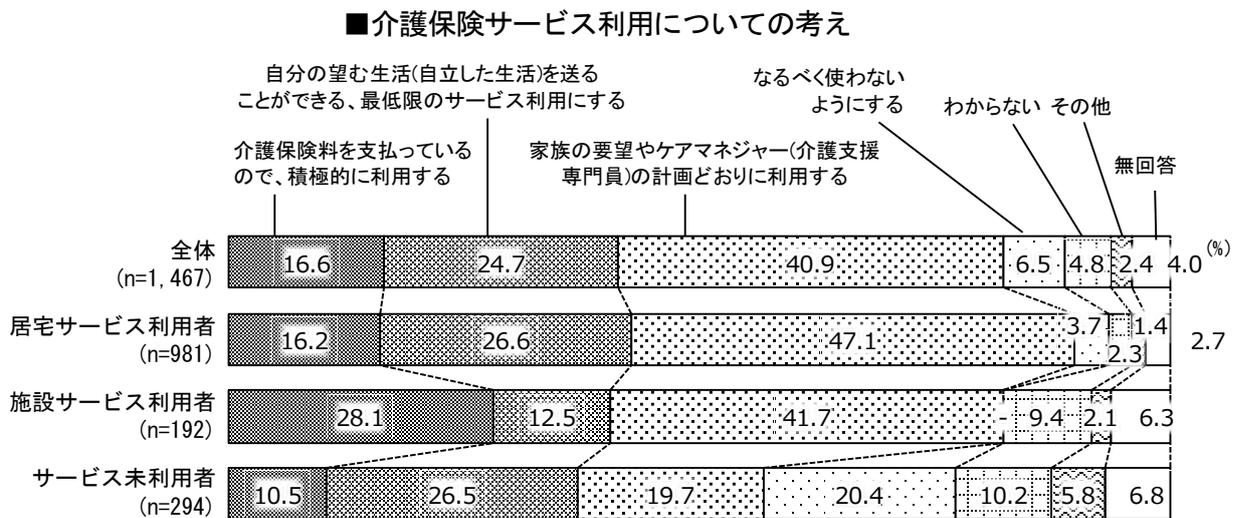


5 介護保険について

(1) 介護保険サービス利用についての考え (問7)

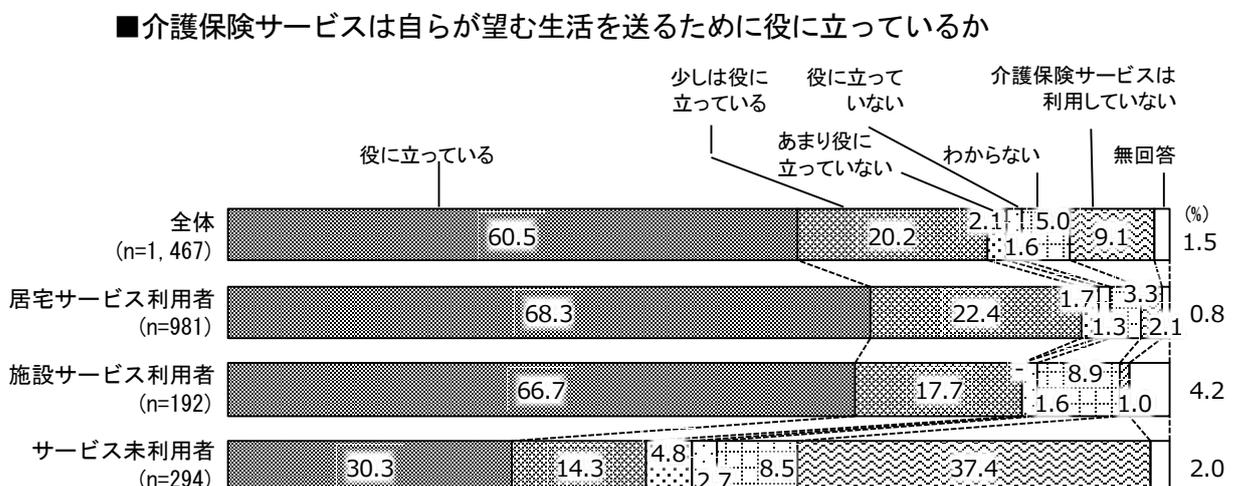
介護保険サービス利用についての考えは、「家族の要望やケアマネジャー(介護支援専門員)の計画どおりに利用する」(40.9%)が最も多く、「自分の望む生活(自立した生活)を送ることができる、最低限のサービス利用にする」(24.7%)、「介護保険料を支払っているので、積極的に利用する」(16.6%)が続いている。

利用者種別にみると、施設サービス利用者は「介護保険料を支払っているので、積極的に利用する」(28.1%)が全体に比べ高くなっている。サービス未利用者は「自分の望む生活(自立した生活)を送ることができる、最低限のサービス利用にする」(26.5%)が最も多く、「なるべく使わないようにする」(20.4%)、「家族の要望やケアマネジャー(介護支援専門員)の計画どおりに利用する」(19.7%)が続いている。



(2) 介護保険サービスは自らが望む生活を送るために役に立っているか (問8)

介護保険サービスは自らが望む生活を送るために役に立っているかは、「役に立っている」(60.5%)が最も多く、「少しは役に立っている」(20.2%)、「介護保険サービスは利用していない」(9.1%)が続いている。「役に立っている」と「少しは役に立っている」を合わせた“役に立っている”は80.7%となっている。

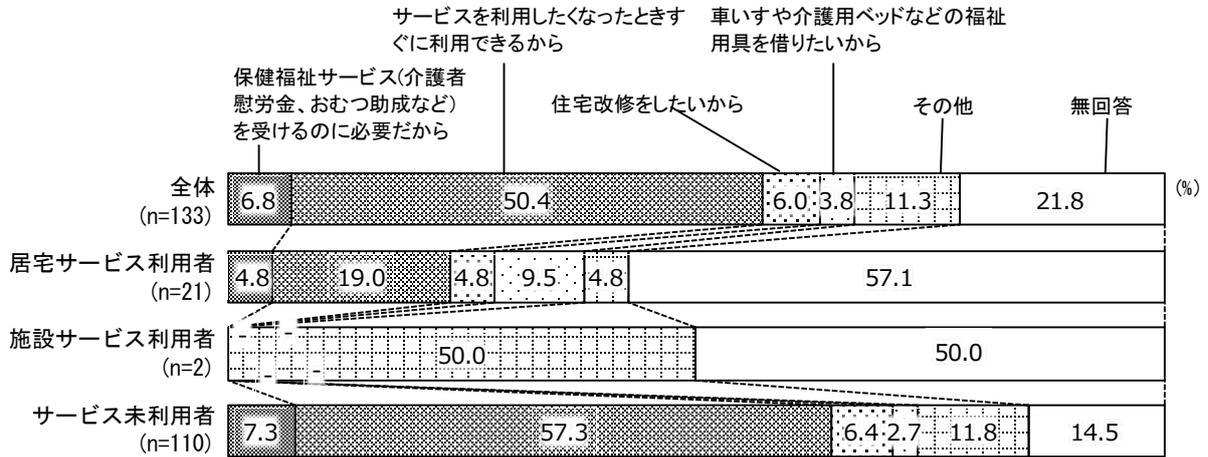


2. 要支援・要介護認定者調査

(3) 要介護認定の申請をしようと思った理由 (問8-1)

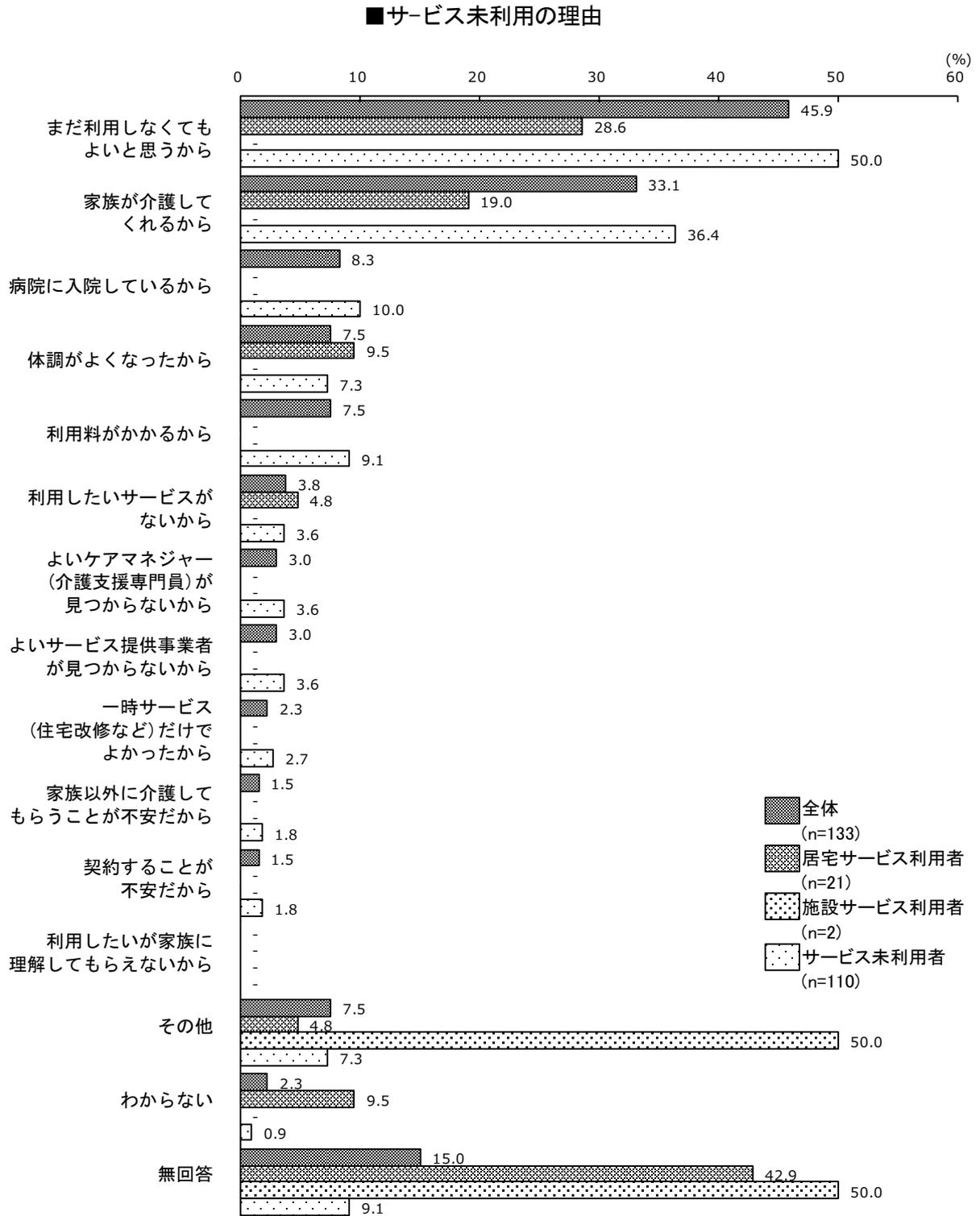
「介護保険サービスは利用していない」と回答した人に要介護認定の申請をしようと思った理由をきいたところ、「サービスを利用したくなったときすぐに利用できるから」(50.4%)が最も多く、「保健福祉サービス(介護者慰労金、おむつ助成など)を受けるのに必要だから」(6.8%)、「住宅改修をしたいから」(6.0%)が続いている。

■要介護認定の申請をしようと思った理由



(4) サービス未利用の理由 (問8-2)

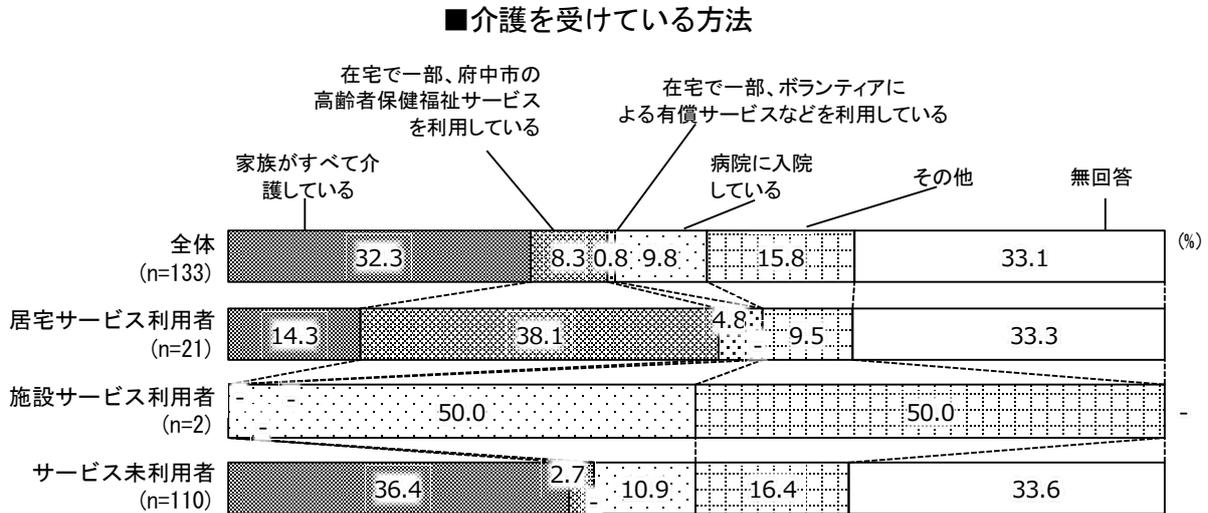
「介護保険サービスは利用していない」と回答した人にサービス未利用の理由をきいたところ、「まだ利用しなくてもよいと思うから」(45.9%)が最も多く、「家族が介護してくれるから」(33.1%)、「病院に入院しているから」(8.3%)が続いている。



2. 要支援・要介護認定者調査

(5) 介護を受けている方法 (問8-3)

「介護保険サービスは利用していない」と回答した人に介護を受けている方法をきいたところ、「家族がすべて介護している」(32.3%)が最も多く、「病院に入院している」(9.8%)、「在宅で一部、府中市の高齢者保健福祉サービスを利用している」(8.3%)が続いている。



(6) 介護保険サービスの利用状況、満足度 (問9)

介護保険サービスについて、居宅サービスの利用状況は「福祉用具の貸与」(37.2%)が最も多く、「通所介護(デイサービス)」(35.2%)、「訪問介護」(24.1%)が続いている。「満足」と「やや満足」を合わせた“満足度”は、『福祉用具の貸与』(77.0%)が最も多く、『通所介護(デイサービス)』(74.8%)、『住宅改修費の支給』(73.6%)が続いている。総合的な満足度は33.8%であり、評価基準は「自分の希望するサービス(量・時間)が受けられること」(44.6%)が最も多く、「自立支援に向けたサービスが受けられること」(38.2%)、「緊急時に対応してくれること」(20.4%)が続いている。

施設サービスの利用状況は「介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)」(44.3%)が最も多く、「介護老人保健施設(老人保健施設)」(22.9%)、「介護療養型医療施設」(3.6%)が続いている。“満足度”は、『介護療養型医療施設』(85.7%)が最も多く、『介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)』(82.4%)、『介護老人保健施設(老人保健施設)』(79.5%)が続いている。総合的な満足度は23.4%であり、評価基準は「緊急時に対応してくれること」(57.8%)が最も多く、「質の高いサービスが受けられること」(32.8%)、「自分の希望するサービス(量・時間)が受けられること」(28.1%)が続いている。

地域密着型サービスの利用状況は「地域密着型通所介護」(4.4%)が最も多く、「認知症対応型通所介護」(2.1%)、「小規模多機能型居宅介護」(1.9%)が続いている。“満足度”は、『定期巡回・随時対応型訪問介護看護』(92.3%)が最も多く、『認知症対応型通所介護』(90.5%)、『夜間対応型訪問介護』(88.9%)が続いている。総合的な満足度は21.9%であり、評価基準は「自分の希望するサービス(量・時間)が受けられること」(42.7%)が最も多く、「自立支援に向けたサービスが受けられること」(34.4%)、「緊急時に対応してくれること」(27.1%)が続いている。

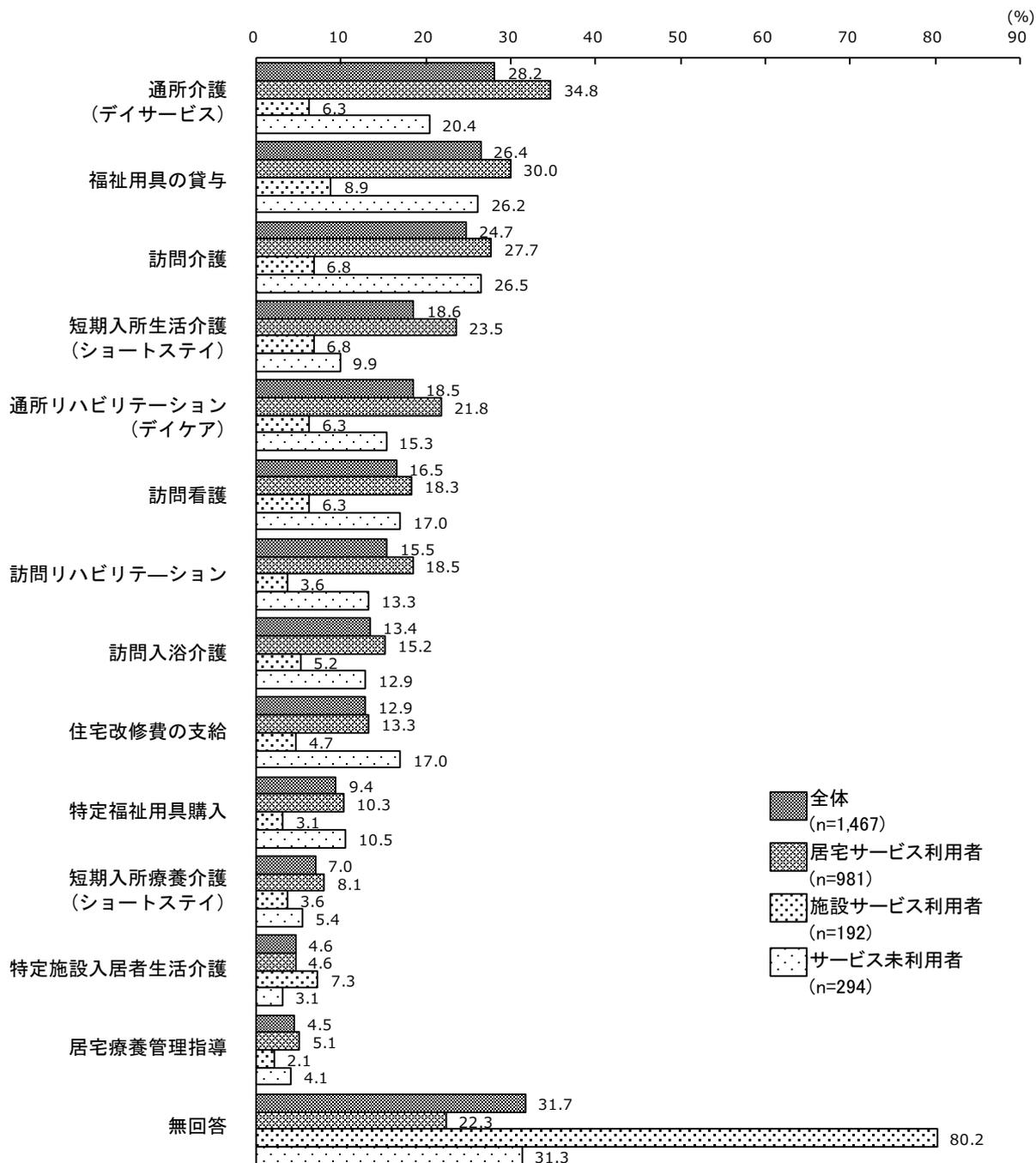
■介護保険サービスの利用状況、満足度

※グラフ作成中

(7) 自らが望む生活を送るために今後利用したい介護サービス (問 10)

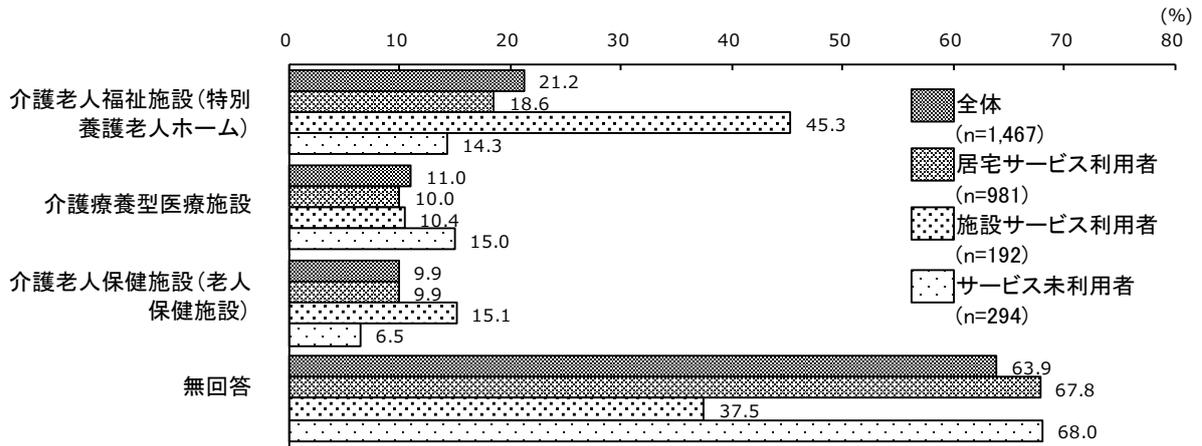
自らが望む生活を送るために今後利用したい介護サービスについて、居宅サービスは『通所介護(デイサービス)』(28.2%)が最も多く、『福祉用具の貸与』(26.4%)、『訪問介護』(24.7%)が続いている。施設サービスは『介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)』(21.2%)が最も多く、『介護療養型医療施設』(11.0%)、『介護老人保健施設(老人保健施設)』(9.9%)が続いている。地域密着型サービスは「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」(9.7%)が最も多く、「夜間対応型訪問介護」(7.8%)、「認知症対応型通所介護」(6.8%)が続いている。

■自らが望む生活を送るために今後利用したい介護サービス (居宅サービス)

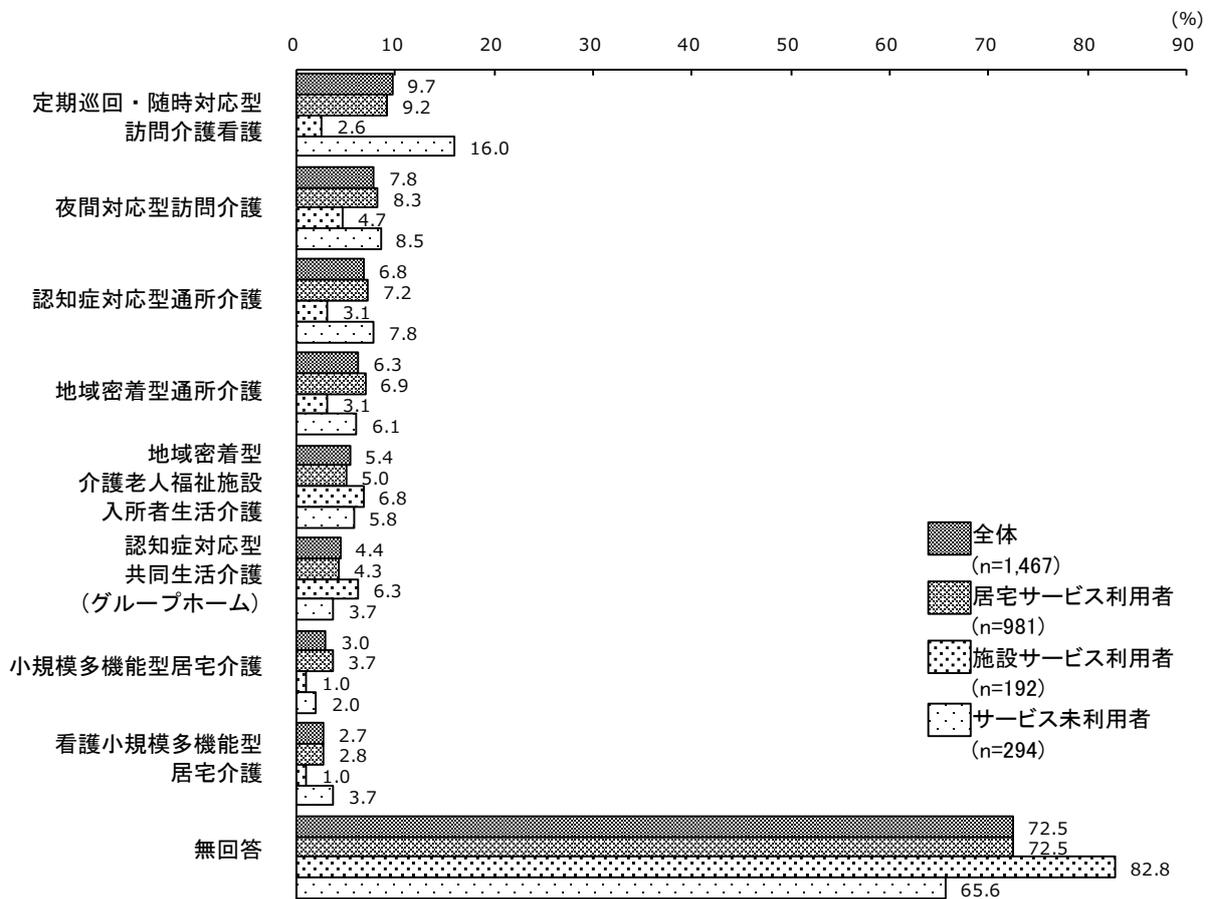


2. 要支援・要介護認定者調査

■自らが望む生活を送るために今後利用したい介護サービス（施設サービス）



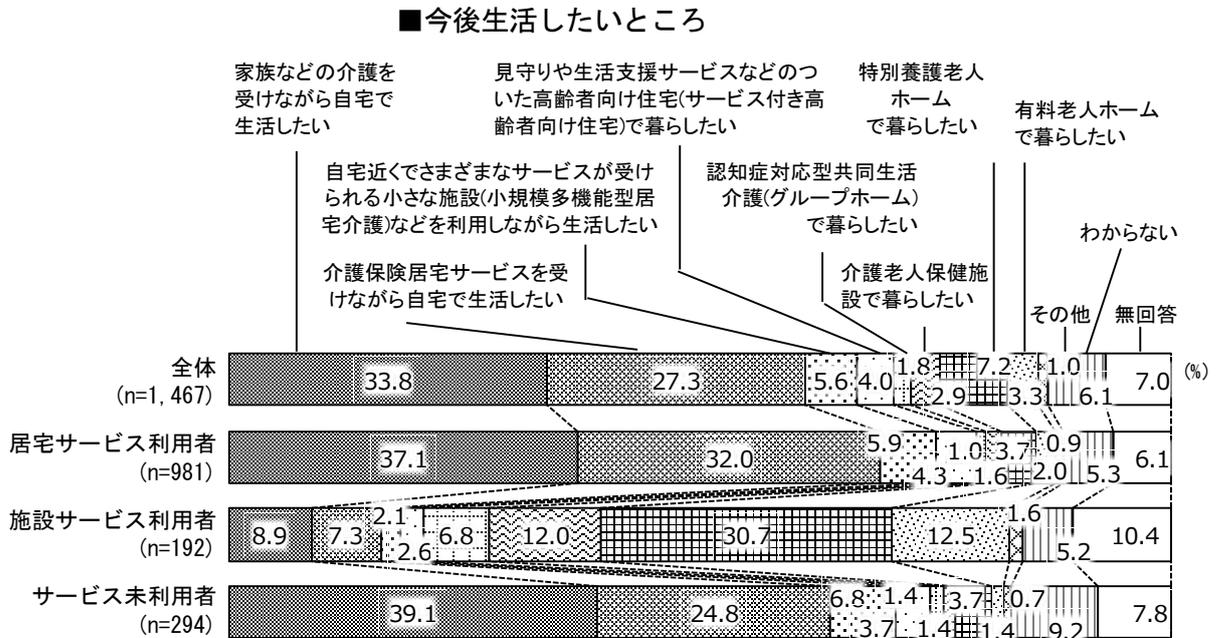
■自らが望む生活を送るために今後利用したい介護サービス（地域密着型サービス）



(8) 今後生活したいところ (問 11)

今後生活したいところは、「家族などの介護を受けながら自宅で生活したい」(33.8%)が最も多く、「介護保険居宅サービスを受けながら自宅で生活したい」(27.3%)、「特別養護老人ホームで暮らしたい」(7.2%)が続いている。

利用者種別にみると、施設サービス利用者は「特別養護老人ホームで暮らしたい」(30.7%)が最も多く、「有料老人ホームで暮らしたい」(12.5%)、「介護老人保健施設で暮らしたい」(12.0%)が続いている。



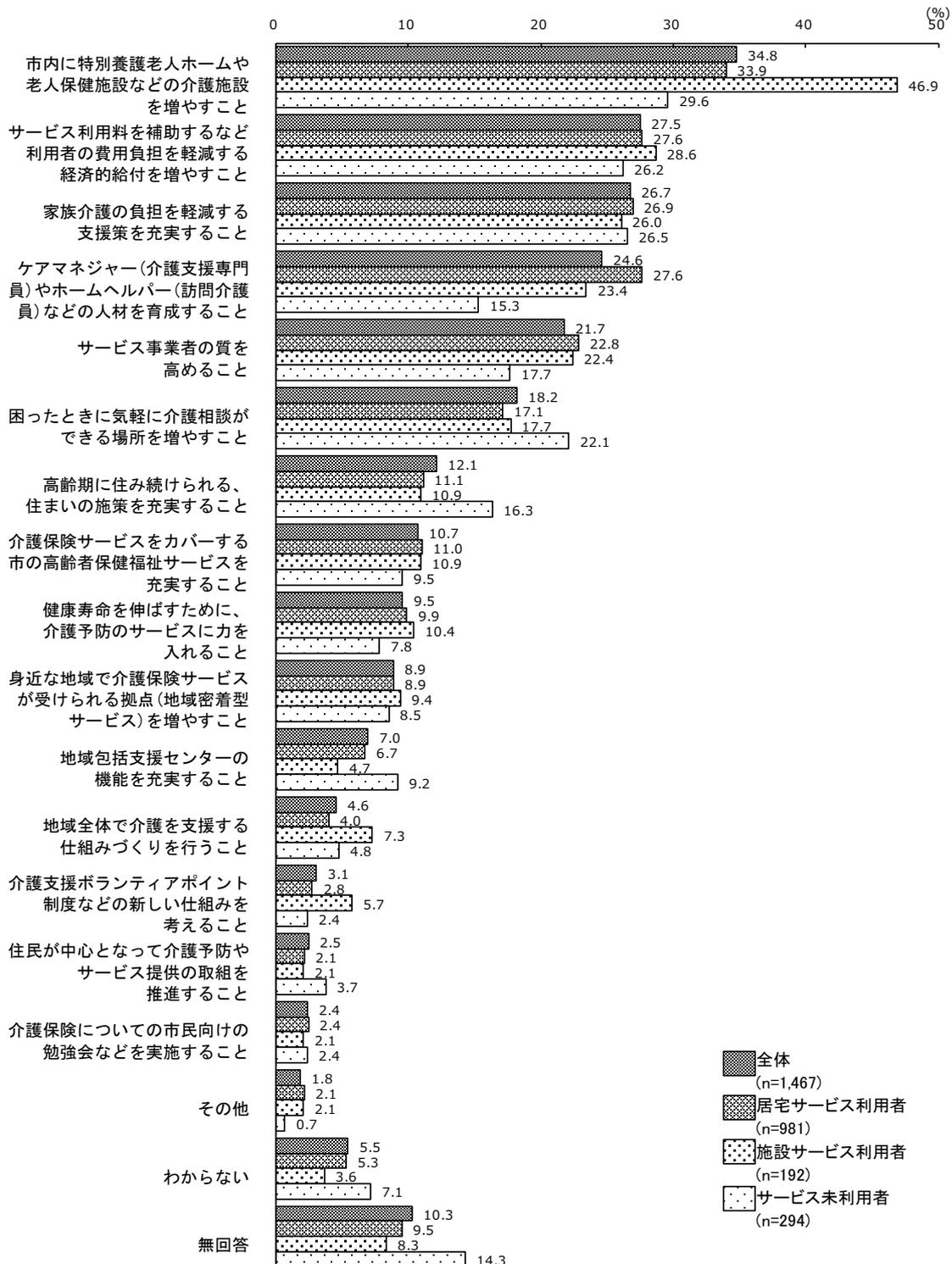
2. 要支援・要介護認定者調査

(9) 介護保険制度をよりよくするために府中市が力を入れるべきこと (問 12)

介護保険制度をよりよくするために府中市が力を入れるべきことは、「市内に特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護施設を増やすこと」(34.8%)が最も多く、「サービス利用料を補助するなど利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと」(27.5%)、「家族介護の負担を軽減する支援策を充実すること」(26.7%)が続いている。

利用者種別にみると、施設サービス利用者は「市内に特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護施設を増やすこと」(46.9%)が全体に比べ高くなっている。

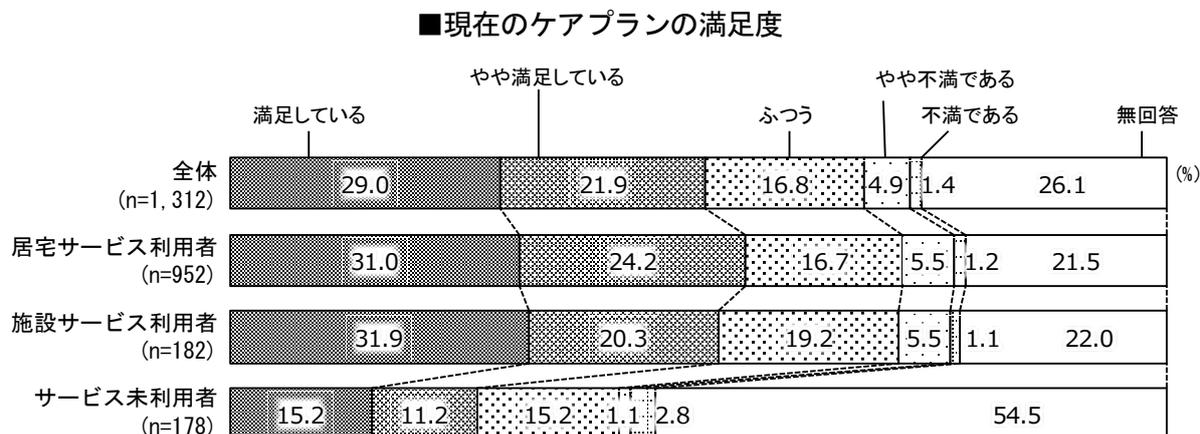
■ 介護保険制度をよりよくするために府中市が力を入れるべきこと



6 利用者本位のサービスのあり方について

(1) 現在のケアプランの満足度 (問 13)

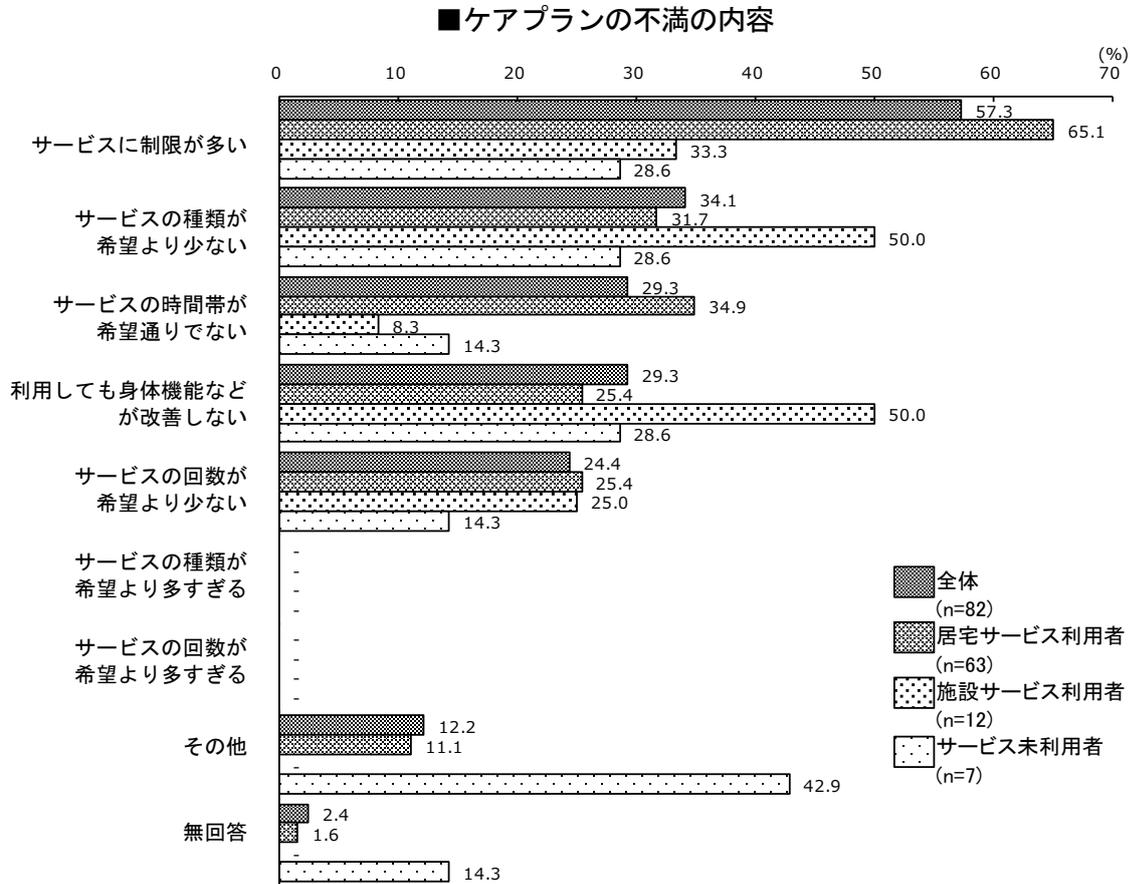
「介護保険サービスは利用していない」以外を回答した人に現在のケアプランの満足度をきいたところ、「満足している」(29.0%)が最も多く、「やや満足している」(21.9%)、「ふつう」(16.8%)が続いている。「満足している」と「やや満足している」を合わせた“満足”は50.9%、「やや不満である」と「不満である」を合わせた“不満”は6.3%となっている。



2. 要支援・要介護認定者調査

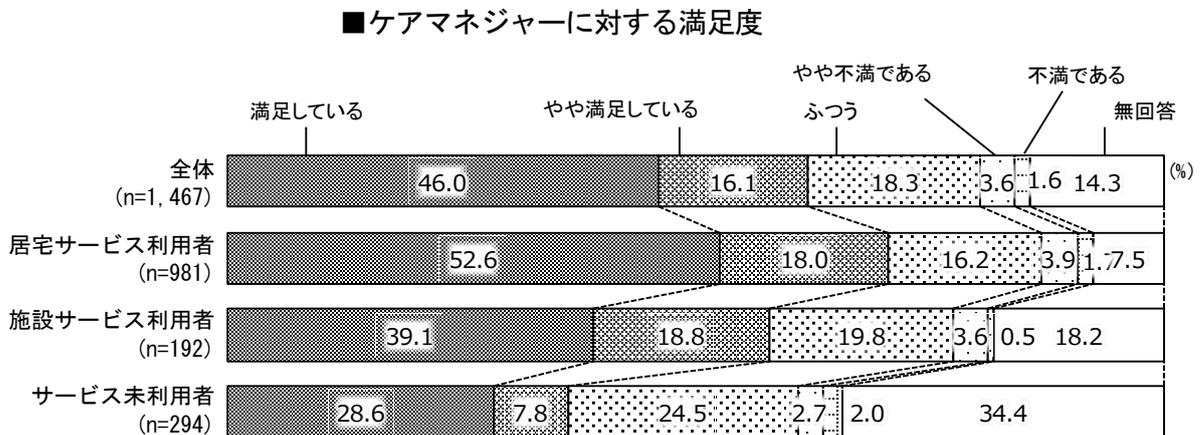
(2) ケアプランの不满の内容 (問 13-1)

“不满”と回答した人にケアプランの不满の内容をきいたところ、「サービスに制限が多い」(57.3%)が最も多く、「サービスの種類が希望より少ない」(34.1%)、「サービスの時間帯が希望通りでない」(29.3%)が続いている。



(3) ケアマネジャーに対する満足度 (問 14)

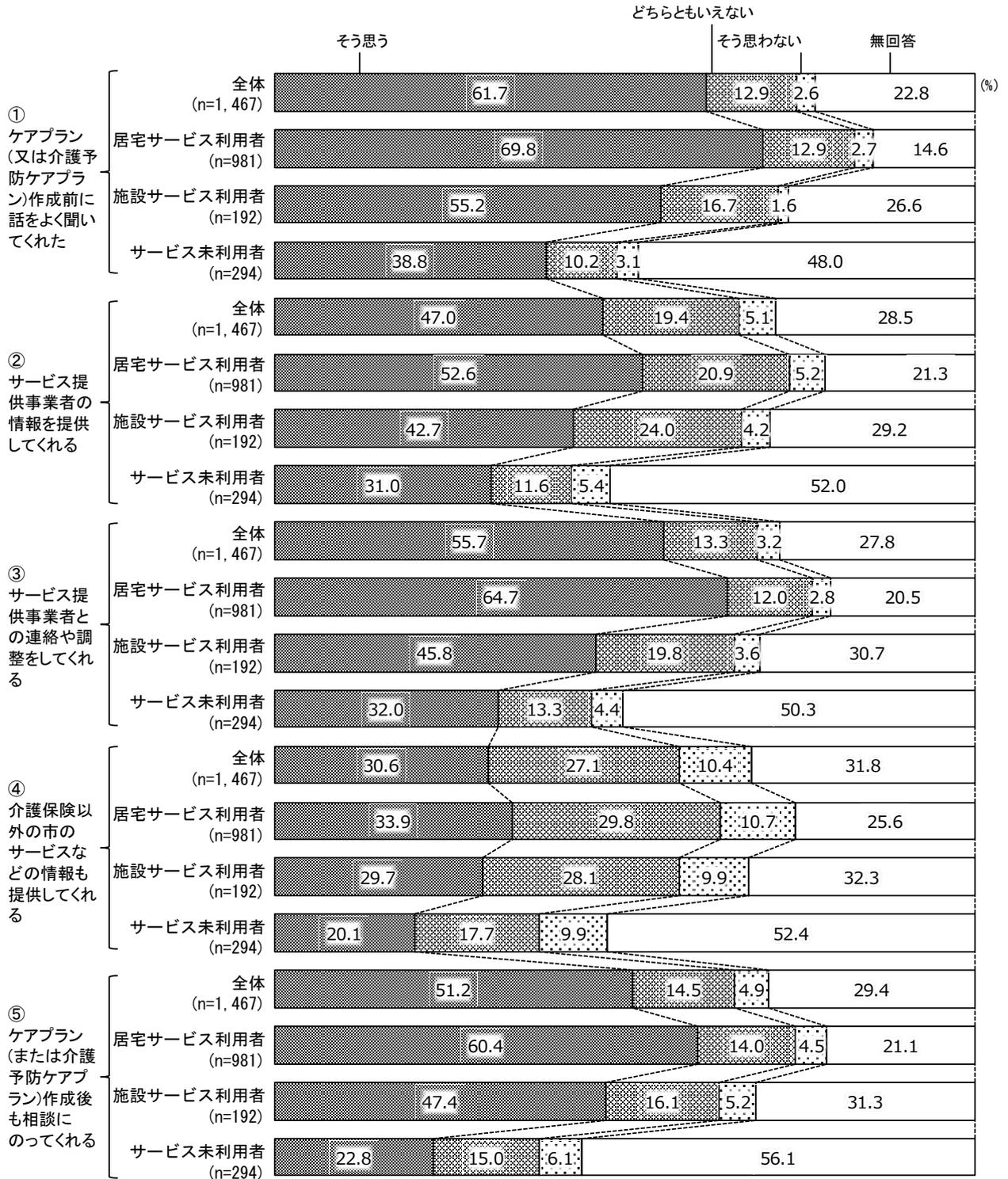
ケアマネジャーに対する満足度は、「満足している」(46.0%)が最も多く、「ふつう」(18.3%)、「やや満足している」(16.1%)が続いている。「満足している」と「やや満足している」を合わせた“満足”は62.1%、「やや不満である」と「不満である」を合わせた“不満”は5.2%となっている。



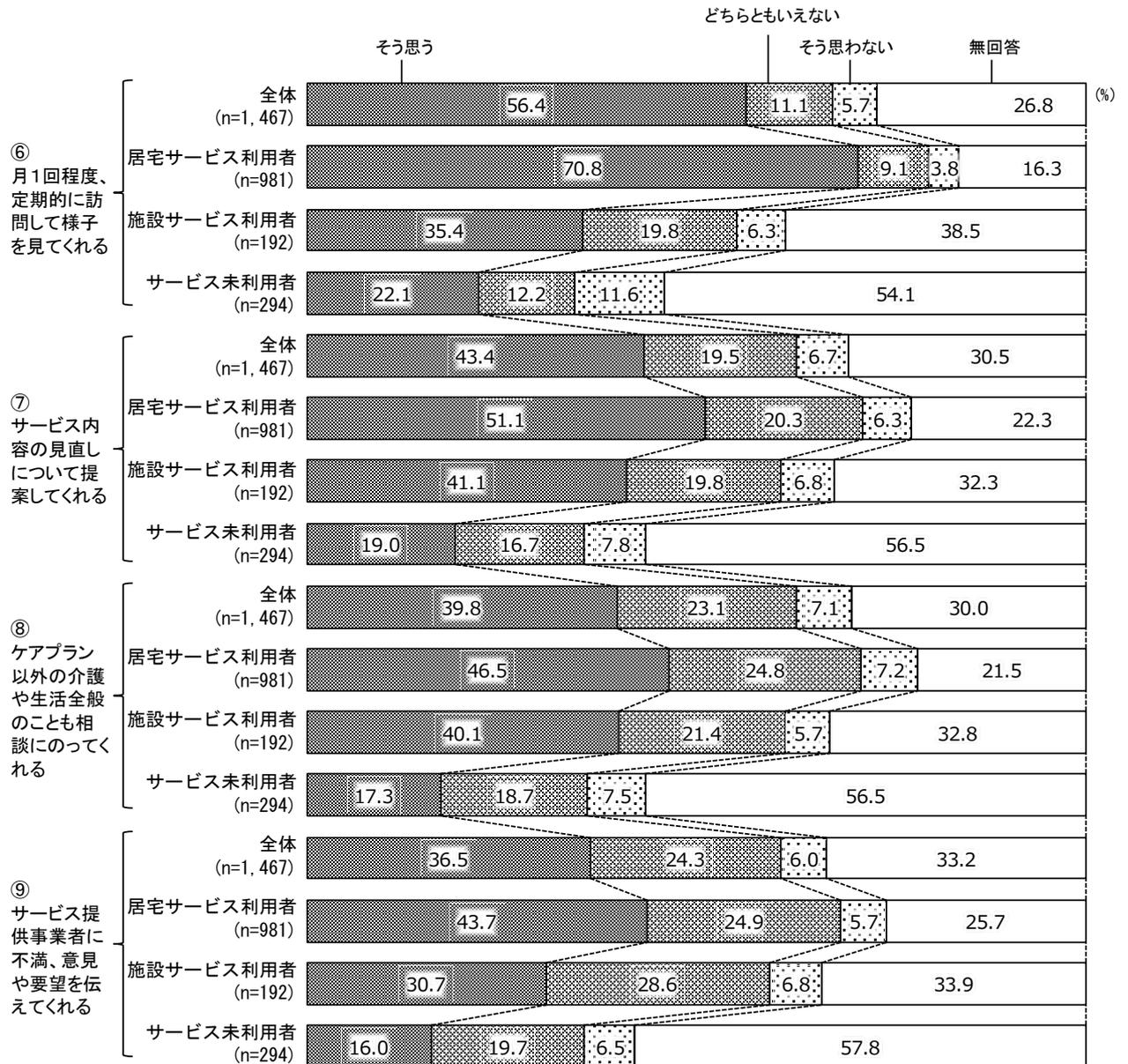
(4) ケアマネジャーについての評価 (問 15)

ケアマネジャーについての評価について、「そう思う」は『ケアプラン(又は介護予防ケアプラン)作成前に話をよく聞いてくれた』(61.7%)が最も多く、『月1回程度、定期的に訪問して様子を見てくれる』(56.4%)、『サービス提供事業者との連絡や調整をしてくれる』(55.7%)が続いている。

■ケアマネジャーについての評価



2. 要支援・要介護認定者調査



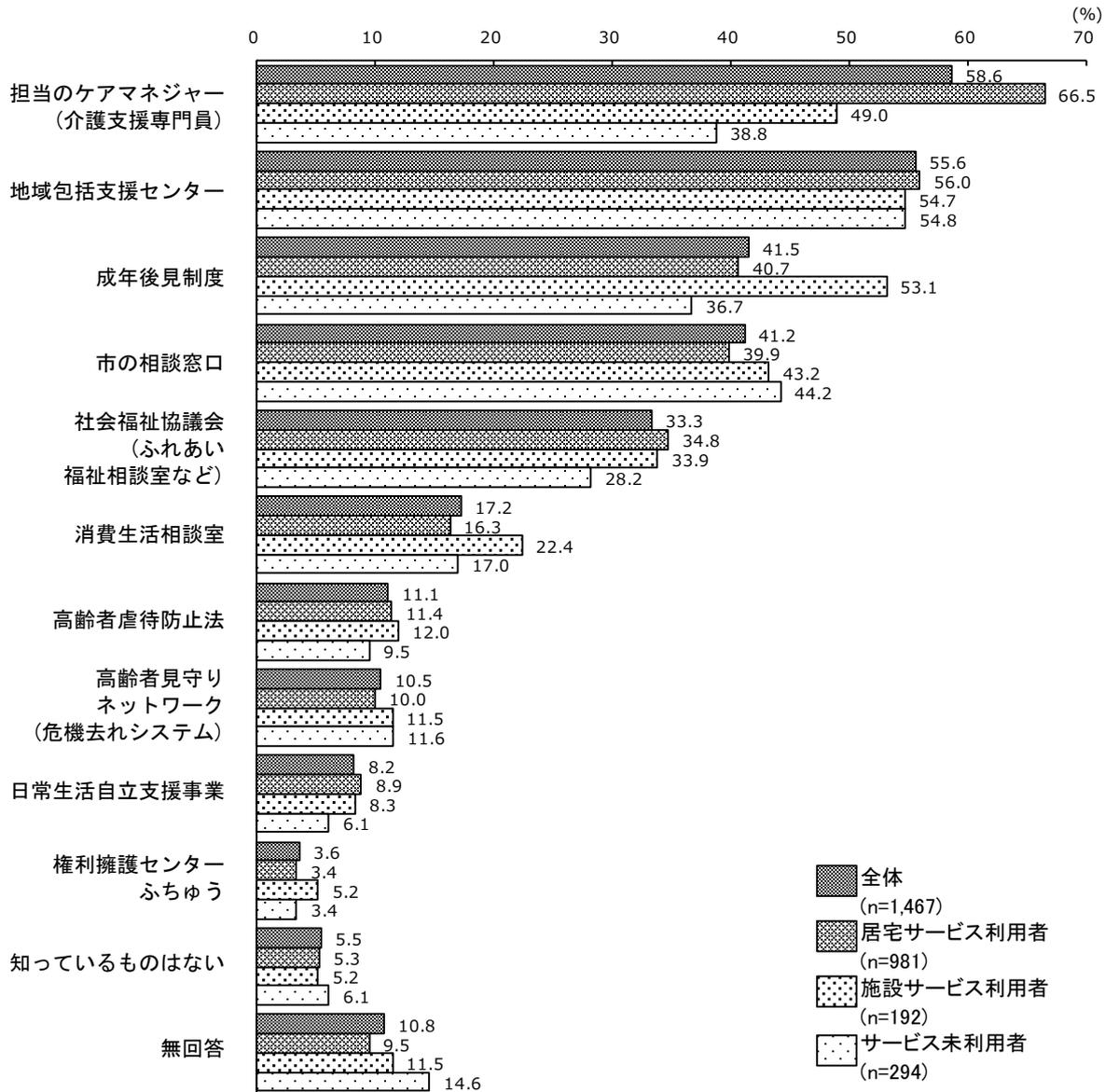
7 高齢者の権利擁護について

(1) 高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口の認知度 (問 16)

高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口の認知度は、「担当のケアマネジャー(介護支援専門員)」(58.6%)が最も多く、「地域包括支援センター」(55.6%)、「成年後見制度」(41.5%)が続いている。

利用者種別にみると、施設サービス利用者は「成年後見制度」(53.1%)が全体に比べ高くなっている。

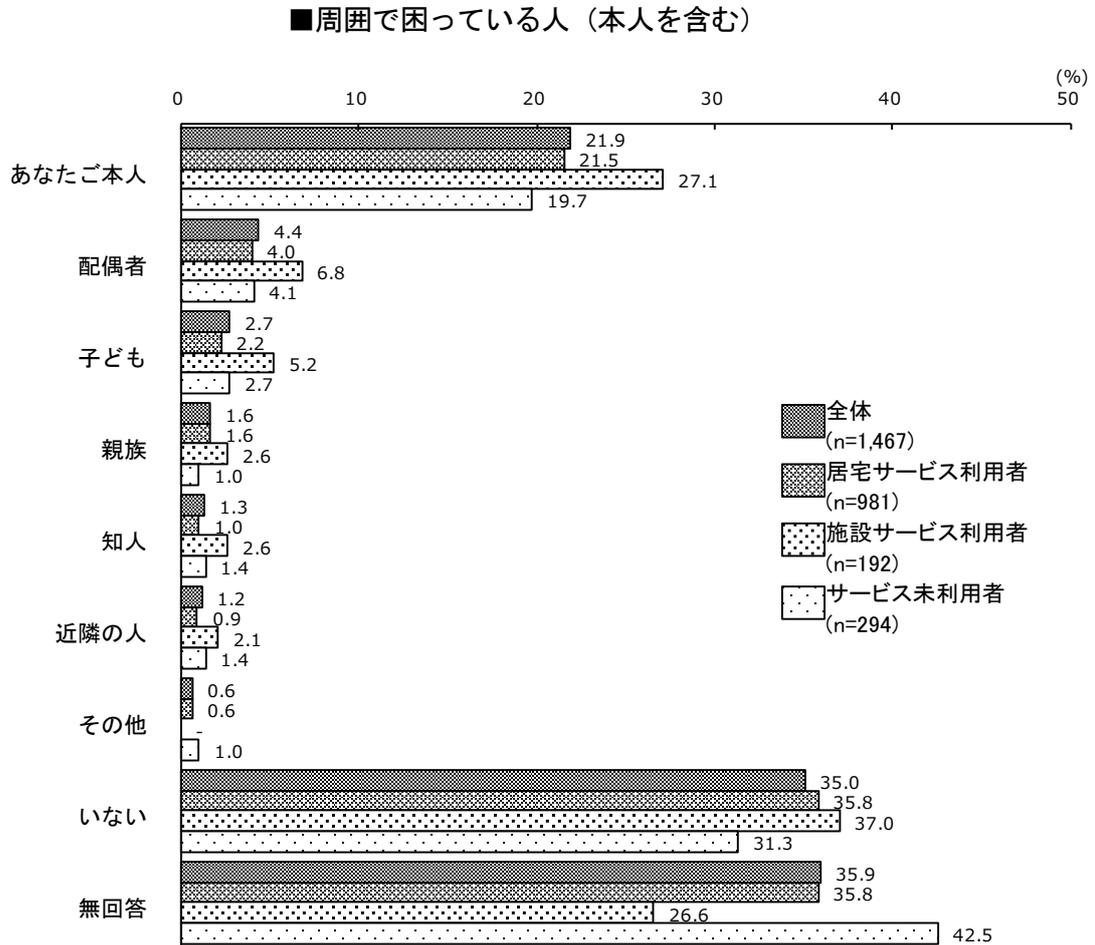
■ 高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口の認知度



2. 要支援・要介護認定者調査

(2) 周囲で困っている人（本人を含む）（問17）

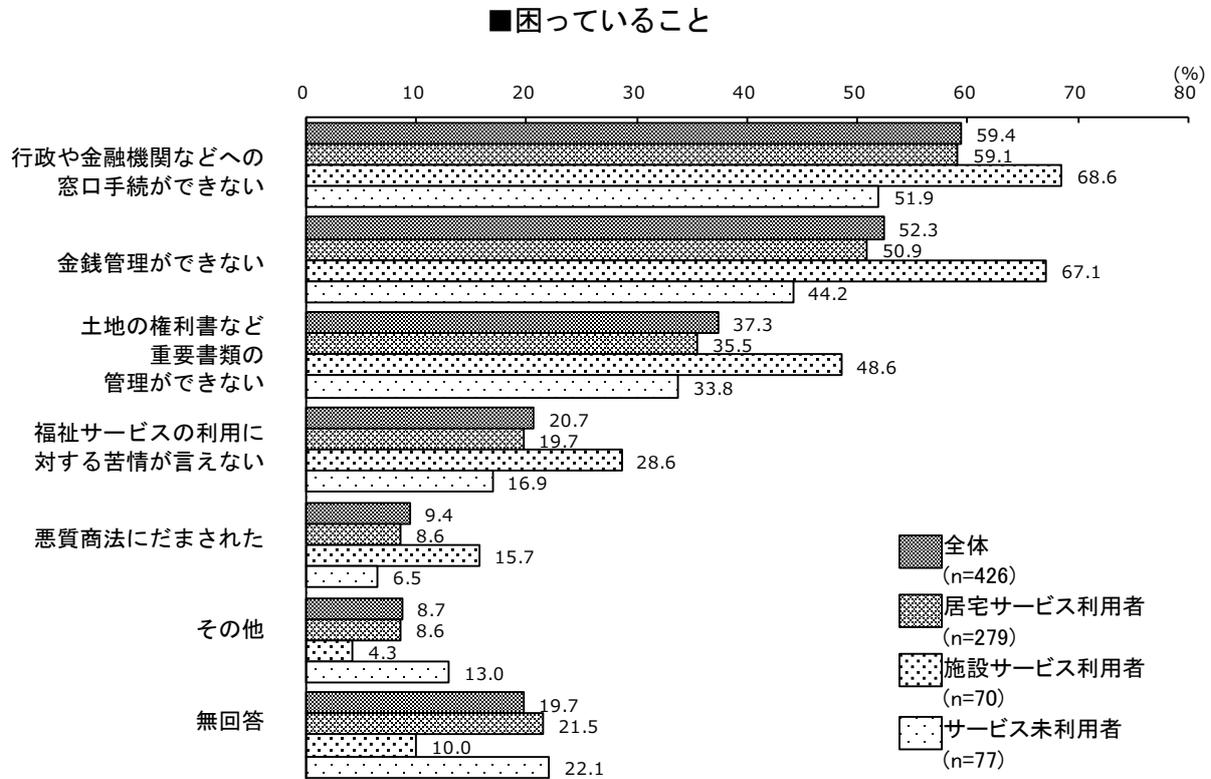
周囲で困っている人（本人を含む）は、「いない」（35.0%）が最も多い。困っている人の中では、「あなたご本人」（21.9%）が最も多く、「配偶者」（4.4%）、「子ども」（2.7%）が続いている。利用者種別にみると、全体的に施設サービス利用者が高くなっている。



(3) 困っていること (問17-1)

周囲で困っている人(本人を含む)がいると回答した人に困っていることをきいたところ、「行政や金融機関などへの窓口手続きができない」(59.4%)が最も多く、「金銭管理ができない」(52.3%)、「土地の権利書など重要書類の管理ができない」(37.3%)が続いている。

利用者種別にみると、全体的に施設サービス利用者が高くなっている。



8 高齢者保健福祉サービスについて

(1) 高齢者保健福祉サービスに関する利用状況、利用意向 (問18)

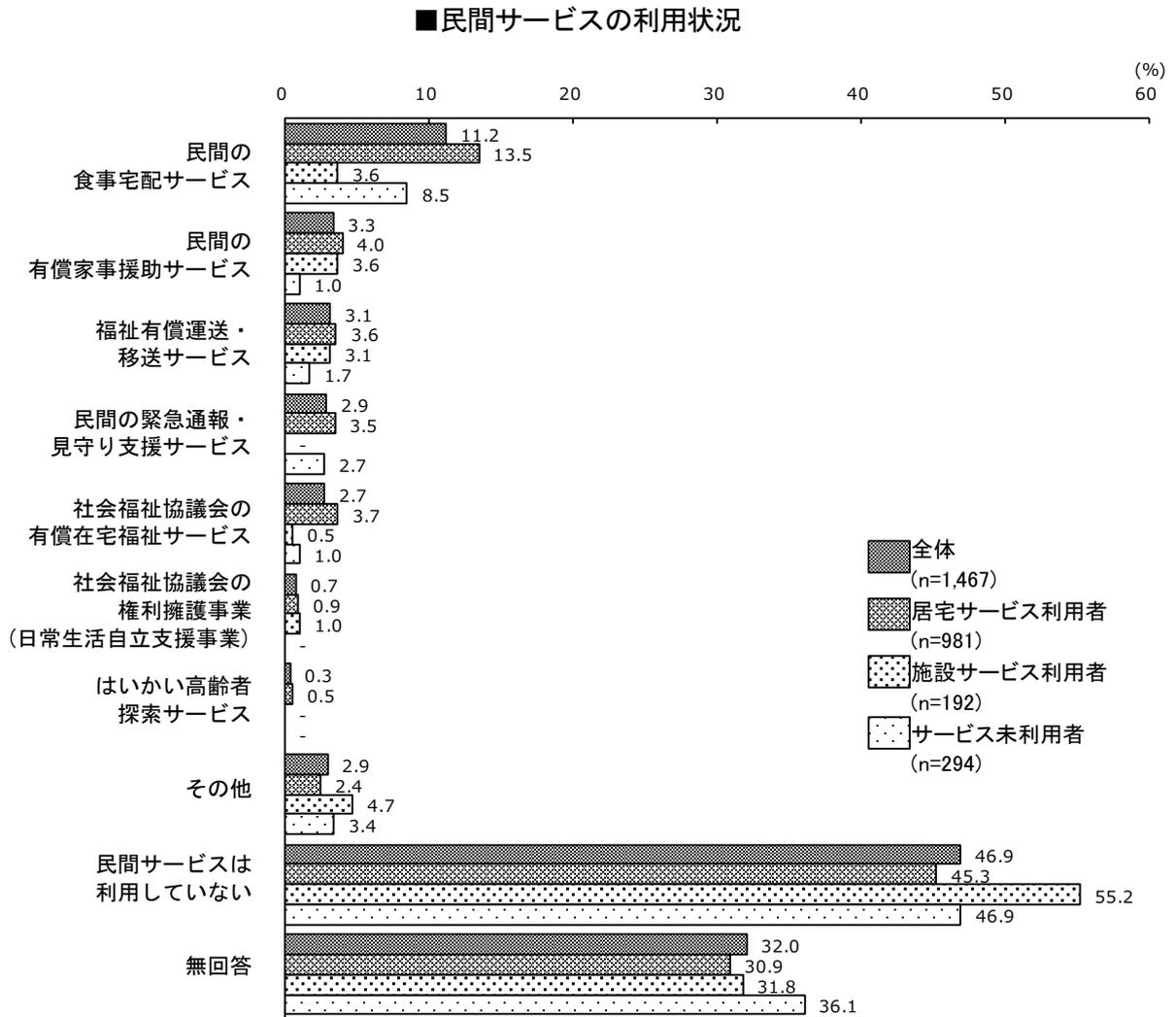
※整理中

■高齢者保健福祉サービスに関する利用状況、利用意向

2. 要支援・要介護認定者調査

(2) 民間サービスの利用状況 (問 19)

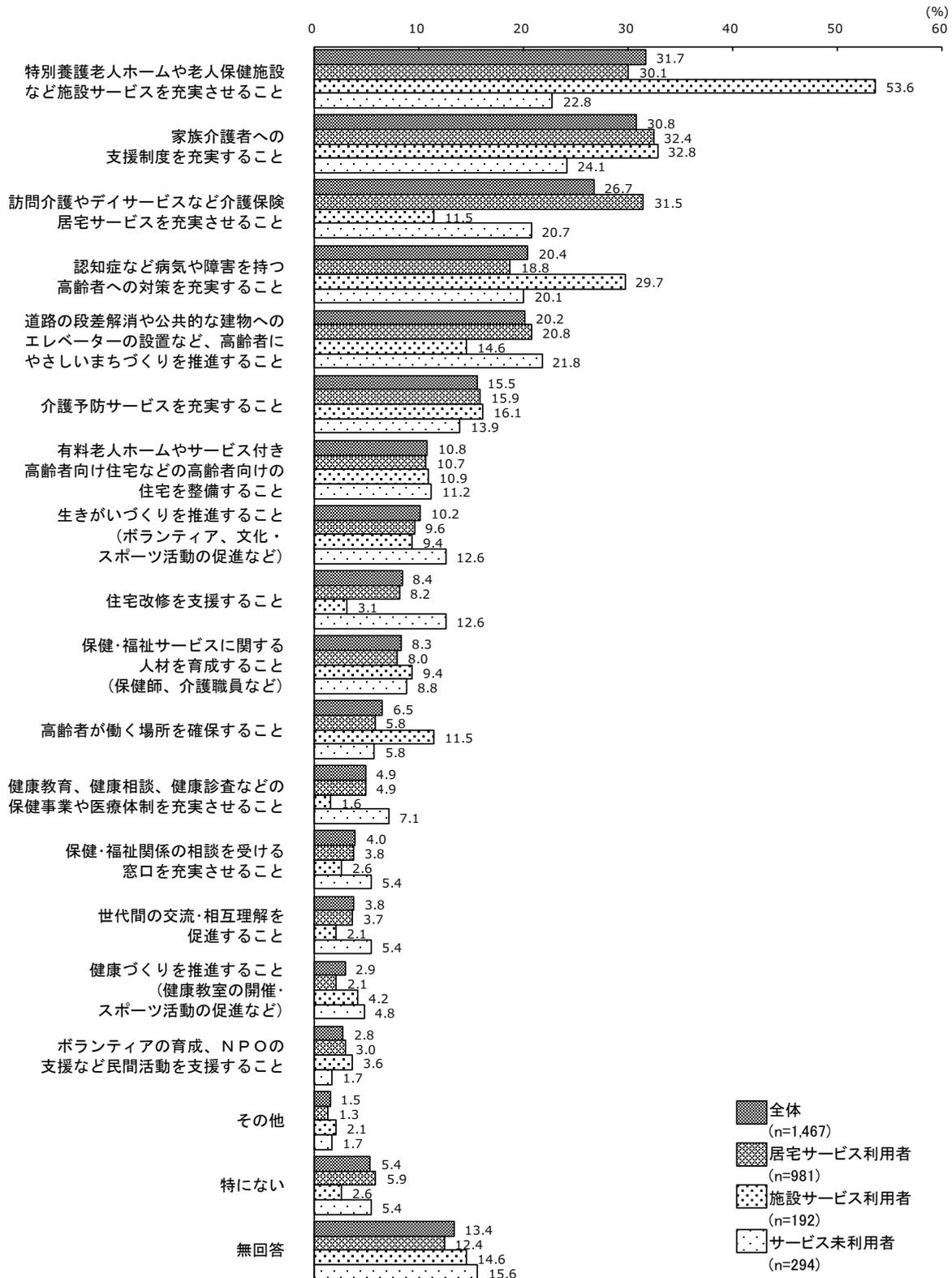
民間サービスの利用状況は、「民間の食事宅配サービス」(11.2%)が最も多く、「民間の有償家事援助サービス」(3.3%)、「福祉有償運送・移送サービス」(3.1%)が続いている。



(3) 府中市が優先して取り組むべきサービス（問 20）

府中市が優先して取り組むべきサービスは、「特別養護老人ホームや老人保健施設など施設サービスを充実させること」（31.7%）が最も多く、「家族介護者への支援制度を充実すること」（30.8%）、「訪問介護やデイサービスなど介護保険居宅サービスを充実させること」（26.7%）が続いている。利用者種別にみると、施設サービス利用者は「特別養護老人ホームや老人保健施設など施設サービスを充実させること」（53.6%）が全体に比べ高くなっている。

■府中市が優先して取り組むべきサービス



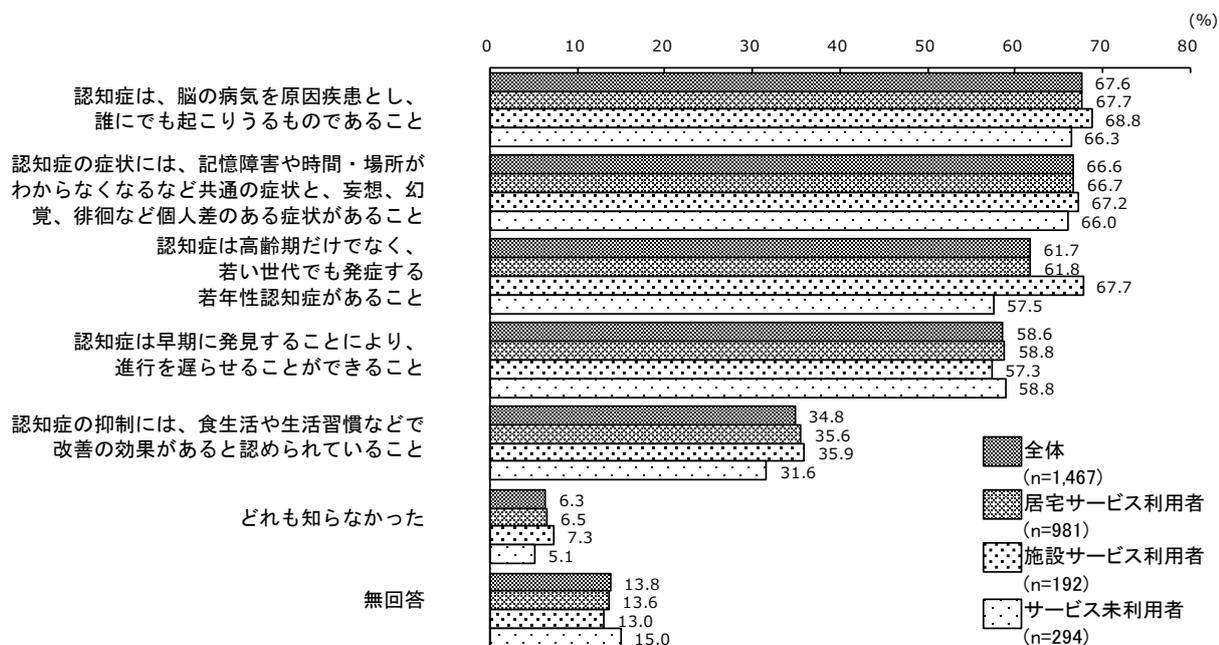
2. 要支援・要介護認定者調査

9 認知症について

(1) 認知症について知っていること (問 21)

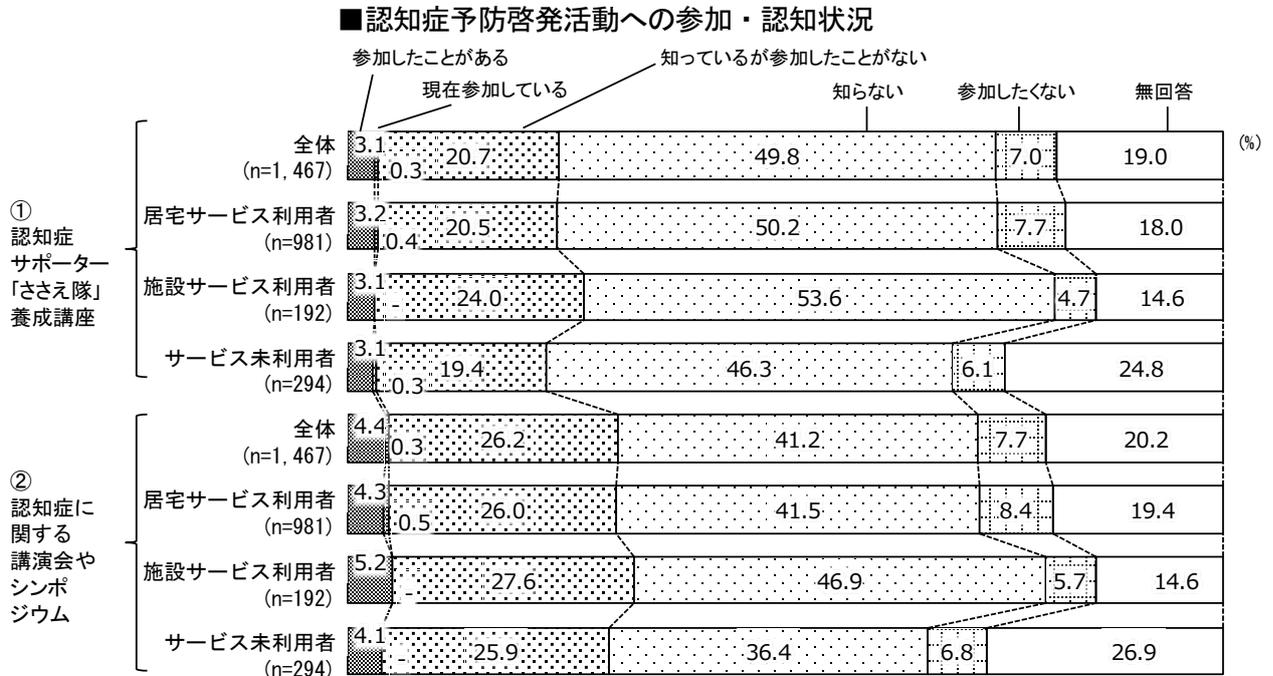
認知症について知っていることは、「認知症は、脳の病気を原因疾患とし、誰にでも起こりうるものであること」(67.6%)が最も多く、「認知症の症状には、記憶障害や時間・場所がわからなくなるなど共通の症状と、妄想、幻覚、徘徊など個人差のある症状があること」(66.6%)、「認知症は高齢期だけでなく、若い世代でも発症する若年性認知症があること」(61.7%)が続いている。

■認知症について知っていること



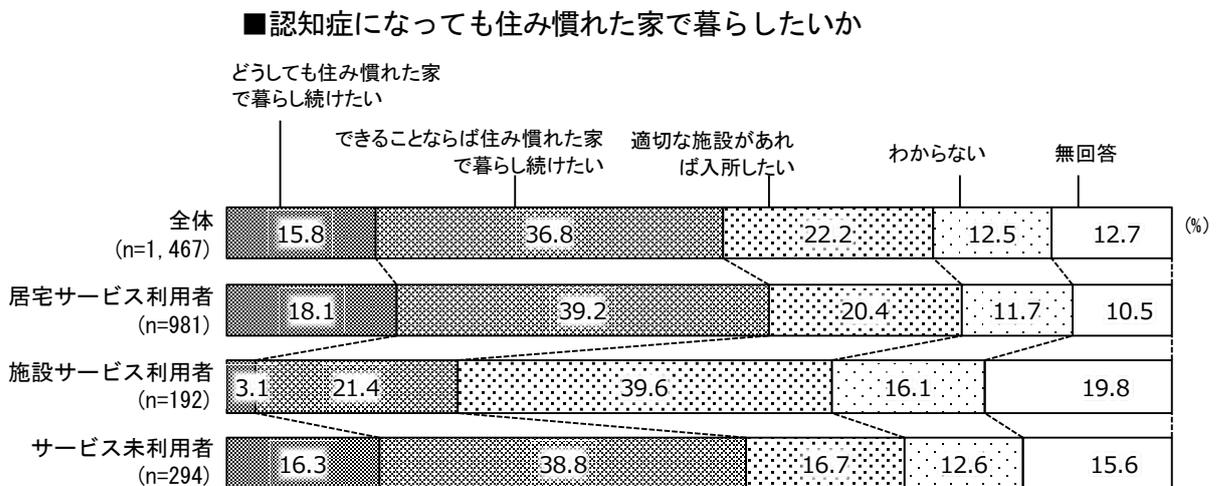
(2) 認知症予防啓発活動への参加・認知状況 (問 22)

認知症予防啓発活動について、「参加したことがある」「現在参加している」を合わせた“参加状況”は、『認知症サポーター「ささえ隊」養成講座』が 3.4%、『認知症に関する講演会やシンポジウム』が 4.7%となっている。「参加したことがある」「現在参加している」「知っているが参加したことがない」を合わせた“認知度”は、『認知症サポーター「ささえ隊」養成講座』が 24.1%、『認知症に関する講演会やシンポジウム』が 30.9%となっている。



(3) 認知症になっても住み慣れた家で暮らしたいか (問 23)

認知症になっても住み慣れた家で暮らしたいかは、「できることならば住み慣れた家で暮らし続けたい」(36.8%)が最も多く、「適切な施設があれば入所したい」(22.2%)、「どうしても住み慣れた家で暮らし続けたい」(15.8%)が続いている。



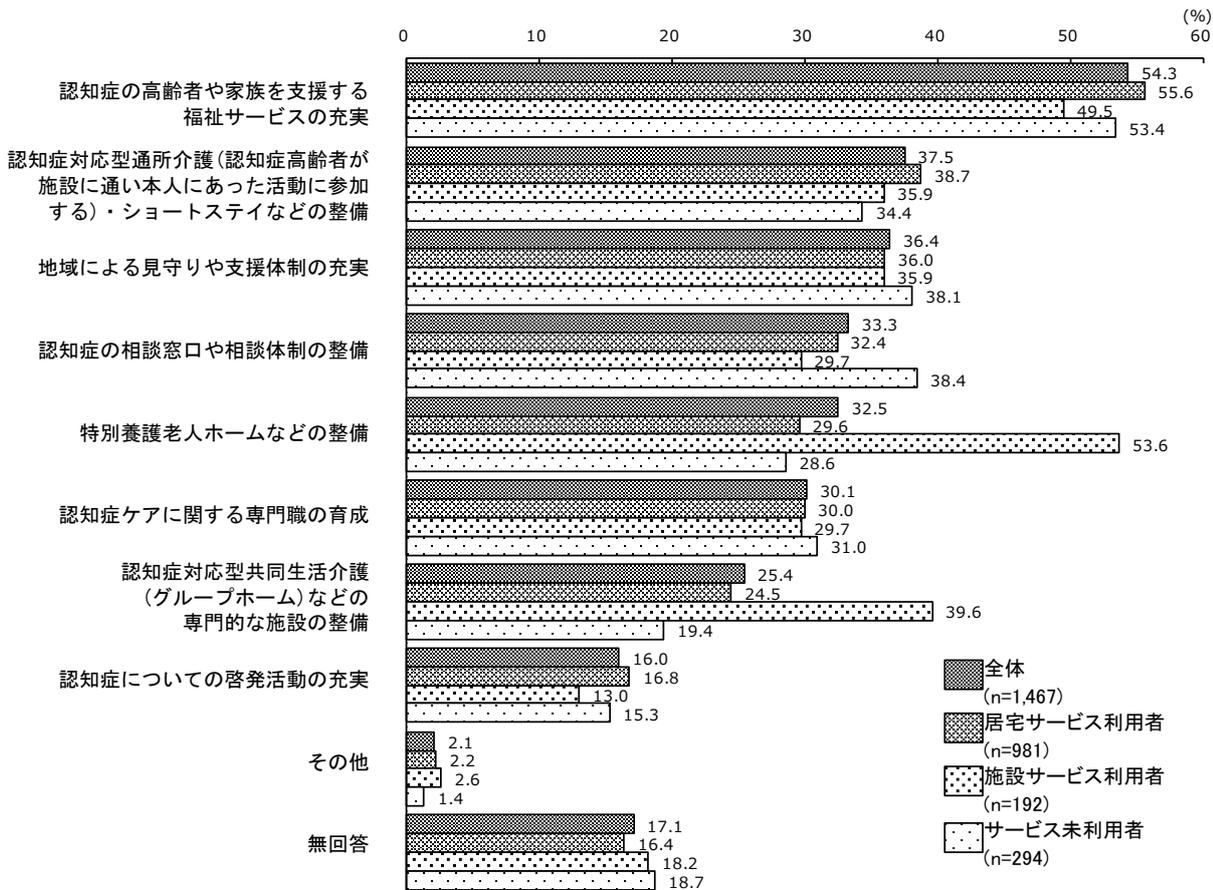
2. 要支援・要介護認定者調査

(4) 認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なこと (問 24)

認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なことは、「認知症の高齢者や家族を支援する福祉サービスの充実」(54.3%)が最も多く、「認知症対応型通所介護(認知症高齢者が施設に通い本人にあった活動に参加する)・ショートステイなどの整備」(37.5%)、「地域による見守りや支援体制の充実」(36.4%)が続いている。

利用者種別に見ると、施設サービス利用者は「特別養護老人ホームなどの整備」(53.6%)、「認知症対応型共同生活介護(グループホーム)などの専門的な施設の整備」(39.6%)が全体に比べ高くなっている。

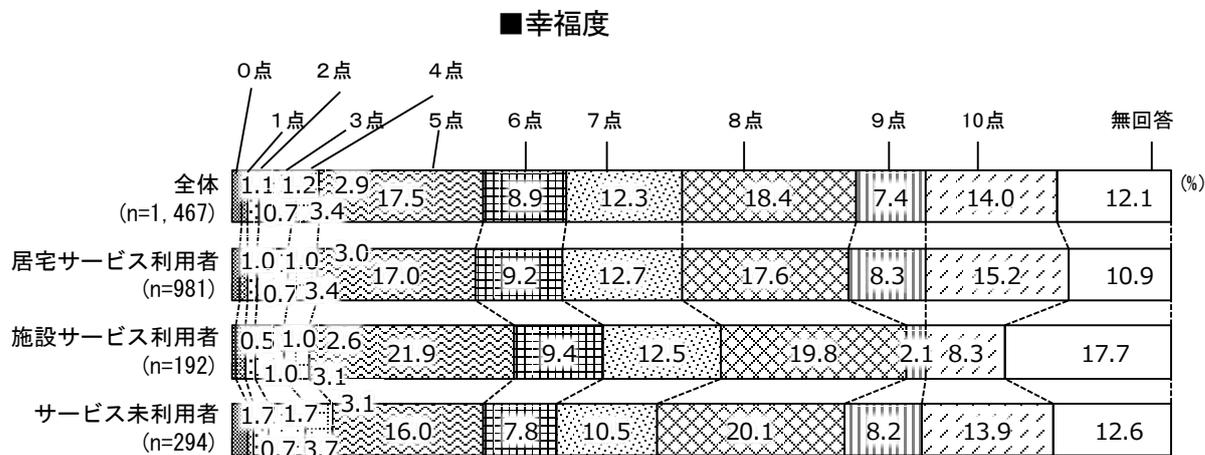
■ 認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なこと



10 日ごろの生活について

(1) 幸福度 (問 25)

幸福度は、「8点」(18.4%)が最も多く、「5点」(17.5%)、「10点」(14.0%)が続いている。5点以上で78.5%を占めており、平均6.9点となっている。

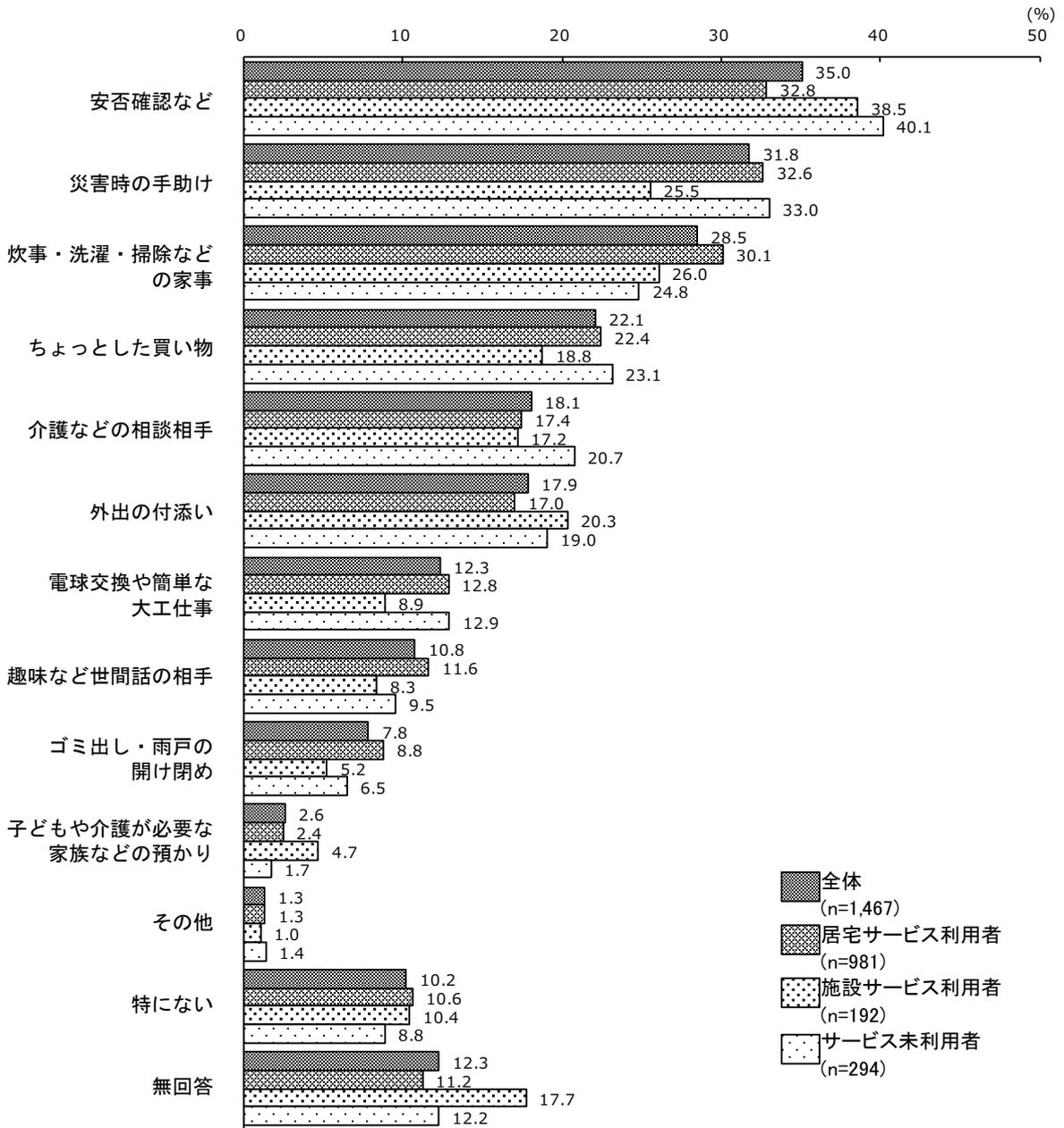


2. 要支援・要介護認定者調査

(2) 日常生活が不自由になったとき地域の人たちにしてほしい手助け (問 26)

日常生活が不自由になったとき地域の人たちにしてほしい手助けは、「安否確認など」(35.0%)が最も多く、「災害時の手助け」(31.8%)、「炊事・洗濯・掃除などの家事」(28.5%)が続いている。

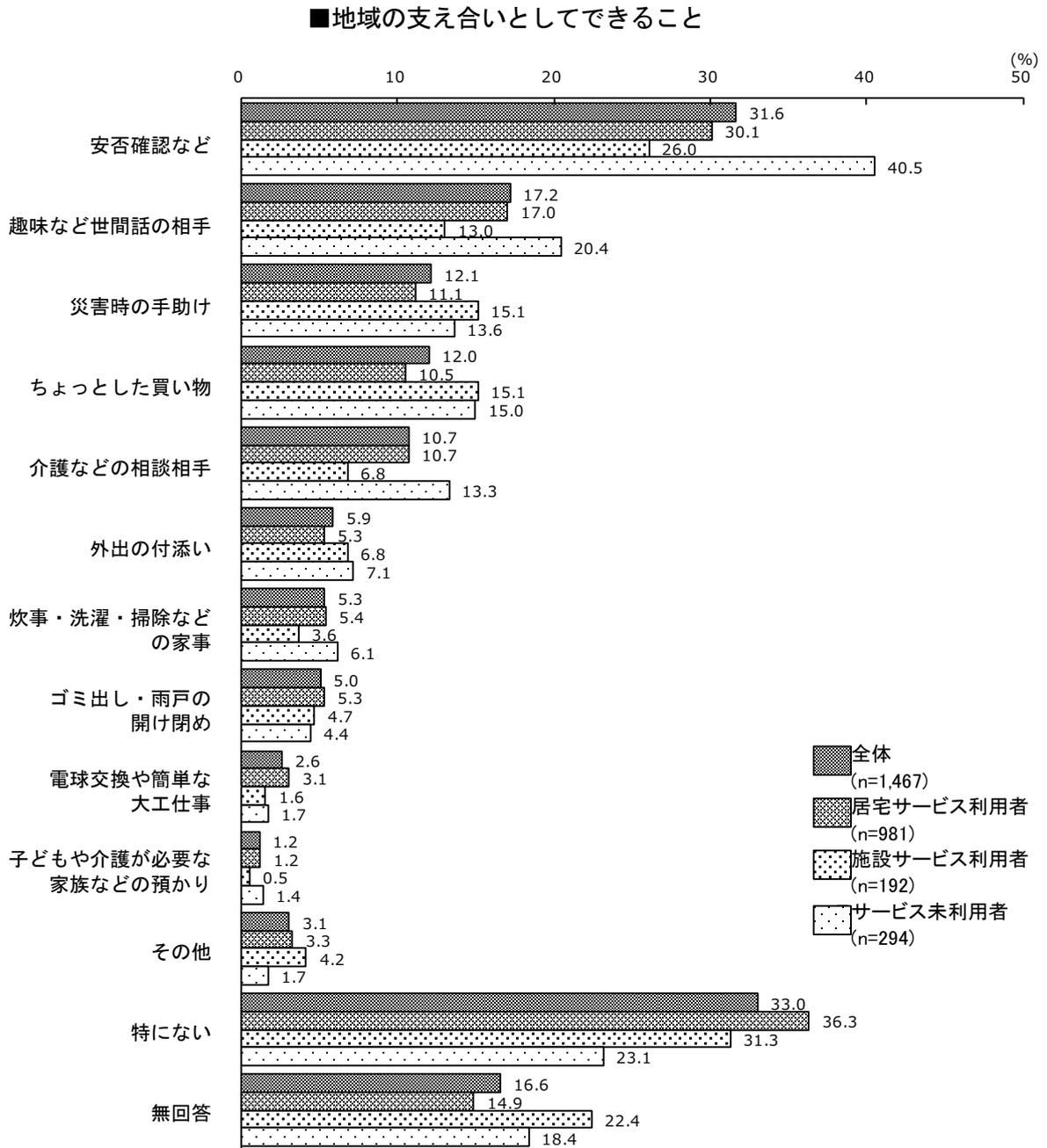
■日常生活が不自由になったとき地域の人たちにしてほしい手助け



(3) 地域の支え合いとしてできること (問27)

地域の支え合いとしてできることは、「安否確認など」(31.6%)が最も多く、「趣味など世間話の相手」(17.2%)、「災害時の手助け」(12.1%)が続いている。

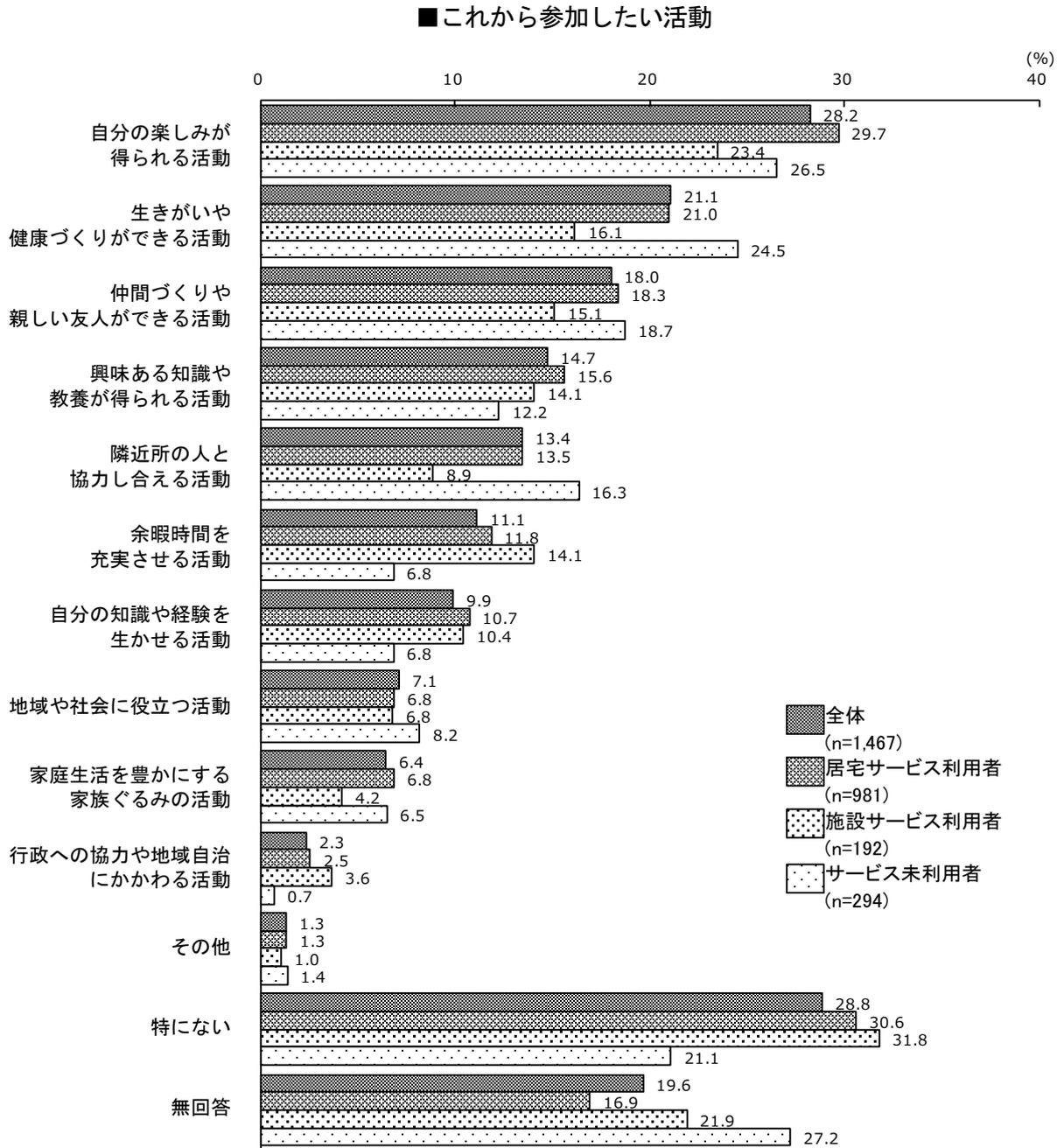
利用者種別にみると、サービス未利用者は「安否確認など」(40.5%)が全体に比べ高くなっている。



2. 要支援・要介護認定者調査

(4) これから参加したい活動（問28）

これから参加したい活動は、「自分の楽しみが得られる活動」（28.2%）が最も多く、「生きがいや健康づくりができる活動」（21.1%）、「仲間づくりや親しい友人ができる活動」（18.0%）が続いている。



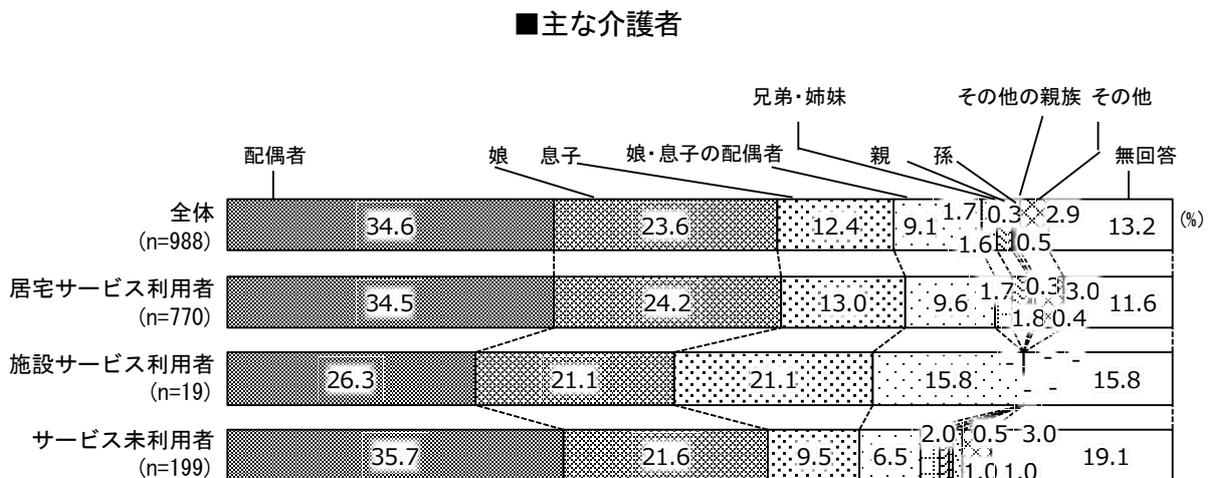
(5) 市の高齢者保健福祉サービスや介護保険制度についての意見・要望〈自由回答〉(問29)

※整理中

11 主な介護者の状況や意向について

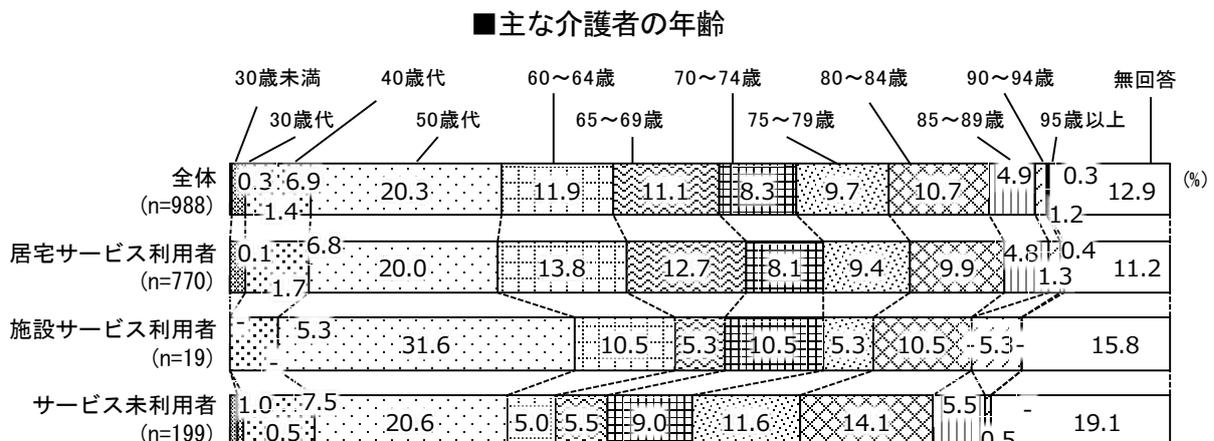
(1) 主な介護者(問30)

主な介護者は、「配偶者」(34.6%)が最も多く、「娘」(23.6%)、「息子」(12.4%)が続いている。



(2) 主な介護者の年齢(問31)

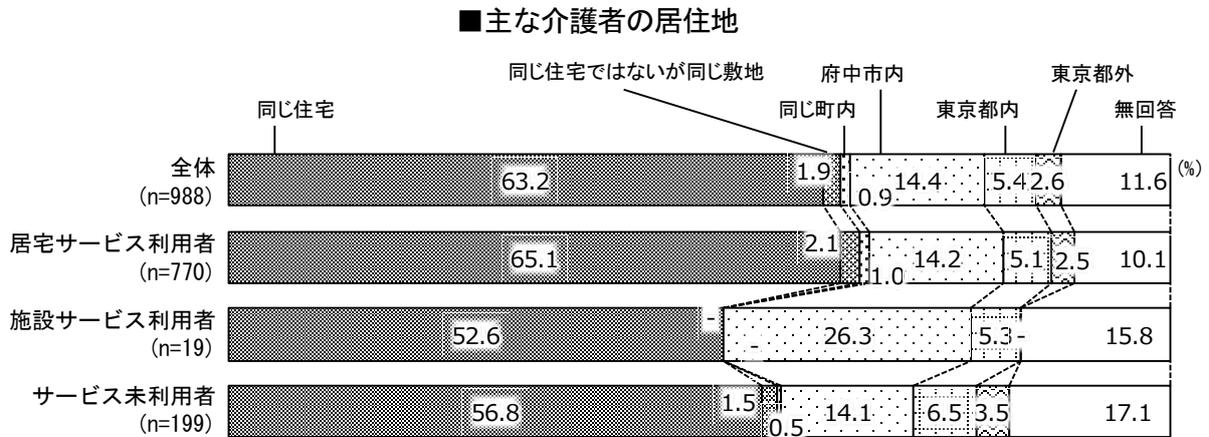
主な介護者の年齢は、「50歳代」(20.3%)が最も多く、「60~64歳」(11.9%)、「65~69歳」(11.1%)が続いている。



2. 要支援・要介護認定者調査

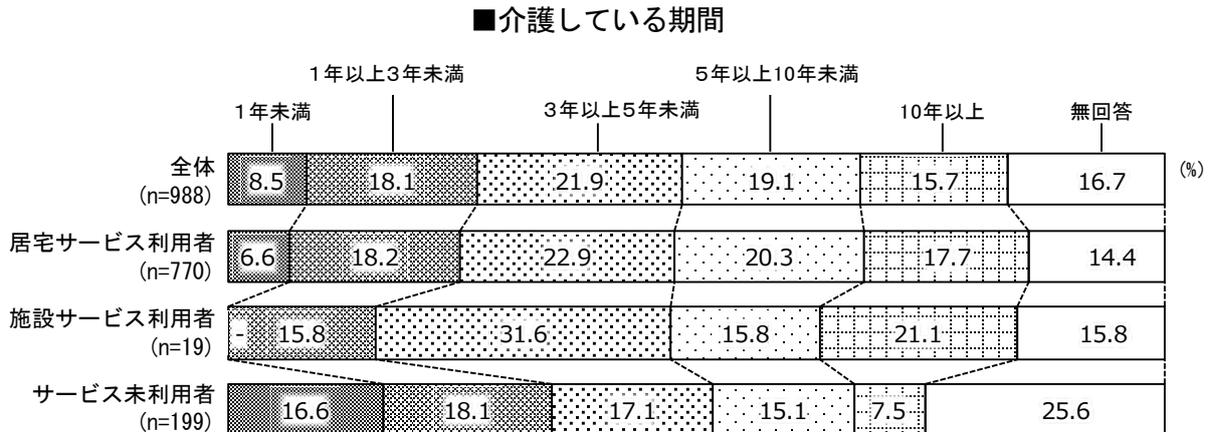
(3) 主な介護者の居住地 (問 32)

主な介護者の居住地は、「同じ住宅」(63.2%)が最も多く、「府中市内」(14.4%)、「東京都内」(5.4%)が続いている。



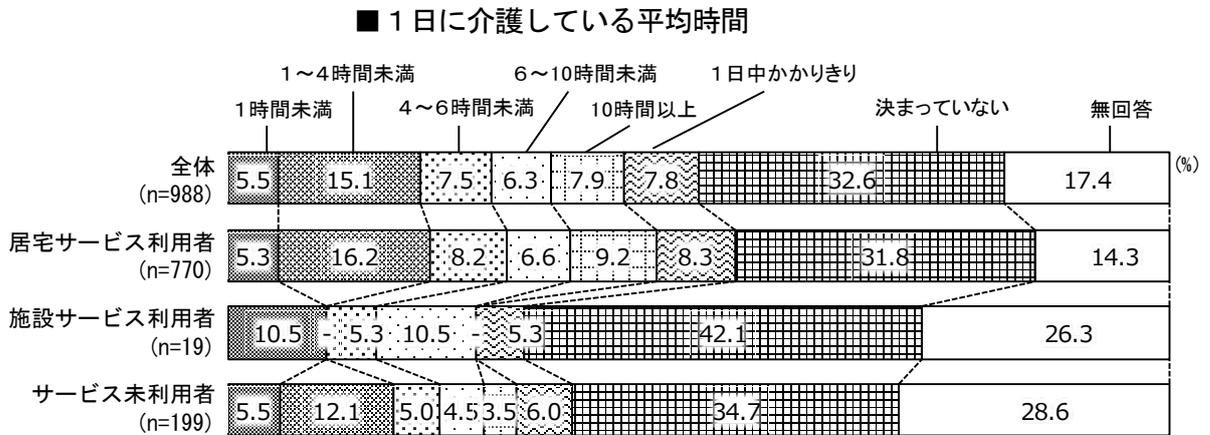
(4) 介護している期間 (問 33)

介護している期間は、「3年以上5年未満」(21.9%)が最も多く、「5年以上10年未満」(19.1%)、「1年以上3年未満」(18.1%)が続いている。



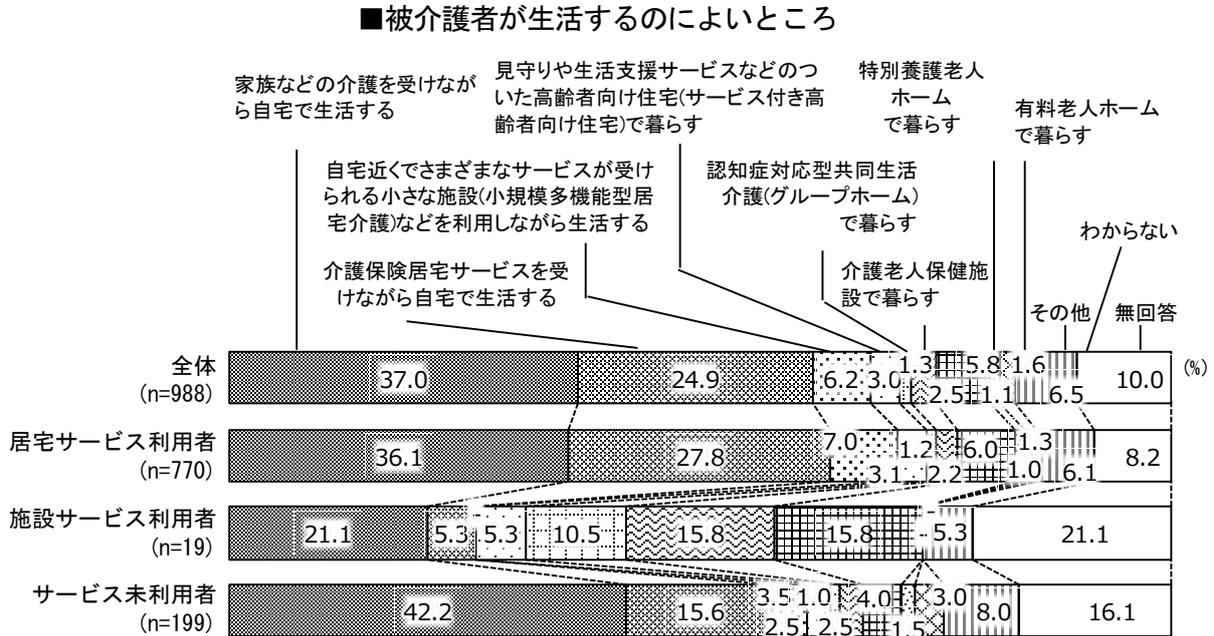
(5) 1日に介護している平均時間 (問 34)

1日に介護している平均時間は、「決まっていない」(32.6%)が最も多く、「1～4時間未満」(15.1%)、「10時間以上」(7.9%)が続いている。



(6) 被介護者が生活するのによいところ (問 35)

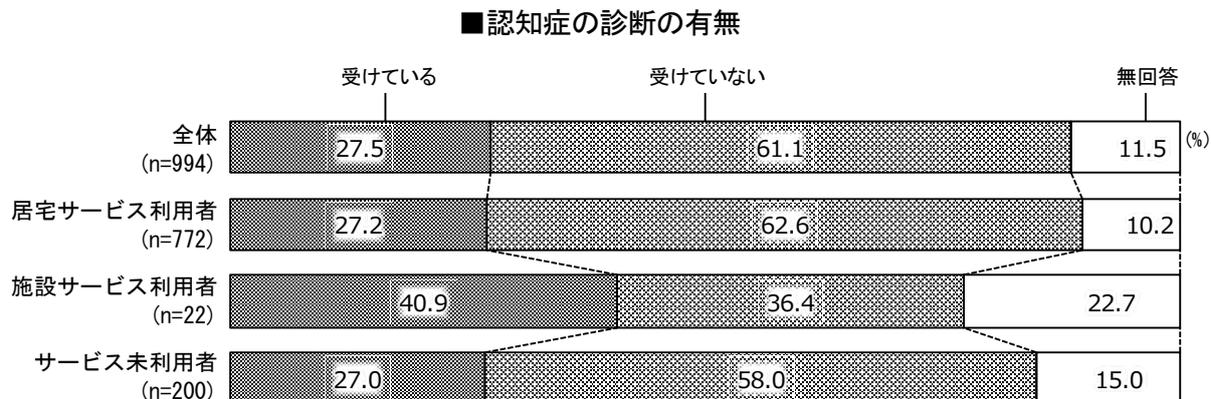
被介護者が生活するのによいところは、「家族などの介護を受けながら自宅で生活する」(37.0%)が最も多く、「介護保険居宅サービスを受けながら自宅で生活する」(24.9%)、「自宅近くでさまざまなサービスが受けられる小さな施設(小規模多機能型居宅介護)などを利用しながら生活する」(6.2%)が続いている。



2. 要支援・要介護認定者調査

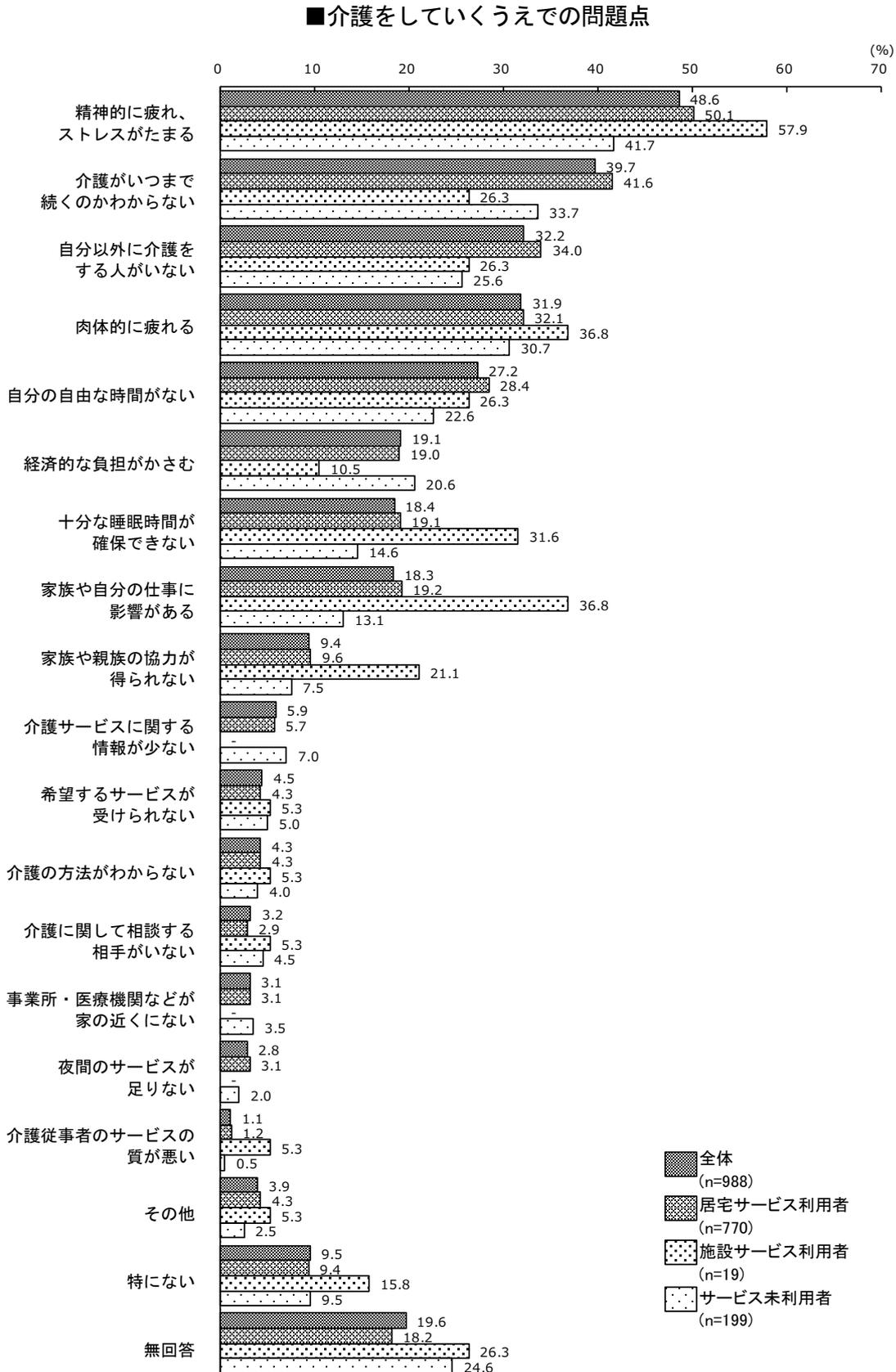
(7) 認知症の診断の有無 (問 36)

認知症の診断の有無は、「受けている」が27.5%、「受けていない」が61.1%となっている。



(8) 介護をしていくうえでの問題点 (問 37)

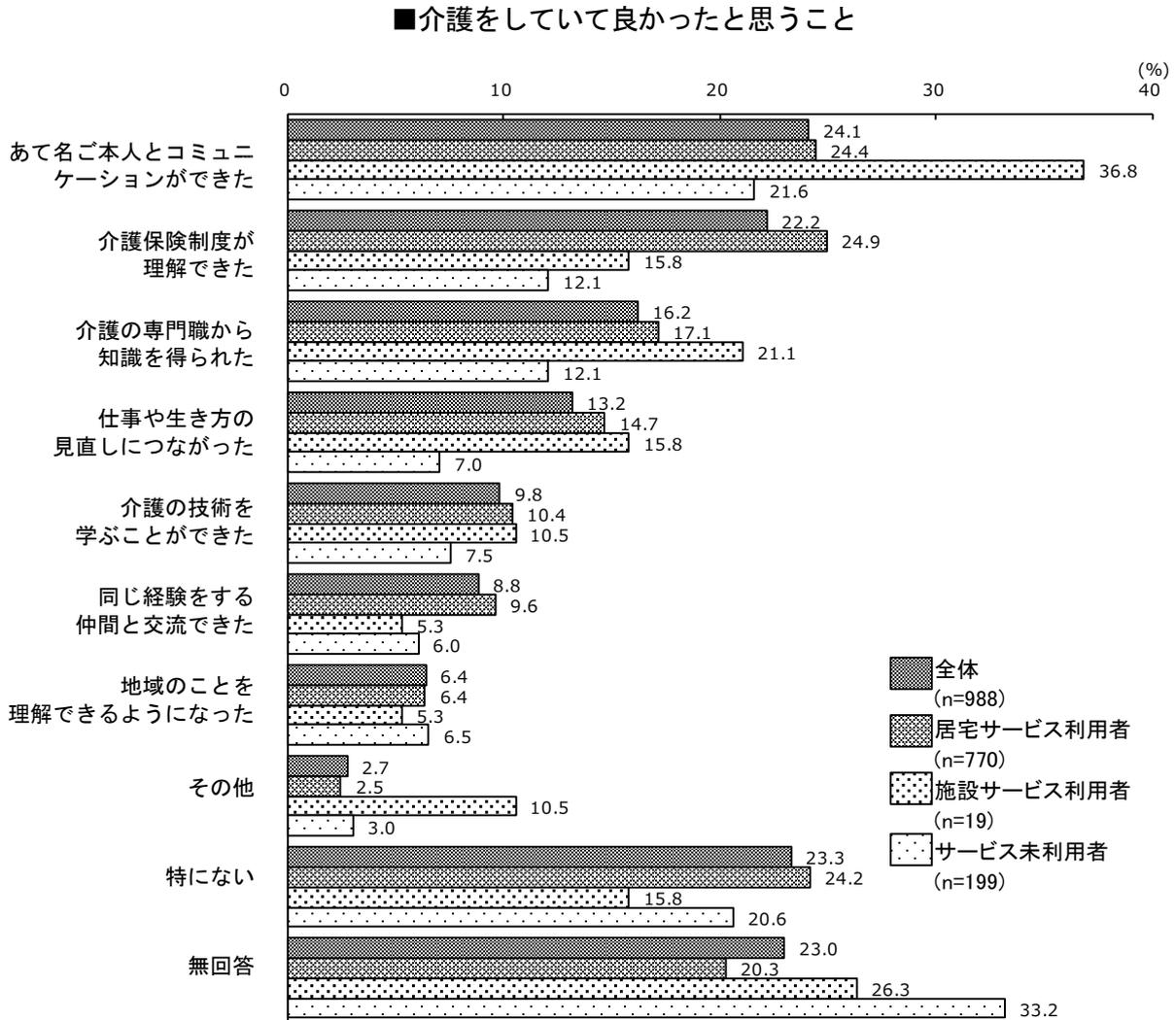
介護をしていくうえでの問題点は、「精神的に疲れ、ストレスがたまる」(48.6%)が最も多く、「介護がいつまで続くのかわからない」(39.7%)、「自分以外に介護をする人がいない」(32.2%)が続いている。



2. 要支援・要介護認定者調査

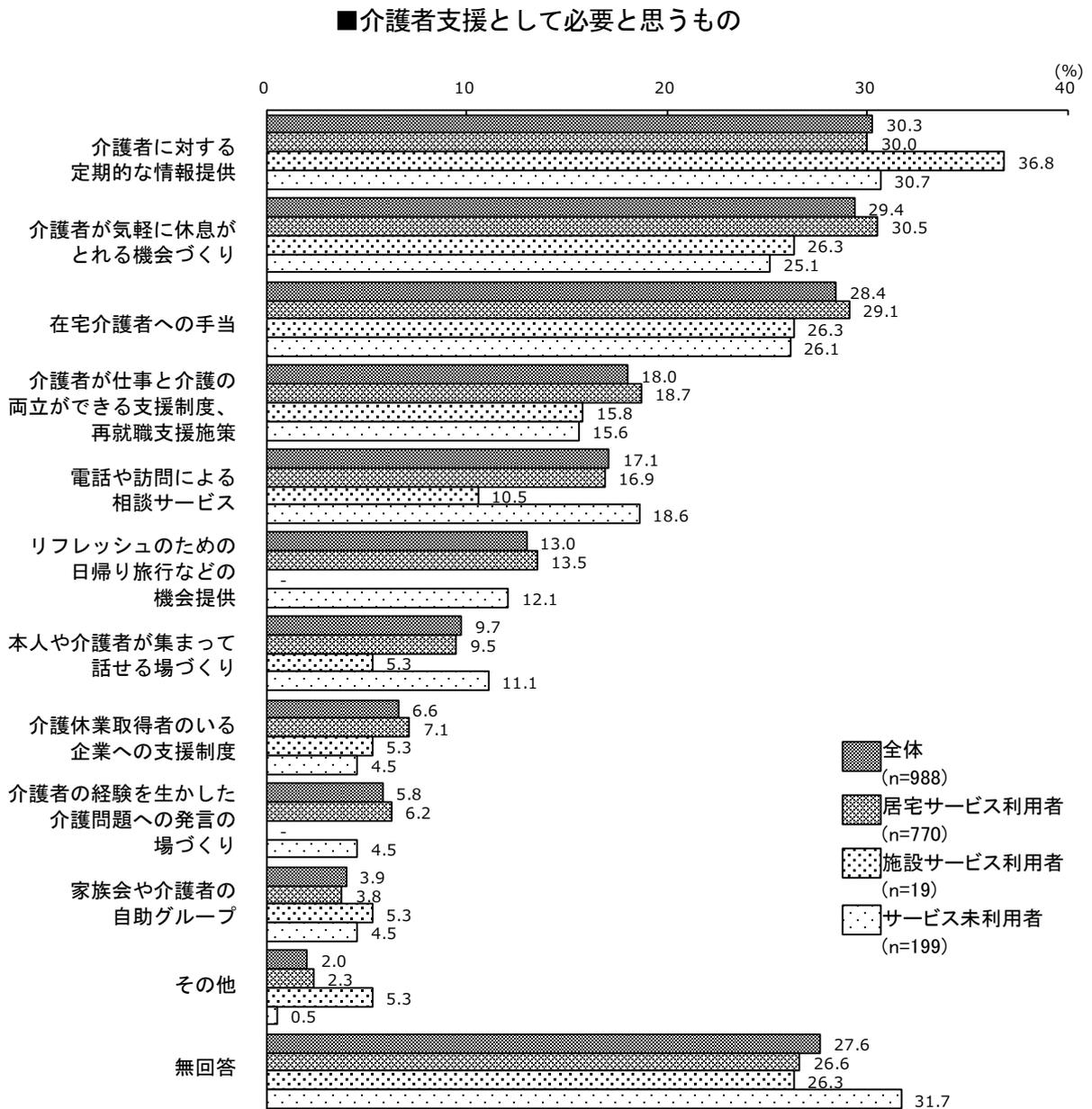
(9) 介護をしていて良かったと思うこと (問38)

介護をしていて良かったと思うことは、「あて名ご本人とコミュニケーションができた」(24.1%)が最も多く、「介護保険制度が理解できた」(22.2%)、「介護の専門職から知識を得られた」(16.2%)が続いている。



(10) 介護者支援として必要と思うもの（問 39）

介護者支援として必要と思うものは、「介護者に対する定期的な情報提供」（30.3%）が最も多く、「介護者が気軽に休息がとれる機会づくり」（29.4%）、「在宅介護者への手当」（28.4%）が続いている。



(11) 府中市への要望〈自由回答〉（問 40）

※整理中